

第八十六條 鑛業權消滅後一年内ハ農鑛部長及ヒ農鑛廳長カ必要ト認ムル場合原鑛業權者ヲシテ危險豫防ノ設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第七章 鑛 稅

第八十七條 鑛稅ハ左ノ三種ニ分ツ

- 一、鑛 區 稅
- 二、鑛 產 稅
- 三、鑛 業 所 得 稅

第八十八條 鑛區稅ハ地上租稅以外ノ稅トシ一畝ニ付毎年銀洋一角ヲ納付シ河底ニ在ル砂鑛ハ河道沿長十丈ニ付毎年銀洋一角ヲ納付スヘシ

前項鑛區稅ハ毎年二期ニ分チ納付スルモノトシ六月及ヒ十二月ニ次期分ヲ納付スヘシ

第八十九條 鑛產稅ハ出產地ノ平均市價ノ百分ノ一ヲ納付スヘシ

前項ノ鑛產稅ハ毎年三月前年度分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權力消滅シタルトキハ即時納付スヘシ

第九十條 鑛業登録後第三年ヨリ鑛區稅ヲ毎年四割宛遞加シ第七年ニ法定額ノ二倍ニ達シタルトキハ以後遞加ヲ爲サス納付スル鑛產稅額カ該年度ニ附加スヘキ鑛區稅額ニ達シタルトキハ附加稅ヲ免除スルコトヲ得  
前項ノ附加稅ハ鑛產稅ト同時ニ納付スヘシ

第九十一條 鑛業所得稅ハ鑛業純利益ヲ標準トス其ノ稅額左記ノ如シ

- 一、一千元以下千分ノ十五
  - 二、一千元以上五千元以下千分ノ二十
  - 三、五千元以上一萬元以下千分ノ二十五
  - 四、一萬元以上五萬元以下千分ノ三十
  - 五、五萬元以上十萬元以下千分ノ三十五
  - 六、十萬元以上五十萬元以下千分ノ四十
  - 七、五十萬元以上ハ五十萬元ヲ加フル毎ニ千分ノ十ヲ加フ但シ其ノ總額ハ純利益ノ千分ノ二百ヲ超過スルコトヲ得ス
- 前項ノ鑛業所得稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ

第九十二條 各地方政府ノ附加稅ハ鑛區稅額ノ百分ノ五鑛產稅額ノ百分ノ十ヲ超過スルコトヲ得ス

第九十三條 鑛稅ハ特別會計ニ屬セシメ鑛業行政及ヒ鑛業發展ノ經費トス

第八章 裁決、訴願及訴訟

第九十四條 鑛業ノ許可又ハ拒否ニ對シ不服アル者ハ農鑛部長ニ對シ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトストキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十五條 第二十條及ヒ第三十六條ノ協議ニヨリ解決シ能ハサル者ハ農鑛廳長ニ對シ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ農鑛部長ニ對シ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十六條 鑛業權ノ取消ニ對シ鑛業權者不服アル者ハ訴願ヲ農鑛部長ニ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十七條 鑛業權者ハ土地ノ使用又ハ補償金及ヒ擔保ノ協議調ハサル場合農鑛廳長ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得前項ノ土地使用ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ農鑛部長ニ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ補償金及ヒ擔保ノ裁決ニ不服アル者ハ民事訴訟法ニ依リ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十八條 處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ處分又ハ裁決ノ通知ノ日ヨリ六十日以内ニ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

通知ヲ受ケサルトキハ公示ノ後第十日ヨリ之ヲ起算ス

第九章 罰 則

第九十九條 詐欺ニ因リ鑛業權ヲ取得シ又ハ鑛業權ヲ取得セスシテ鑛物ヲ盜掘販賣シタルトキハ二年以下ノ有期徒刑又ハ二千元以下ノ罰金ニ處ス

第一百條 第四十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ前條ノ處罰ヲ準用ス

第一百一條 過失ニ因リ鑛區外ヲ探掘シタル者ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第一百二條 素ニ鑛業權ヲ讓渡シ又ハ抵當權ヲ設定シタル者ハ一千元以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 第三十一條ノ規定ニ違反シ又ハ第八十一條及第八十六條ノ命令ニ從ハサル者ハ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第一百四條 第四十條第二項、第六十八條、第七十條、第七十一條、第七十六條及ヒ第七十七條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 第四十八條、第六十九條、第七十二條、第七十三條、第七十四條及ヒ第七十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

第一百六條 當該官吏ノ鑛業ニ關スル書類又ハ物件ノ検査ヲ拒絶又ハ妨害シタル者ハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第一百七條 詐偽及其他ノ不正行爲ニ因リ鑛稅納付ヲ逃避シ又ハ之ヲ企圖シタル者ハ稅額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第一百八條 本法ノ規定ニ違反シ又ハ本法ニ依リ發スル命令ニ違反スル者ハ刑法ノ減輕、再犯、加重及ヒ累犯ノ規定ヲ適用セス

第一百九條 鑛業權者カ未成年者又ハ其ノ他ノ無能力者ナルトキハ本法所定ノ罰則ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ未成年者カ鑛業上成年者ト同等ノ能力アルトキハ此限ニ在ラス

第一百十條 鑛業權者ハ其ノ代理人雇人及ヒ其ノ他ノ從業者カ業務ニ關シテ本法ニ違反シタルトキ自己ノ意ニ出テサル故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十章 附 則

第一百一十條 本法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

民國三年三月十一日公布ノ鑛業條例ハ即日廢止ス

第一百一十二條 本法公布前執照ノ下付ヲ受ケタル鑛區ハ有效トス

前項鑛區ノ面積カ本法所定ノ最低限ニ達セサルトキハ擴張又ハ合併ヲ爲シ出願登錄スヘシ擴張又ハ合併ヲ欲セサルトキハ其ノ儘トス

第一百三十三條 本法公布前登錄ヲ爲シタル探鑛區ハ期限滿了ト共ニ消滅スルモノトス

第一百四十四條 本法公布前小鑛業暫行條例ニ依リ成立セル小鑛業ハ期限滿了後消滅スルモノトス但シ期限滿了前一回限り期限延長ヲ出願スルコトヲ得

租 田 法 (草案)

第一章 租 地 權

第一條 本法ニ稱スル所ノ租地權ハ耕作又ハ牧畜ヲ目的トスル土地ヲ賃借スル權利ニシテ業主ハ土地ノ所有者トシ佃戶ハ土地ノ使用者トス

第二條 本法ハ中華民國境內ノ公有地私有地ヲ論セス業主佃戶ノ間ニ於テ賃貸借關係ヲ有スル者ニ對シ均シク之ヲ

適用ス

第三條 業主ニ對スル佃戶間ノ小作行爲ハ契約ヲ以テ之ヲ定ム

契約紙ハ三聯式トシ政府之ヲ制定シ縣署ノ捺印編號ヲ經テ各鄉農民協會ニ送付シ佃戶其ノ交付ヲ受ケテ地方公正人(地方ノ信望アル者——譯者註)ノ保證ヲ求メテ式ニ照シテ記入捺印シ業主佃戶各一聯ヲ執リ其ノ餘ノ一聯ハ農民協會ニ送付シ農民協會ハ之ヲ取纏メテ縣署ニ差出スモノトス

農民協會ノ未タ設立セラレサル地方ニ於ケル前項ノ契約紙收發事務ハ該地鄉區行政機關之ヲ辦理ス

第四條 租地契約上ニ記載スヘキ各事項

- 一、土地ノ所在地
- 二、土地ノ面積
- 三、土地ノ種類(例ヘハ水田、旱田、桑園、菓樹園、茶園、池塘、其ノ他毎年收益ノ種類)
- 四、租 地 年 限
- 五、借地料ノ種類
- 六、佃戶ノ毎年納ムヘキ借地料額
- 七、借地料納付ノ時期及ヒ方法
- 八、保證金又ハ敷金ノ額

九、建物果實及ヒ耕作上ノ附屬物件ノ貸與及ヒ修理條件

一〇、業主 姓名

一一、佃戸 姓名

一二、證人 姓名

一三、契約年月日

第二章 租地權ノ存續

第五條 租地契約ノ最短期限ヲ五年トス

第六條 佃戸ハ業主ノ許可ヲ得スシテ借地ヲ轉貸スルコトヲ得ス

第三章 租地權ノ消滅

第七條 佃戸ハ已ムテ得サル事情アルトキハ契約期間内ニ業主ニ對シテ其ノ契約ノ解除ヲ求ムルコトヲ得

第八條 業主ハ契約期間内ニ故ナク土地ヲ取上クルコトヲ得ス但シ左記事由ノ一アル場合ハ契約ノ解除ヲ要求スル

コトヲ得

一、佃戸カ故ナク借地料ヲ納付セサルコト一年以上ニ及フ場合（凶年ハ此限リニアラス）

二、佃戸カ借地ニ對シテ故意ニ損害ヲ與フル行爲ヲナス場合例ヘハ間接肥料ヲ施用スル等ノ事實カ明瞭トナリタル如キ場合

三、佃戸カ故意ニ借地ヲ荒廢セシムル場合

四、佃戸カ業主ノ身體ノ安全ニ危害ヲ加ヘタル場合

五、佃戸ノ事故ニ因リ耕作人ナキニ至リタル場合

六、業主カ確實ニ借地ヲ自作セムトスル場合

七、仲裁機關カ解約ノ判決ヲナシタル場合

第九條 解約ハ六箇月前ニ通知スヘシ但シ契約ニ於テ別ニ其ノ期限ヲ定メタル場合ハ之ニ從フ

第十條 解約ハ主タル產物ノ收穫後ニ之ヲ行フヘシ

第十一條 包佃制ハ（小作請負制——同上）ハ直チニ之ヲ廢止スヘシ

第四章 小 作 料

第十二條 佃戸ハ小作料ヲ納入スル義務ヲ有ス

第十三條 小作料ハ主タル產物ノ收穫高ノ百分ノ四十ヲ超過スルコトヲ得ス但シ底地及ヒ灌溉不便ナル土地ノ小作料ハ最高百分ノ三十五ヲ超過スルコトヲ得ス（實際ノ數量ハ各地方政府ト其ノ土地ノ農民協會狀況ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

第十四條 佃戸ノ所用農具及ヒ耕牛肥料種子ヲ業主ヨリ供給スル場合ハ其ノ小作料ハ前條ノ規定額ヲ超過スルコトヲ得但シ其ノ超過額ハ僅カニ農具、耕牛、肥料、種子ニ對スル報酬ヲ以テ限度トス

第十五條 小作料カ前條ノ限度ヲ超過スル場合仲裁機關ノ判決アリタルトキハ業主ハ直チニ規定ニ從ヒテ減額スヘシ其ノ限度ヲ超過セサル場合ハ佃戸ハ小作料ノ減額ヲ要求スルコトヲ得ス（災害等ノ事故アル場合ハ此限ニ在ラス）

第十六條 業主ハ土質ノ不良ナルカ爲小作料ノ收入カ第十三條ニ規定スル標準ニ達セサル場合ニ於テモ其増額ヲ要求スルコトヲ得ス

第十七條 土地ニ附屬セル桑竹果木池塘等ヨリ毎年收益ヲ擧ケ得ル場合ニ於テモ特ニ約定ナキトキハ附帶小作料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十八條 業主カ小作料ヲ收納スルトキ契約ニ於テ定メタル數量以外別ニ名目ヲ立テ、額外ノ要求ヲナスコトヲ得ス又佃戸カ小作料ヲ納入スルトキ水ヲ混シ糞雜ヘ數量ヲ減少スル等ノ行爲アルコトヲ得ス

第十九條 小作料ノ納入ニ金錢ヲ用キ又ハ力役ヲ爲ス場合ハ前掲ノ標準ニ依リ契約時ノ市價ヲ以テ之ヲ計算スヘシ

第二十條 業主ハ豫メ小作料ヲ收ムルコトヲ得ス

第二十一條 小作料納入ノ時期ハ契約ニ定メタル所ニ從ヒ佃戸ニ不慮ノ事故アルトキハ業主ニ對シ延期ヲ求ムルコトヲ得但シ次回ノ納入期ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 小作料納入ニ使用スル秤秤ハ度量衡新制度ノ普及セサル地方ニ於テハ當分ノ中其ノ地ニ行ハル、モノヲ以テ主ト爲スヘシ

第二十三條 築堤、鑿井、堰ノ修理等ノ如キ土地ノ改良工事ハ業主ノ負擔トス但シ輕微ナル工事ニシテ各地ノ慣習カ佃戸ノ負擔トナスモノハ其ノ慣習ニ從フ

第五章 證 金

第二十四條 保證金又ハ敷金ハ多クモ一年ノ小作料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ當事者雙方カ敷金ヲ増加シテ小作料ヲ減額スルコトヲ協定シタル場合ハ此限ニ在ラス

### 第六章 損害賠償

第二十五條 本法第八條第二第三兩款ノ規定ニ依リ解約スル場合ハ業主ハ佃戸ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得第五款ノ規定ニ依リ解約スル場合佃戸カ土地ノ特殊ナル改良ヲナシ未タ利益ヲ享受セサルトキハ業主ニ對シ確實ニ未回収ノ費用ノ補償ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 佃戸カ中途解約スル場合佃戸カ借地ニ對シ確實ニ特殊ノ改良ヲナシ未タ完全ニ其ノ報酬ヲ享受セサルトキハ後ノ佃戸ハ前ノ佃戸ニ對シ未享受ノ費用ヲ補償スヘシ

第二十七條 契約期間内ニ業主カ土地ヲ他人ニ轉賣シタルトキハ其ノ契約ハ新業主ニ對シ同様ノ効力ヲ有スルモノトス

第二十八條 契約期間内ニ災害ニヨリ收穫ノ減少シタルトキハ佃戸ハ災害發生ノ時之ヲ業主ニ報告シ土地ノ公正人トノ共同踏査ヲ請ヒ其ノ被害額ニ憑リ小作料ノ減額ヲ要求スルコトヲ得

第二十九條 本法第二十一條ノ規定ニ依リ小作料納入期ヲ延期シタルトキハ佃戸ニ對シ延期期間中年五分ノ利息ヲ要求スルコトヲ得

第三十條 本法第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ニヨル佃戸ノ業主ニ對スル損害賠償並ニ業主及ヒ後ノ佃戸ノ前ノ佃戸ニ補償スヘキ費用ハ土地ノ公正ナル第三者ノ共同鑑定ヲ求メテ協定スヘシ

第三十一條 業主佃戸間ニ發生シタル紛糾ハ總テ佃租仲裁委員會之ヲ仲裁ス

第三十二條 仲裁條例ハ別ニ之ヲ定ム

第三十三條 本法ノ施行細則ハ別ニ之ヲ定ム

第三十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 國民政府農礦部直轄國營鑛冶業機關會計主任辦事規則

民國十七年五月國民政府公報第五十七期公布

- 一 國民政府農礦部直轄國營鑛冶業機關ノ會計主任ハ各該機關總事務所所在地ニ駐在スヘシ
- 二 前項機關ノ會計統計事務ハ各該機關ノ長官會計主任ト會同シテ辦理スヘシ
- 三 前項機關ノ長官ハ會計人員ノ任免ニ對シ會計主任ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ會計主任ハ會計人員ノ任免ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得分機關アルトキ亦同シ

#### 四 會計主任ノ職權左ノ如シ

- 甲 會計人員ノ會計統計事務監督ニ關スル事項
- 乙 統計會計整理ニ關スル事項
- 丙 帳簿記入方式指導ニ關スル事項
- 丁 金錢出納検査ニ關スル事項
- 戊 現金及ヒ會計係用品ノ保管ニ關スル事項
- 己 歲入歲出豫算ニ關スル事項
- 庚 營業資本計算ニ關スル事項
- 辛 官有株又ハ民有株ニ對スル利益配當ニ關スル事項
- 壬 鑛產物產額及ヒ賣上高ノ比較ニ關スル事項
- 癸 各種報告及ヒ毎月ノ支出決算及ヒ會計年度總決算ニ關スル事項
- 五 會計主任ハ事務ノ繁簡ニ從ヒ課ヲ分チテ執務スルコトヲ得
- 六 會計主任ハ駐在機關ノ會計人員ニ對シ人ヲ派シテ巡回視察セシメ並ニ會計統計會議ヲ召集スルコトヲ得
- 七 會計統計會議ハ每年少クトモ一回召集シ每年度總決算ノ一箇月前ニ之ヲ行ヒ特別ノ事項アルトキハ臨時召集ヲナスコトヲ得

八 會計主任ハ毎月會計狀況ヲ本部ニ報告スル外半年毎ニ一回決算ヲナシ一年毎ニ一回ノ總決算ヲナスモノトス  
 九 各該機關ハ總決算ノ時左ノ如キ報告表ヲ作成スヘシ

- 一 該年度營業報告表
- 二 次年度營業概算書
- 三 財產目錄
- 四 資產負債表
- 五 損益表
- 六 利益配當案
- 七 各種支出報告表
- 八 營業資本計算報告表
- 一〇 會計主任ハ各種報告三部ヲ作成シ一部ハ該駐在機關ニ保存シ二部ヲ本部ニ送ルモノトス但シ分機關ニ於テハ四部ヲ作成シ一部ヲ各該機關ニ保存シ餘ハ總機關ニ送リテ前項ノ如ク處置スルモノトス
- 一一 會計主任ハ各駐在機關ノ收支ニ對シ小出納帳ヲ備ヘ該機關ノ發受物品ニ對シ用品分記帳ヲ備フルコトヲ要ス
- 一二 會計主任職責ヲ盡スコト能ハス又ハ其ノ任ニ勝ヘス又ハ過失及ヒ法規違反ノ行爲アルトキハ各機關長官ハ其ノ都度之ヲ本部ニ上申シ本部ハ員ヲ派シテ調査ノ上情狀ノ輕重ニ從ツテ懲戒スルモノトス

- 一三 會計主任ハ駐在機關ノ會計事項ニ對シテ意見ヲ述ヘ並ニ該年度會計ノ得失及ヒ來年度ノ改良方法ニ對シ各別ニ具陳スルコトヲ要ス
- 一四 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 國民政府農礦部直轄國營鑛冶業機關會計主任暫行條例

民國十七年五月國民政府公報第五十八期公布

- 一 國民政府農礦部管轄國營鑛冶業機關ニ會計主任一人ヲ置キ部長之ヲ任命シ該機關長官ノ命ヲ承ケテ各該機關ノ會計統計事務ヲ掌理ス
- 二 會計主任ノ職權左ノ如シ
  - 甲 會計統計人員ノ監督指揮
  - 乙 會計統計事項ノ整理
  - 丙 金錢出納ノ審査
  - 三 各該機關ノ金錢出納ニハ會計主任署名捺印スヘシ
  - 四 特ニ金錢ヲ使用スル場合ハ各該機關長官カ會計主任ト會同シ緩急ニ應シテ文書又ハ電報ヲ以テ部ニ申請シ許可ヲ得テ方メテ支出スルコトヲ得

國民政府の産業政策

1100

- 五 金錢ニ關スル文書帳簿報告書ニハ會計主任署名捺印シ連帶シテ責任ヲ負フヘシ
- 六 農鑛部カ會計規定及ヒ會計規則ヲ頒布スル以前ニ於テハ一切ノ出納手續ヲ財政部ノ公布セル會計手續ニ準據シテ辦理スヘシ
- 七 會計主任ノ辦事規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 八 本條例ハ公布ノ日ヨリ施行ス

國民政府農鑛部視察員服務規則

民國十七年五月國民政府公報第五十八期公布

- 第一條 國民政府農鑛部ハ國內各地ノ農鑛狀況ヲ視察スル爲視察員若干人ヲ特置ス
- 第二條 視察員出發ノ時ハ旅費手當ヲ受領スルコトヲ得
- 第三條 視察員ノ視察區域ハ出發ノ時部令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 視察員ノ視察スヘキ事項左ノ如シ
  - 甲 農林漁牧墾務ノ進行狀況
  - 乙 農林漁牧墾務各團體ノ組織狀況
  - 丙 農民ノ經濟教育狀況

丁 鑛冶業ノ進行狀況

戊 鑛區警察及ヒ鑛夫待遇狀況

己 其ノ他農鑛行政狀況

- 第五條 視察員出張ノ時ハ豫メ路程及ヒ日程ヲ計リ部長ニ申請シテ旅費手當ノ査定ヲ得、事竣リテ後規定ニ從ツテ旅費支出表ヲ作成シ各種證據書類ト共ニ之ヲ部ニ提出スヘシ
- 第六條 視察員ハ主管處司ニ就キテ文書ヲ査閱スルコトヲ得、但シ其ノ視察範圍ニ關スルモノヲ以テ限リト爲ス
- 第七條 視察員ハ視察ノ結果ヲ文書ニ認メテ詳細ニ報告シ利弊興革事項ニ關シテハ隨時意見ヲ具シテ部長ニ提出スヘシ
- 上項ノ報告又ハ意見カ機密ニ屬シ又ハ緊急ヲ要スルトキハ適宜普通又ハ暗號電報ヲ用ウルコトヲ得
- 第八條 視察員ハ必要アルトキハ臨時書記ヲ雇用スルコトヲ得、但シ支出セル金額ハ部長ニ報告シテ許可ヲ得ヘシ
- 第九條 視察員ハ必要アルトキハ各地農鑛機關ノ帳簿書類ヲ査閱スルコトヲ得
- 第十條 視察員ハ左記各事項アル場合各主管者ニ對シ意見ヲ表示スルコトヲ得
  - 甲 法律ト牴觸スル事項
  - 乙 部議ノ決定シタル事項
  - 丙 利弊ノ興革スヘキ事項

第六章 産業關係法令

1101



國民政府の産業政策

丁 部長ノ特命指示シタル事項

第十一條 視察員カ出張視察スルトキハ通信地點ヲ選定シテ部長ニ報告スヘシ

第十二條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

各鑛局公司督辦監督條例

民國十七年六月二十九日公布

第一條 國民政府農鑛部ハ各鑛局公司ニ對シ必要ト認メタルトキハ督辦又ハ監督一人ヲ置キ常ニ各鑛局公司ニ駐在シテ各項ノ事務ヲ處理スルコトヲ得

第二條 督辦監督ハ農鑛部長之ヲ任命シ又ハ農鑛部長ヨリ國民政府ニ之カ選任ヲ申請スルコトヲ得

第三條 督辦監督ノ辦事機關ヲ國民政府農鑛部某某鑛督辦處又ハ監督處ト稱ス

第四條 督辦監督ノ職權ハ原有規定ヲ除クノ外其ノ範圍左ノ如シ

- 一 帳簿財產ノ清查ニ關スル事項
- 二 逆股商股ノ整理ニ關スル事項
- 三 資本ノ登記ニ關スル事項
- 四 官有資本ノ處理ニ關スル事項

五 外國資本ノ審査ニ關スル事項

六 工事設計及ヒ改良ニ關スル事項

七 營業考查ニ關スル事項

八 輸送管理ニ關スル事項

九 鑛稅徵收ニ關スル事項

十 業務擴充ニ關スル事項

一一 用途ノ擴張ニ關スル事項

一二 其ノ他農鑛部ノ命令ニ關スル事項

第五條 督辦監督カ處理ヲ行フヘキ各項ノ事務ニ對シ各鑛局公司ハ一致遵從シテ阻碍、欺罔、隱匿ノ事アルヲ得ス

第六條 督辦監督ハ各鑛局公司ニ從來長官ノ名義ト職權トヲ有スル者アル場合農鑛部長ニ申請シテ之カ存置、交迭

又ハ撤廢ノ査定ヲ求ムルコトヲ得

第七條 督辦監督處ノ職員ハ各鑛局公司ノ從來ノ職員中ヨリ各別ニ任免スルコトヲ得但シ必要アルトキハ適宜秘書

主任等ヲ置キ職務ヲ分擔セシムルコトヲ得

第八條 前項ノ秘書、主任等ハ農鑛部長之ヲ任命シ又ハ督辦監督ヨリ農鑛部長ニ申請シテ之ヲ採用スルコトヲ得

第九條 督辦監督處ノ組織及ヒ辦事規則ハ督辦監督之ヲ起案シ農鑛部ニ申請シテ認可ヲ得ルモノトス

- 第十條 督辦監督處ノ經費ハ從來規定アル場合ノ外各鑛局公司ノ負擔トシ並ニ督辦監督ニ於テ豫算ヲ編成シ農鑛部長ニ報告シテ認可ヲ得ルモノトス
- 第十一條 督辦監督ハ必要アルトキハ農鑛部長ノ認可ヲ得テ交通便利ノ地點ニ分處、倉庫輸送管理ヲ設立スルコトヲ得其ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十二條 督辦監督ハ各鑛局公司ニ於ケル改革スヘキ事項ニ對シ意見ヲ列舉シテ農鑛部長ニ具陳シ審査ヲ經テ之ヲ實施スルコトヲ得
- 第十三條 本條例事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ隨時農鑛部長之ヲ審査改正スルモノトス
- 第十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 農鑛部清查各鑛冶業公司、局、廠股本暫行條例

民國十七年七月十九日公布

- 第一條 國民政府農鑛部ハ各鑛冶業公司、局、廠ノ資本ニ對シ必要ト認メタルトキハ本條例ノ規定ニ依リ之ヲ清查スルコトヲ得
- 第二條 各鑛冶業公司、局、廠カ清查ヲ行フヘキ資本ノ種類左ノ如シ
- 甲 官有資本

乙 民間資本

丙 官民合同資本

丁 中外合同資本

戊 革命犯人資本（原文ニ逆股ト稱ス、處理逆產條例參照——譯者註）

第三條 農鑛部ハ各鑛冶業公司、局、廠ノ資本ヲ清查スルタメ臨時清查處ヲ設立スルコトヲ得、其ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 各鑛冶業公司局廠ノ資本ハ本條例第五條乃至第八條ノ各規定ニ依リ登記ヲ申請シ又ハ清查處代ツテ登記ヲナスヘシ

第五條 官有資本ニ關シ登記ヲナスヘキ各事項左ノ如シ

- 一 鑛冶業局、公司、局、廠ノ名稱及ヒ所在地
- 二 鑛冶業公司、局、廠ノ資本總額及ヒ拂込高
- 三 官有資本拂込ノ年月日及ヒ其ノ經過
- 四 官有資本ノ募集方法
- 五 官有資本ノ性質（國有又ハ省有、現金拂込又ハ財產、土地價格見積等ノ類）
- 六 官有株券ノ種類、番號及ヒ其ノ總數

國民政府の産業政策

- 七 官有資本ニ對スル利息配當ノ方法及ヒ右利息ヲ收納セル機關
- 八 其ノ他各項書類ノ證據トナシ得ヘキモノ

第六條 民間資本ノ登記ヲ行フヘキ各事項左ノ如シ

- 一 鑛冶業公司、局、廠ノ名稱及ヒ所在地
- 二 鑛冶業公司、局、廠ノ資本總額及ヒ拂込高
- 三 民間資本拂込ノ年月日及ヒ其ノ經過
- 四 民間資本募集方法
- 五 民間資本主ノ姓名、職業、原籍及ヒ現住所
- 六 民間資本主ノ商業上ノ身分ト經濟能力
- 七 民間資本ノ株券ノ種類番號及ヒ其ノ數
- 八 民間資本ニ對スル利子配當方法及ヒ右利子ノ舊受領手續人
- 九 民間株ノ舊登記手續及ヒ其ノ舊組織法
- 一〇 民間資本償還ノ舊規定
- 一一 民間資本ノ舊經理人ノ姓名、職業、原籍、住所又ハ宛名先
- 一二 民間資本ノ移轉セル時ハ其ノ移轉ノ年月日及ヒ其ノ經過

- 一三 民間資本移轉ノ際ニ於ケル舊經理人ノ姓名、原籍、住所又ハ宛名先
  - 一四 其ノ他各種書類ノ證據トナシ得ヘキモノ
- 第七條 官民合同ノ資本ニ關シテ登記ヲ行フヘキ各事項左ノ如シ

- 一 鑛冶業公司、局、廠ノ名稱及ヒ所在地
- 二 鑛冶業公司、局、廠ノ名稱及ヒ所在地
- 三 官民合資ヲ開始セル年月日及ヒ其ノ經過
- 四 官有資本額ト民間資本額
- 五 官有資本ニツキテハ第五條ノ規定ニ屬スル各事項
- 六 民間資本ニツキテハ第六條ノ規定ニ屬スル各事項
- 七 其ノ他紛糾ノ有無

第八條 中外合同資本ノ登記ヲ行フヘキ各事項左ノ如シ

- 一 鑛冶業公司、局、廠ノ名稱ト所在地
- 二 鑛冶業公司、局、廠ノ資本總額及ヒ其ノ拂込高
- 三 中外合資ノ年月日及ヒ其ノ經過
- 四 合資ノ外國國家名稱

第六章 産業關係法令

- 五 本國資本ノ額及ヒ外國資本ノ額
  - 六 本國資本カ官有資本ニ屬スル場合(第五條ニ規定スル各事項ニ照シテ登記スヘシ)
  - 七 本國資本カ民間資本ニ屬スル場合(第六條ニ規定スル各事項ニ照シテ登記スヘシ)
  - 八 本國株、外國株ノ種類、番號及ヒ其ノ數
  - 九 中外合資ノ根據タル條約、契約又ハ約定
  - 一〇 條約、契約又ハ約定締結ノ年月日
  - 一一 某條約又ハ契約ノ第何條第何項ノ規定ニ依據ス
  - 一二 契約又ハ約定締結ノ機關又ハ個人
  - 一三 締結セル契約又ハ約定カ官廳ノ正式承認ヲ得タルヤ否ヤ
  - 一四 株券ノ舊登記手續及ヒ其ノ舊組織法
  - 一五 株券ノ歴年及ヒ現在ノ相場
  - 一六 株券控ノ番號及ヒ内容
  - 一七 規定利子ノ支拂及ヒ利益配當及ヒ元本償還ノ各規定
  - 一八 其ノ他各種文書ノ證據トナシ得ヘキモノ
- 第九條 逆股ノ登記ヲ行フヘキ事項左ノ如シ

- 一 鑛冶業公司、局、廠ノ名稱及ヒ所在地
  - 二 鑛冶業公司、局、廠ノ資本總額及ヒ其ノ拂込高
  - 三 逆股拂込ノ年月日及ヒ其ノ後ノ經過
  - 四 逆股株主ノ眞姓名、職業、原籍、住所
  - 五 逆股株券ノ種類、番號及ヒ其ノ數
  - 六 逆股ノ堂號及ヒ其ノ特別記號
  - 七 逆股ノ舊經理人ノ姓名、職業、原籍、住所又ハ宛名先
  - 八 逆股ノ證明者及ヒ告發者
  - 九 其ノ他各種文書ノ證據トナシ得ヘキモノ
- 第十條 清查處ハ各鑛冶業公司、局、廠ノ資本登記申請ニ對シ某日ヨリ某日マテトシ其ノ期間ヲ二箇月ニ限ルコトヲ要ス
- 第十一條 登記期日ハ別ニ通知書又ハ布告ノ方式ヲ以テ之ヲ告知ス
- 第十二條 清查處カ各鑛冶業公司、局、廠ノ資本登記ヲ處理スルトキハ其ノ目的總テ確實ヲ以テ標準トナスヘシ
- 第十三條 登記申請人ハ提出ヲ要スヘキ各證據又ハ書式ニ從ツテ記入ヲナスヘキ各用紙及ヒ保證書ヲ均シク期限内ニ差出シ以テ審査ニ資スヘク又清查處ハ隨時召喚訊問ヲナスコトヲ得

第十四條 清查處ハ資本登記ニ關シ必要アルトキハ農鑛部長ニ申請シテ委員會ヲ組織シ之ヲ審査スルコトヲ得  
第十五條 逆股ノ登記申請ニ際シ故意ニ各種ノ詐欺方法ヲ用ウル者ハ之ヲ查出シタル場合其ノ特株ヲ沒收スル外並ニ法ニ依リ引受人及ヒ經理人ヲ處罰ス

第十六條 登記ヲ申請スル者左記ノ事項ノ一アルトキハ其ノ登記ヲ無効トス

- 一 期限内ニ登記ヲナサ、ル場合
- 二 期限内ニ相當ノ證據及ヒ記入シタル各種用紙ト保證書ヲ提出セサル場合
- 三 登記手續ノ不備ナル場合
- 四 疑義ヲ發生シテ確實ナル反證ヲ舉ゲ得サル場合
- 五 證據書類及ヒ保證書ノ不確實ナル場合

六 召喚訊問ノ事項ニ對シ理由ノ充足セル回答ヲナサ、ル場合

第十七條 各鑛冶業公司、局、廠ノ資本カ各別ニ清理處ノ登記ヲ完了シタルトキハ農鑛部長ニ報告シテ審定ヲ得ルモノトス

第十八條 政府ノ沒收シタル逆産ハ清查處ニ於テ代ツテ登記ヲナスモノトス

第十九條 各鑛冶業公司、局、廠ノ資本ハ逆股ヲ除クノ外ハ登記審定ノ後農鑛部ヨリ登記證ヲ下付シ以テ證明ニ資ス  
第二十條 各鑛冶業公司、局、廠ノ資本ハ逆股ノ沒收ヲ除クノ外保管、返還ノ各事項ニツキテハ別ニ條例ヲ以テ之

ヲ定ム

第二十一條 本條例事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ農鑛部ニ於テ隨時查定改正ス

第二十二條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 國民政府農鑛部清查各鑛冶業公司、局、廠股本暫行條例施行細則

民國十七年十月二十六日公布

#### 第一章 通 則

第一條 農鑛部ハ各鑛冶業公司、局、廠ノ資本ヲ清查スル爲暫行條例第三條ノ規定ニ依リ部内ニ鑛冶業公司、局、廠資本清查處ヲ置ク

第二條 清查處ニ主任委員一人ヲ置キ委員ハ定數ヲ定メス部長之ヲ任命ス

第三條 清查處ハ必要ノ時ニ於テ各別ニ各鑛冶業公司、局、廠、資本清查委員會ヲ設ケ其ノ委員ハ部長之ヲ任命ス

第四條 清查處各鑛冶業公司、局、廠股本清查委員會ハ各該鑛冶業所在地又ハ其他適當ノ場所ニ於テ事務所ヲ設立ス

第五條 清查處ハ隨時各鑛冶業公司、局、廠資本清查委員會ノ業務狀況ヲ部長ニ呈報シ其ノ重要事項又ハ各委員會

ト關係アル事項ハ主任委員ニ於テ全體委員會ヲ召集シテ決定シ部長ニ申請シ許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ

第六條 清查處ハ適宜事務員ヲ置キ部員ノ中ヨリ部長之ヲ任命ス

第二章 登記程序

第七條 清查處又ハ資本清查委員會ハ清查ヲ開始スルトキ通知書又ハ新聞紙掲載ノ方法ヲ以テ資本ニ關係アル者ニ對シ一定期間内ニ程序ニ從ツテ登記ヲ申請スヘキコトヲ通知スヘシ

第八條 登記申請人ハ通知カ公示セラレ又ハ該項通知書ヲ接受シタル時本人カ資本ト關係ヲ有スル各事情ヲ詳細ニ文書ニ認メ之ヲ清查處又ハ資本清查委員會ニ提出シテ査閲ヲ受クヘシ

第九條 登記申請人ハ前條ノ届出ヲ要スル各事項ノ外後ニ掲クル各書式用紙ニ規定通りノ記入ヲ爲シ届出書類ニ添附シテ差出スヘシ(甲種書式)

第十條 登記申請人ハ申請書ノ各書式ニ記入ヲナシ自筆ヲ以テ署名捺印スル外信用アル商舖ヲ保證人トシ商號ニ捺印セシメ責任負擔ヲ保證セシムルコトヲ要ス(乙種書式)

第十一條 登記申請人ハ査閲ヲ求ムヘキ證據書類ヲ取揃ヘ申請書ニ添附シテ提出シ返還ヲ求ムヘキ書類ニ關シテハ申請書内ニ使用濟ノ場合ハ直チニ返還セラレ度旨ヲ表明スヘシ

第十二條 清查處又ハ資本清查委員會ハ該文書ヲ受領シタルトキ申請人ノ請求ニ依リ受領證ヲ發行シテ證憑トナサシムルコトヲ得(受領書ノ様式ハ後ニ掲ク)

第十三條 清查處又ハ清查委員會ハ登記申請人ノ差出シタル證據書類ヲ不完備ト認ムルトキハ該申請人ヲシテ更ニ蒐集シテ補足セシムルコトヲ得

第十四條 清查處又ハ資本清查委員會ハ申請人ノ立テタル保證商舖カ不適當ト認メタル場合申請人ヲシテ別ニ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

第十五條 申請人ノ提出シタル證據書類カ實地調査ヲ必要トスル場合其ノ調査旅費ハ狀況ヲ酌量シ申請人ニ於テ負擔支出スヘシ

第三章 登記ノ期日

第十六條 登記申請人ハ登記期日マテニ總テノ證據書類ヲ取揃ヘテ提出スヘシ

第十七條 登記申請人カ自ラ證據書類ノ一部ヲ期限内ニ取揃ヘテ提出シ能ハサスト思量シタル場合ハ期限ニ先チ理由書ヲ差出シ清查處又ハ清查委員會ノ許可ヲ經テ適宜期限若干日ヲ延長シ並ニ一面農礦部長ニ呈報スヘシ

第十八條 登記期限ハ清查處又ハ資本清查委員會ヲ經由シテ農礦部長ニ申請シ其ノ許可ヲ得ルニアラサレハ延長スルコトヲ得ス

第四章 登記決定

第十九條 清查處又ハ資本清查委員會カ登記手續ニ對シ既ニ完備シテ別ニ疑義發生セスト認メタルトキハ農礦部長ニ申請シテ審定ヲ得其ノ登記ヲ公布スヘシ

第二十條 清查處又ハ資本清查委員會ハ既ニ確定セル民間資本ノ登記完了シタルトキハ臨時登記證ヲ交付シ審定ヲ俟チテ部ノ正式登記證ト取換ヲナスコトヲ得(登記證書式ハ後ニ掲ク)

第二十一條 登記手續ノ費用徴收ニ關シテハ清查處又ハ資本清查委員會ヨリ農礦部ニ申請シ許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ

第五章 附 則

第二十二條 清查ヲ行フヘキ資本ノ登記申請ヲナス者ナキ場合ハ清查處又ハ資本清查委員會ニ於テ之ヲ調査シ代ツテ登記ヲナスヘシ

第二十三條 國家資本、外國人ノ資本、反革命者ノ資本ニシテ登記ヲ行フヘキ事項ニツキ未タ登記ノ申請ナキ場合ハ前條ノ規定ニヨリ辦理シ各該項ノ登記ヲ行フヘキ書式帳簿等ノ書類ハ清查處又ハ資本清查委員會ニ於テ各別ニ編製シ農礦部ノ査定ヲ申請スヘシ

第二十四條 本細則未タ事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ農礦部長ノ許可ヲ得テ之ヲ改正スルコトヲ得

第二十五條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

申請書様式左ノ如シ

申請人姓名別號、性別、原籍、年齢

職業（詳細ニ職業ヲ明記シ某界等ノ文字ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ス）

住所（現住所永久住所ヲ明記シ門牌、番號モ均シク記入シ以テ調査不明ノコトナカラシムヘシ）

資 本

資本ノ種類

資本額（株數若干、一株若干元、合計出資若干元ト明記スヘシ）

株券種類（記名式又ハ無記名式ト明記スヘシ）

株券枚數及ヒ某字ノ某番號

經 過

投資事情及ヒ手續（年月日ニ重キヲ置ク）

投資後ノ經過

現在ノ狀況

價 格

株券價格（歷年ノ價格及ヒ其ノ騰落狀況ヲ明記スヘシ）

利 子（利子若干、利拂何回、合計若干元何回ニ支拂ハレタルカ及ヒ其ノ年月日ヲ明記スヘシ）

純 益（純益配當若干、合計若干元何回ニ支拂ハレタルカ及ヒ其ノ年月日ヲ明記スヘシ）

紹介者（紹介者カ一人以上ナル場合ハ各人ノ姓名等ヲ各別ニ列記スヘシ）

姓 名、別 號、性 別、原 籍、年 齡、職 業

國民政府の産業政策

住所 現住所  
住所 永久住所

證據書類

株 券 (送付枚數ヲ明記スヘシ)

其ノ他關係アル各證明書類 (送付枚數ヲ記入スヘシ)

申請人 署名捺印

中華民國 年 月 日 具

乙種書式 (保證人ニ之ヲ適用ス)

住所 (現在住所、永久住所及ヒ門牌、番號)

前住所 省 縣市 區 街、第 號、門牌ニ〇〇商 舖ヲ開設シ 年ノ久シキヲ經タリ茲ニ〇

〇〇君カ規定ニ準據シテ登記ヲ申請スルニ當リ記入セル甲種書式ノ各項ハ均シク眞實ニシテ毫モ虛偽、捏  
造、名儀貸與及ヒ一切ノ不實脱漏ノ點ナシ之ヲ文書ニ認メテ其ノ眞實ナルコトヲ保證ス

内 譯

〇〇〇君の名義ヲ貸與セル某某名稱堂記ハ事實某某鑛某某公司ノ持株若干株合計若干元也ヲ含メリ

保證人 署名捺印  
(並ニ商號ノ正式印章捺捺)

受領證様式左ノ如シ

受 領 證	
國民政府農鑛部發給受領證	茲ニ 鑛 公司株券
及ヒ各證明書類ニ對シ受領證ヲ發給ス検査完了ヲ 俟テ之ヲ返還スルモノ也	一 株 券 件
内 譯	二 各證明書類 件
資本清查委員會署名捺印	中華民國 年 月 日

登 記 證	
國民政府發給登記證	茲ニ規定ニ依ル 登記申請ニ際シ受領
セル各證據書類ヲ審査スルニ總テ確實ナリト認ム ルヲ以テ登記證ヲ發給シテ證明ニ資ス此ニ證ス	〇〇〇名義 即チ〇〇〇〇堂 職業、年齡、原籍、
内 譯	住所、株券〇〇〇〇公司 何枚合計資本何元也
中華民國 年 月 日	

控	
茲ニ 鑛 公司株券及ヒ證明書類ヲ左ノ如 ク受領ス	一 株 券 件
内 譯	二 各證明書類 件
中華民國 年 月 日	

控	
茲ニ規定ニ依ル 登記申請ニ際シ受領 セル各證據書類ヲ審査スルニ總テ確實ナリト認ム ルヲ以テ登記證ヲ發給シテ證明ニ資ス此ニ證ス	〇〇〇名義 即チ〇〇〇〇堂 職業、年齡、原籍、
内 譯	住所、株券〇〇〇〇公司 何枚合計資本何元也
中華民國 年 月 日	



國民政府農鑛部直轄地質調查所組織章程

民國十七年八月二十九日公布

- 第一條 地質調查所ハ國民政府農鑛部ニ隸屬ス
- 第二條 地質調查所ノ職務左ノ如シ
- 一 全國ノ地質調査並ニ地質圖ノ作成
  - 二 全國ノ鑛物調査（鑛山測量、鑛床研究鑛業統計等ノ事項ヲ包括ス）
  - 三 全國ノ土質調査並ニ水力水利ノ研究
  - 四 地質ニ關係アル實業上ノ設計
- 第三條 地質調査所内ニ左ノ各館室ヲ置ク
- 一 圖書室
  - 二 陳列館
  - 三 鑛物岩石研究室
  - 四 化學試驗室
  - 五 古代生物學研究室

六 地性探鑛研究室

第四條 地質調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

- 一 所長 一人
  - 二 技師 十二人
  - 三 調査員 十八人
  - 四 助理 員
  - 五 事務主任 一人 事務員 二人
  - 六 圖書館、陳列館主任 各一人
  - 七 其ノ他専門ノ研究員又ハ事務主任ハ所長ニ於テ技師又ハ調査員中ヨリ指定シテ之ヲ兼任セシムルコトヲ得
- 第五條 地質調査所長ハ農鑛部部長ヨリ中央研究院院長ニ諮リ其ノ同意ヲ得テ之ヲ任命シ其ノ他ノ職員ハ所長ヨリ農鑛部部長ニ申請シテ任命ス
- 第六條 地質調査所ハ適宜練習員四人乃至八人ヲ採用スルコトヲ得
- 第七條 地質調査所ハ適宜書記及ヒ其ノ他ノ傭員ヲ採用スルコトヲ得、但シ四人ヲ過クルコトヲ得ス
- 第八條 地質調査所ニ所務會議ヲ設ケ左ノ各員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 一 農鑛部特派員

二 所 長

三 所 内 主 任

四 中央研究院地質研究所長

第九條 左ノ各事項ハ所長ヨリ所務會議ニ提出シテ討論スヘシ

一 毎年ノ豫算及ヒ決算

二 重要ナル辦事規則

三 對外重要契約

第十條 地質調査所ハ隨時所員ヲ各省ニ派シテ實地ノ調査測量又ハ採集ヲナサシムルコトヲ得並ニ農鑛部長ニ稟申シテ各地方長官ニ對スル保護斡旋ノ通牒ヲ請フコトヲ得

第十一條 地質調査所ハ調査研究ノ結果ヲ印刷報告シ其ノ専ラ學術研究ニ關スルモノハ外國文字ヲ兼用シテ之ヲ發表スルコトヲ得

第十二條 地質調査所ハ政府機關ノ諮問又ハ調査ヲ委託シタル事項ニ對シテ先ツ辦理シ並ニ實業團體ノ所員派遣ノ申請ニ應ジ地質問題ノ調査又ハ研究ヲナスコトヲ得

第十三條 地質調査所ハ所員ヲ外國ニ派シテ研究考察セシメ又ハ國際學術又ハ技術會議ニ參加セシムルコトヲ得但シ先ツ農鑛部長ニ申請シテ許可ヲ得ヘシ

第十四條 地質調査所ハ農鑛調査ノ結果ニ關シ隨時農鑛部ニ報告スヘシ

第十五條 地質調査所ハ學術研究事項ニ關シ中央研究院ト協議シテ其ノ命ヲ承ケ隨時協力辦理スヘシ

第十六條 地質調査所ハ毎年末ニ於テ執務狀況、調査ノ結果及ヒ金錢ノ用途ヲ詳細編述シテ農鑛部ニ報告スヘシ

第十七條 地質調査所ノ組織ヲ變更スルトキハ農鑛部長ヨリ中央研究院院長ニ諮リ其ノ同意ヲ得テ之ヲ決定ス

第十八條 本程章ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 國民政府特准探煤油鑛暫行條例

民國十七年八月二十三日公布

第一條 中華民國人又ハ國民政府ノ法律ニ依ツテ成立シタル法人ハ當分本條例ニ依リ農鑛部ニ申請シ石油鑛ノ試掘權又ハ探掘權ヲ取得スルコトヲ得、石油ハ當分現行鑛業條例第六條第一類ノ鑛物中ニ編入ス

第二條 農鑛部ハ試掘又ハ探掘ヲ許可シタル石油鑛ニ對シ開採ノ日ヨリ十箇年以上ヲ經タルトキ國有トナスノ必要アリト認メタル場合ハ隨時狀況ヲ斟酌シ國民政府ニ申請シ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買收スルコトヲ得

第三條 農鑛部カ特殊狀況ニアリト認メタル石油鑛ニ對シテハ國民政府ニ申請シテ定期補助金ヲ與フルコトヲ得

第四條 各石油鑛ハ農鑛部ヨリ試掘又ハ探掘ノ許可ヲ得タルトキハ適宜官督商辦又ハ官商合辦トナスコトヲ得前項官督商辦又ハ官商合辦ノ石油鑛ハ農鑛部ヨリ員ヲ派シテ監督ス

- 第五條 試掘又ハ探掘ヲナス石油鑛公司ハ完全ナル中國資本ヲ用ウルコトヲ要ス、若シ擅ニ外國資本ヲ借入ル、者一タヒ察覺ヲ經タルトキハ直チニ沒收ス
- 第六條 試掘又ハ探掘ヲナス石油鑛公司ハ技師ノ外外國人ヲ雇用スルコトヲ得ス  
前項技師ノ雇用契約ハ先ツ農鑛部ニ申請シテ認可ヲ得ルコトヲ要ス
- 第七條 試掘探掘ノ石油鑛公司ノ探出スル石油ハ政府之ヲ購入セムト欲スルトキハ相當ノ代價ヲ以テ優先ニ之ヲ購入スルコトヲ得、若シ公司カ外國商人ト石油賣渡契約ヲ締結セムトスルトキハ先ツ該契約ヲ農鑛部ニ申請シテ認可ヲ得ルコトヲ要ス
- 第八條 石油鑛公司ハ鑛業條例及ヒ其ノ他ノ關係諸法律ノ本條例ト牴觸スル各條ヲ除クノ外均シク之ヲ遵守スルコトヲ要ス
- 第九條 試掘又ハ探掘ヲナス石油鑛公司ノ探出セル石油ハ一切ノ稅捐ヲ完納スル外十ガロン毎ニ鑛產稅銀二角ヲ課シ農鑛部ヨリ員ヲ派シテ其ノ地ニ於テ檢査徵收シ一半ヲ農鑛部ニ送り一半ヲ留メテ該省建設ノ用トナス
- 第十條 本條例ハ國民政府認可ノ日ヨリ施行ス

### 國民政府農鑛部設計委員會會議細則

民國十七年九月一日公布

- 第一條 本會會議ハ全體會議ト分科會議ノ二種ニ分ツ
- 第二條 全體會議ハ毎年一回開會シ部長ヲ以テ主席トス、主席事故アリテ出席スルコト能ハサルトキハ委員ヨリ一人ヲ指定シテ代理セシムルコトヲ得
- 第三條 全體會議ハ在京委員ノ過半數カ出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス
- 第四條 全體會議ノ各種議案ハ期ニ先チテ常務委員會ニ送り議事日程ヲ編成シ各委員ニ分送シテ研究セシムヘシ
- 第五條 全體會議開會ノ時ハ議事日程ニ從ヒ議案ヲ提出シテ討論シ逐次表決スヘシ
- 第六條 全體會議ノ議決案ハ秘書之ヲ記錄シ主席之ヲ查閱シテ署名スヘシ
- 第七條 分科會議ハ毎月少クトモ一回開會シ常務委員及ヒ該分科會委員之ニ列席ス
- 第八條 分科會議ハ各分科毎ニ書記ヲ置キ委員中ヨリ一人ヲ推シテ之ニ當ラシメ議案ノ整理及ヒ會議ノ記錄ヲ擔任セシム
- 第九條 分科會議開會ノ時ハ委員中ヨリ一人ヲ推シテ主席トス
- 第十條 分科會議ノ議決案ハ分科會議書記ヨリ常務委員會ヲ經由シテ部長ニ提出スヘシ
- 第十一條 分科會議ノ議決案ハ全體會議ニ提出シテ審查再議ヲナスコトヲ得
- 第十二條 本會ノ各項決議案ハ開會後一週間以内ニ本會秘書之ヲ印刷シテ各委員ニ送付スヘシ
- 第十三條 本會各項決議案ハ部長之ヲ審查シタル後各主管司科ニ命シテ各別ニ之ヲ執行セシム

第十四條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 國民政府農礦部設計委員會辦事細則

民國十七年九月一日公布

第一條 本會ハ部長ノ命ヲ承ケ組織章程第一條ノ規定ニ依リ一切ノ農礦進行計畫ヲ議定シ外部ニ對シテハ部長ノ名義ヲ以テ之ヲ行フ

第二條 本會ノ常務委員ハ常ニ會ニ到リテ執務シ本會一切ノ事務ヲ總理スヘシ

第三條 本會ハ日常ノ事務ヲ處理シ文書ヲ保管シ會務ニ關スル交渉等ノ爲秘書一人ヲ置キ部長部員中ヨリ之ヲ指定ス

第四條 本會ニ左ノ各股ヲ設ケ股ヲ分チテ事務ヲ處理シ股毎ニ專門委員一人乃至三人ヲ置ク

(甲) 農業股、(乙) 林業股、(丙) 漁牧股、(丁) 墾務股、(戊) 農民股、(己) 礦業股、(庚) 冶金股。

第五條 本會專門委員ハ整理、審査、起草、編纂各係ノ進行計畫ノ責任ヲ負フ

第六條 本會ハ文書ノ作成謄寫其ノ他ノ事務ノ爲部内ヨリ雇員ヲ調用スルコトヲ得其ノ員數ハ事務ノ繁簡ニ從ツテ之ヲ定ム

第七條 本會一切ノ文書ハ秘書責ヲ負フテ之ヲ辦理シ專門ニ關スルモノハ常務委員ヨリ各股ニ分發シテ之ヲ擬定セ

シム

第八條 本細則事宜ヲ盡ササルモノアルトキハ本會全體會議ニ提案シテ之ヲ修正スルコトヲ得

第九條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 國民政府農礦部整理漢冶萍公司委員會暫行章程

民國十八年五月

國民政府公報第五十七期公布

第一條 本部ハ漢冶萍煤鐵礦廠ヲ整理シ中國ノ鋼鐵事業ヲ鞏固ニシ且發展セシムルタメ特ニ交通部ノ辦法ヲ參酌シ本部ニ漢冶萍公司整理委員會ヲ組織ス

第二條 漢冶萍煤鐵礦廠ヨリ生スル利益ハ專ラ中國ノ鋼鐵及ヒ其ノ附帶事業ヲ鞏固ニシ且發展セシムル爲ニ用キ別途ニ使用セス

第三條 本會ニ主席委員一人ヲ置キテ整理ノ全責任ヲ負ハシメ專任委員一人ヲ置キ主席委員ノ命ヲ承ケテ本會所屬礦廠一切ノ事務ヲ辦理セシメ別ニ委員五人乃至九人ヲ置キテ一切ノ事務ヲ協議セシム

第四條 漢冶萍公司ハ代表一人ヲ推舉シ本部長ノ許可ヲ申請シテ本會ノ委任ニ加ハルコトヲ得

第五條 本會ハ委員ノ三分ノ一ノ列席アルトキハ會議ヲ開キ議事ハ多數ヲ以テ決ヲ取り賛否同數ナルトキハ主席之ヲ決ス

- 第六條 本會ノ總テノ議決事項ハ部長ニ申請シテ査定ヲ經ルコトヲ要ス
- 第七條 本會ハ當分ノ内秘書一人技士三人技佐一人ヲ置キ主席委員及ヒ專任委員ノ命ヲ承ケテ會所ノ事務ヲ辦理シ將來鑛廠ノ事務繁多ナルトキテ俟ツテ適宜其ノ數ヲ増加スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ事務處理ノ爲ニ適宜辦事員書記ヲ任命スルコトヲ得
- 第九條 本會ノ會所並ニ駐漢辦事處ノ經費ハ當分ノ内財政部ヨリ毎月二千元ヲ融通シ收入アル時ヲ俟ツテ返還ス
- 第十條 本暫行章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十一條 本暫行章程公布後ハ有ラユル從前ノ章程ハ之ヲ廢止スヘシ

### 國民政府農鑛部直轄北平農事試驗場組織章程

民國十七年九月十日公布

- 第一條 北平農事試驗場ハ國民政府農鑛部ニ直屬シ各項農事試驗及ヒ改良事務ヲ掌理ス
- 第二條 北平農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 一 場 長
  - 二 技 術 員
  - 三 事 務 員

- 第三條 場長ハ農鑛部長ノ命ヲ承ケ全場ノ事務ヲ總理ス
- 北平農事試驗場ハ必要アルトキハ幫辦一人ヲ置キ場長ト協議シ其ノ命ヲ承ケテ場務ヲ助理スルコトヲ得
- 第四條 技術員ハ場長ノ命ヲ承ケテ技術事務ヲ分理ス
- 第五條 事務員ハ場長ノ命ヲ承ケテ文書、會計及ヒ庶務ヲ分理ス
- 第六條 技術員、事務員ノ數ハ場長ニ於テ擬定シ農鑛部長ニ申請シテ査定ヲ請フモノトス
- 第七條 北平農事試驗場ニ左ノ八股ヲ置ク
  - 一 總 務 股
  - 二 樹 藝 股
  - 三 園 藝 股
  - 四 蠶 絲 股
  - 五 化學試驗股
  - 六 病 蟲 害 股
  - 七 農 民 股
  - 八 觀 測 股

第八條 總務股ノ職掌左ノ如シ

國民政府の産業政策

二二八

- 一 文書ノ發受、起草、書類ノ保管及ヒ官印ノ取扱保管ニ關スル事項
- 二 統計報告ノ編成及ヒ表冊ノ記入ニ關スル事項
- 三 金錢ノ出納及ヒ豫算決算ノ編成ニ關スル事項
- 四 生産品ノ保管及ヒ其ノ交換、配給、賣出ニ關スル事項
- 五 其ノ他一切ノ庶務及ヒ他股ニ屬セサル事項

第九條 樹藝股ノ職務左ノ如シ

- 一 穀物ノ選種ニ關スル事項
- 二 穀物栽培法ノ試験ニ關スル事項
- 三 肥料及ヒ土壤ノ試験ニ關スル事項
- 四 種子種苗ノ検査及ヒ分配ニ關スル事項
- 五 農具ノ應用ニ關スル事項

第十條 園藝股ノ職務左ノ如シ

- 一 蔬菜栽培法ノ試験ニ關スル事項
- 二 果樹栽培法ノ試験ニ關スル事項
- 三 花卉栽培法ノ試験ニ關スル事項

第十一條 蠶絲股ノ職務左ノ如シ

- 一 桑樹栽培法ノ試験ニ關スル事項
- 二 養蠶試験ニ關スル事項
- 三 殺蛹、乾繭ニ關スル事項
- 四 製絲及ヒ蠶種製造ニ關スル事項
- 五 蠶病消毒試験ニ關スル事項

第十二條 化學試験股ノ職務左ノ如シ

- 一 土壤肥料ノ化學試験及ヒ鑑定ニ關スル事項
- 二 農産物、農産製造品ノ化學試験ニ關スル事項

第十三條 病蟲害股ノ職務左ノ如シ

- 一 穀物病蟲害ノ豫防及ヒ治療法ノ試験ニ關スル事項
- 二 果樹蔬菜ノ病蟲害豫防及ヒ治療法ノ試験ニ關スル事項
- 三 穀物ノ害益、蟲鳥ノ豫防驅除及ヒ保護法ノ試験ニ關スル事項
- 四 果樹蔬菜ノ害益蟲鳥豫防驅除及ヒ保護法ノ試験ニ關スル事項

第十四條 農民股ノ職務左ノ如シ

第六章 産業關係法令

二二九

國民政府の産業政策

1110

- 一 農民組合ノ指導人才養成ニ關スル事項
  - 二 農事傳習ニ關スル事項
  - 三 農民訓練ニ關スル事項
  - 四 農村文化ニ關スル事項
  - 五 農村組織ニ關スル事項
- 第十五條 觀測股ノ職務左ノ如シ
- 一 氣候ノ觀測ニ關スル事項
  - 二 氣候ノ報告ニ關スル事項
- 第十六條 各股ニ股長一人股員若干人ヲ置キ場長ニ於テ技術員事務員中ヨリ之ヲ任命ス
- 第十七條 北平農事試驗場カ職員ヲ任用スルトキハ場長ニ於テ擬定シ國民政府ニ申請シテ許可ヲ得ルモノトス
- 第十八條 北平農事試驗場ハ事務ノ必要ニヨリ書記及ヒ其ノ他ノ雇員ヲ置クコトヲ得其ノ員數ハ場長適宜之ヲ定メテ部長ニ報告ス
- 第十九條 北平農事試驗場ハ學生ヲ募集試驗シテ實地學習ヲナサシムルコトヲ得
- 第二十條 北平農事試驗場ニ動物園、果樹園、農產物陳列所、博物標本陳列所ヲ附設ス
- 第二十一條 北平農事試驗場ハ毎月所辦事務ノ詳細ヲ部ニ報告スヘシ

- 第二十二條 北平農事試驗場辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二十三條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農產物検査條例

民國十七年十二月十四日公布

- 第一條 農産部ハ農産物ノ信用及ヒ價格ヲ保持シ病蟲害ノ傳播ヲ防止シ肥料ノ品質ヲ檢定スル目的ヲ以テ農産物検査所ヲ設立スルコトヲ得
- 第二條 農産物検査所ニ左ノ各課ヲ置ク
  - 第一課 文牘庶務事項ヲ掌理ス
  - 第二課 農産物原料品ノ検査ヲ掌理ス
  - 第三課 植物種子等ノ病蟲害検査ヲ掌理ス
  - 第四課 肥料ノ検査ヲ掌理ス
- 第三條 農産物検査所ニ所長一人課長四人技術員課員若干人ヲ置ク各課ハ事務ノ繁簡ニヨリ適宜ニ助理員ヲ採用スルコトヲ得
- 第四條 農産物検査所ハ検査事務及ヒ検査設備ノ費用トシテ検査申請者ヨリ検査物品ノ價格ノ百分ノ二ヲ検査費用

第六章 産業關係法令

1111

トシテ徵收スルコトヲ得

前項ノ検査ニヨル收入ハ全額ヲ農民救済ノ費用ニ充ツ

第五條 農産物輸出入業者ハ自ラ農産物ノ検査ヲ申請スヘシ、検査ヲ經スシテ密輸出入ヲナス者ニ對シテハ該物品ノ價格ノ百分ノ二十以上ノ罰金ニ處スルモノトス

第六條 農産物検査所ハ検査済ノ大宗農産物ニ對スル執照ヲ發給シ執照一枚ニ對シ一元ノ費用ヲ徵收スルコトヲ得  
第七條 農産物ヲ検査スル職員及ヒ検査申請者カ賄賂ヲ收受又ハ行使スル等ノ不正行爲アルトキハ法律ニ依リ處罰ス

第八條 本條例ノ施行細則ハ農鑛部ニ於テ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本條例ハ呈准ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 農産物検査條例施行細則

民國十八年三月八日公布

第一條 輸出入農産物原料品、動植物種子及ヒ肥料等ヲ港埠ニ搬出スルトキハ運送者ヨリ申告書ヲ農産物検査所ニ差出シ検査ヲ申請スヘシ

國內各地ノ有ラユル各種物品モ亦農産物検査所ニ検査ヲ申請スルコトヲ得

第二條 検査ヲ受クヘキ農産物原料品、動植物種子及ヒ肥料左ノ如シ

普通農産物 陸産動植物及其ノ産物 水産動植物及ヒ其産物 農産物製造品 各種種子秧苗 人造又ハ天然肥料

第三條 農産物検査條例第四條ノ規定ニ依リ検査費ヲ徵收スルトキ其價格ハ海關稅率ヲ標準トシテ之ヲ計算ス

第四條 農産物検査所カ検査申請ノ申告書ヲ接受シタルトキハ其ノ接受後二十四時間内ニ員ヲ派シ巡丁ヲ帶同セシメテ現場ニ到リ全部ノ物品中ヨリ一箇又ハ數箇ニ就キテ検査ヲ行フモノトス

第五條 物品ニシテ化學試験又ハ其ノ他ノ技術試験ヲ必要トスルモノハ検査所ニ携行シテ之ヲ行フコトヲ得

第六條 検査ヲ經テ合格セル物品ハ農産物検査所ノ檢印ヲ捺捺ス

第七條 検査執照ハ二聯式トシテ部ヨリ發行シ第一聯ハ商人ニ交付シ第二聯ハ部ニ送付ス

第八條 検査費ノ領收證ハ三聯式ヲ用キ第一聯ハ商人ニ交付シ第二聯ハ部ニ送り第三聯ハ所ニ保存ス

第九條 農産物検査所ハ検査總簿ヲ備ヘテ各別ニ検査事項ヲ記録スヘシ

第十條 農産物検査所ハ物品運搬上ノ利便ヲ計ルタメ實地検査施行前ニ假執照ヲ發給スルコトヲ得但シ該物品カ検査ニ合格セサルトキハ假執照ハ之ヲ無効トス

第十一條 検査ニ際シテ要シタル船車運搬等ノ費用ハ検査申請者ノ負擔トス

第十二條 検査ニ合格セサル物品ハ夫々販賣ヲ禁止シ又ハ消毒ヲ行ヒ必要アルトキハ之ヲ燒棄又ハ遺棄セシム病菌害蟲等ノ標本ヲ輸入シテ學術研究ノ用ニ供セムトスル者ハ先ツ農鑛部ノ許可證ヲ受ケ物品積載船著港ノ際検査ヲ



申請シ申告ニ相違ナキトキハ輸入ヲ許可ス

第十三條 農産物検査所ハ各項物品ノ單行檢驗辦法ヲ定メ部ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十四條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 農産部直轄農産物検査所検査農産物處罰規則

民國十八年六月十八日一〇九七號指令認可

第一條 検査申請者カ農産物及ヒ農用品ニ關シテ脱法行爲又ハ其ノ不正行爲アルトキハ本規則ニ依リ辦理ス但シ本所カ検査施行ヲ通告セサル區域又ハ物品ニ關シテハ此限ニアラス

第二條 農産物又ハ農用品ヲ販運スル者ハ左ノ期限内ニ検査所ニ検査ヲ申請スヘシ

一 輸入品ハ到着後三日以内

二 國內製品ハ工場ヨリ販賣ノ爲出荷スル七日以前

三 輸出物品ハ船積ノ七日以前

第三條 農産物検査條例第五條ノ規定ニ依リ罰金ニ處スルトキハ其ノ最高金額ヲ物品原價ノ百分ノ八十トシ最低金額ヲ物品原價ノ百分ノ二十トス

第四條 左ニ掲クル各款ノ一ニ該當スル者ハ最高額ノ罰金ニ處ス

一 検査後私カニ他ノ物品ト易フル者

二 検査後劣質ノ物品ヲ混スル者

三 検査済ノ原料ノ荷造ヲ變更シ又ハ他品ヲ配合シテ再検査ヲ申請セサル者

四 検査證ヲ貼附セサル荷物ヲ検査荷物ニ混入スル者

五 前ニ検査證ヲ貼附セル容器ニ未検査ノ物品ヲ入ル、者

六 申告書ト貨物證券トカ符合セス又ハ期限經過後ノ貨物證券ヲ混用スル者

七 他種物品ノ検査證ヲ使用シ又ハ他種物品ノ検査證ヲ貼附セル容器ヲ使用スル者

八 本所ノ命令ニ違フテ検査ニ合格セサル物品ヲ消毒セス又ハ燒燬或ハ遺棄セサル者

九 其他ノ脱法行爲アル者

本條ノ第一款、第二款、第八款ヲ犯ス者ハ並ニ其ノ偽貨又ハ劣貨ヲ沒收ス

第六條 左ニ掲クル各款ノ一ニ該當スル者ハ法院ニ交付シ法律ニ依ツテ處罰ス

一 検査人員ト結託シテ不正行爲ヲナシ又ハ賄賂ヲ行使スル者

二 検査執照又ハ其ノ他ノ證憑書ヲ偽造又ハ變造スル者

第七條 密輸出入者密賣者ノ逮捕ニ關シテ不正行爲アル者ハ本所ヨリ員ヲ派シテ搜索檢舉スル外並ニ地方機關ニ於テ搜索檢舉シテ本所ニ報告スヘシ

第八條 罰金及ヒ沒收貨物ノ一半ハ本所ノ收入トシ一半ハ賞與トス賞與ハ之ヲ十分シテ左ノ如ク分配ス

一 十分ノ四ヲ告發人ニ與フ

二 十分ノ三ヲ逮捕ヲ援助セル軍警ニ與フ

三 十分ノ三ヲ執行機關ノ職員ニ對スル賞與及ヒ該案處理ノ公費ニ充ツ

第九條 沒收貨物及ヒ罰金ニ對シテハ本所ヨリ正式ノ領收證ヲ交付ス

第十條 告發人及ヒ逮捕人等カ結託シテ不正行爲ヲナシ及ヒ隱匿又ハ賣却等ノ行爲アルトキハ法院ニ交付シテ處罰ス

第十一條 本規則未タ事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ隨時部ニ申請シテ修正スルコトヲ得

第十二條 本規則ハ農礦部カ認可公布シタル日ヨリ之ヲ施行ス

### 國民政府導准委員會組織條例

民國十八年二月十日公布

第一條 導准委員會ハ國民政府ニ直屬シ淮河流域全部ノ測量、疏水、河道ノ改良、水利ノ發展及ヒ一切ノ經費調達、

施工事務ヲ掌理ス

第二條 本會ハ本會ノ主管事務ト關係アル各部會及ヒ淮河流域各地方行政長官ノ發布セル命令又ハ處分ニシテ本會

ノ議決セル案ニ違反シ又ハ之ヲ妨碍スルモノト認メタルモノニ對シテハ國民政府ニ之カ停止又ハ廢止ヲ申請スルコトヲ得

第三條 淮河流域ノ行政機關及ヒ駐在軍隊ハ導准委員會ノ職務執行ニ對シテハ協助保護ノ責ヲ有ス

第四條 國民政府ハ本會ノ委員長、副委員長各一人委員若干人ヲ特任シ中ニ就キテ常務委員七人ヲ指定シテ會務ヲ主持セシム

第五條 本會ハ其ノ建設費ニ充ツル爲政府ニ申請シテ導准公債ヲ發行シ又ハ借款ヲナスコトヲ得其ノ條例ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 本會ハ毎日曜日ニ一回常會ヲ開キ毎月一回大會ヲ開キ並ニ必要アル時ハ臨時會議ヲ召集スルコトヲ得、其會議規則ハ別ニ之ヲ定ム

第七條 本會決議案ノ執行及ヒ會内事務ノ處理ハ委員長ノ名義ヲ以テ之ヲ行フ

第八條 本會ニ左ノ各處ヲ置ク

一、總務處 二、工務處 三、財務處

第九條 總務處ハ左ニ掲クル事項ヲ掌ル

一 文書ノ發受、編纂及ヒ保管ニ關スル事項

二 文書ノ分配、起草及ヒ繕譯ニ關スル事項

- 三 本會職員ノ任免ニ關スル事項
- 四 印章ノ取扱保管ニ關スル事項
- 五 統計ニ關スル事項
- 六 庶務及ヒ警衛ニ關スル事項
- 七 其ノ他各處ニ屬セサル事項

第十條 工務處ハ左ニ掲クル事項ヲ掌ル

- 一 河道ノ勘查測量ニ關スル事項
- 二 工事ノ設計製圖ニ關スル事項
- 三 其ノ他一切ノ工務事項

第十一條 財務處ハ左ニ掲クル事項ヲ掌ル

- 一 經費ノ調達、收支及ヒ保管ニ關スル事項
- 二 會計、豫算、決算ニ關スル事項
- 三 公債ノ發行募集ニ關スル事項
- 四 其ノ他一切ノ財務ニ關スル事項

第十二條 各處ニ簡任處長一人、薦任科員若干人、委任辦事員若干人ヲ置ク

第十三條 各處ノ辦事通則ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 本會ハ國內國外ノ工程専門家若干人ヲ招聘シテ顧問又ハ専門委員ト爲スコトヲ得

第十五條 本會ハ本會ノ主管事項ヲ執行スル爲工程隊又ハ警衛隊ヲ編成訓練スルコトヲ得

第十六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 興辦水利防禦水災獎勵條例

民國十八年一月二十四日公布

第一條 左ニ掲クル事業ヲ舉辦シテ計劃切實ナルカ又ハ工事竣工シテ功績顯著ナル者ハ本辦法ニ依リ所轄官廳ヨリ獎勵ヲ申請スルコトヲ得

一 堤防ヲ築造又ハ修繕シ又ハ淤塞ヲ疏導シテ水害ヲ防禦スル事業

二 水道ヲ開キテ灌溉又ハ排水ニ利スル事業

第二條 獎勵方法ハ左ニ掲クル三種ニ分ツ

- 一 工事費ノ補助
- 二 工事費ノ貸與
- 三 従事人員ノ表彰

第三條 前條第一項ノ工事費ノ補助ハ第一條第一項ノ事業ヲ創始經營スル者ニ對シテ之ヲ準用シ左ニ掲クル三等ニ分ツ

- 一 舉辦セル事業ノ利害ニ縣以上ニ關係シ其ノ工事費カ五萬元ヲ超過スル場合ハ一等ト爲シ工事ノ十分ノ三ニ相當スル補助金ヲ支給ヲ請求スルコトヲ得
- 二 舉辦セル事業カ一縣内ニ在ルモ利害カ兩縣以上ニ關係シ其ノ工事費カ一萬元ヲ超過スル場合ハ二等トシ工事費ノ十分ノ二ニ相當スル補助金ヲ支給ヲ請求スルコトヲ得
- 三 舉辦セル事業カ地方ノ利害ニ關係スルコト甚タ大ニシテ其ノ工事費カ五千元ヲ超過スル場合ハ工事費ノ十分ノ一ニ相當スル補助金ヲ支給ヲ請求スルコトヲ得

第四條 第二條第二項ノ工費ノ貸與ハ第一條第二項ノ事業ヲ舉辦スル者ニ對シテ之ヲ準用ス其ノ辦法左ノ如シ

- 一 舉辦セル事業ノ灌溉面積カ五十方里以上ニシテ其ノ工事費カ五千元ヲ超過シ土地ノ人民カ經營ノ資力缺乏シタル場合ハ資金ノ貸與ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ額ハ工事費ノ半額ヲ以テ限リトス
- 二 舉辦セル事業ノ灌溉面積三十方里以上ニシテ其ノ工事費カ三千元ヲ超過シ土地ノ人民カ經營ノ資力缺乏シタル場合ハ資金ノ貸與ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ額ハ工事費ノ十分ノ三ヲ以テ限リトス
- 三 舉辦セル事業ノ灌溉面積カ十方里以上ニシテ其ノ工事費カ三千元ヲ超過シ土地ノ人民カ經營ノ資力缺乏シタル場合ハ資金ノ貸與ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ工事費ノ十分ノ二ヲ以テ限リトス

第五條 補助金及ヒ貸與金ハ均シク省政府水利經費ノ項下ヨリ支出ス但シ補助金カ一年五萬元ヲ超過シ貸與金カ一年十萬元ヲ超過シ水利經費ノ不足シタル場合ハ内政部ヨリ國民政府ニ補助金ノ支出ヲ申請スルコトヲ得

第六條 貸與金ノ利息ハ一分ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 舉辦セル事業ノ従事員カ功績顯著ナル者及ヒ資金ヲ寄附シ又ハ鉅款ヲ募集シテ工費ヲ補助シタル者ハ左ニ掲クル表彰ヲナスコトヲ得

- 一 従事人員ノ辦理シタル事績カ其ノ利害關係甚タ大ニシテ第二條第三條ノ各第一項ニ合致シ又ハ資金ノ寄附千元以上ナルカ又ハ三千元以上ノ資金ヲ募集シタル者ハ工事完成後所轄官廳ヨリ内政部ニ報告シ政府ニ轉請シテ褒獎ヲ與ヘ並ニ要衝ノ地方ニ紀念碑ヲ建設スルコトヲ得
- 二 従事人員ノ辦理シタル事績カ其ノ利害關係甚タ大ニシテ第二條第三條ノ各第二項ノ規定ニ合致シ又ハ資金ノ寄附五百元以上ナルカ又ハ二千元以上ノ資金ヲ募集シタル者ハ所轄官廳ヨリ内政部ニ褒獎ヲ轉請シ並ニ本工程事務所又ハ利害關係地方ノ公共處所ニ紀念寫眞ヲ掛クルコトヲ得
- 三 従事人員ノ辦理シタル事績カ其ノ利害關係第二條第三條ノ各第三項ノ事業ニ合致シ又ハ資金ノ寄附百元以上ナルカ又ハ二百元以上ノ資金ヲ募集シタル者ハ工事完成後紀念章ヲ贈ルコトヲ得

第八條 各省政府ハ本條例ト牴觸セサル範圍ニ於テ適宜補充辦法ヲ定ムルコトヲ得但シ内政部ニ報告スルコトヲ要ス

第九條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 國民政府黃河水利委員會組織條例

民國十八年一月二十六日公布

第一條 黃河水利委員會ハ國民政府ニ直隸シ黃河全部及ヒ其ノ支流ノ測量、浚渫、灌溉及ヒ一切ノ興利、防患、籌款、施工事務ヲ管掌ス

第二條 中央各部會及ヒ黃河流域各地方軍民長官ノ發布シタル命令又ハ處分ニシテ本會カ本會ノ主管事務ヲ進行スルニ防碍アリト認メタルモノハ國民政府ニ其ノ停止又ハ取消ヲ申請スルコトヲ得

第三條 黃河流域ノ行政機關及ヒ駐劄軍隊ハ本會ヲ援助保護シテ職務ヲ執行セシムルノ義務アルモノトス

第四條 本會ニ委員長一人副委員長二人委員若干人ヲ置キ均シク國民政府之ヲ任命シ並ニ委員若干人ヲ指定シテ常務委員トス

第五條 本會ニ總務、工務、財務ノ三處ヲ設ケ每處ニ簡任處長一人、薦任科長若干人、委任科員若干人ヲ置キ工務事項ニ關シテハ工程師工務員若干人ヲ置キ工務處ニ直隸セシムルコトヲ得

第六條 總務處ノ職掌左ノ如シ

- 一 文書ノ發受編成及ヒ保管ニ關スル事項
- 二 文書ノ分配起草及ヒ編譯ニ關スル事項

三 印章ノ取扱保管ニ關スル事項

四 統計ニ關スル事項

五 職員ノ任免ニ關スル事項

六 本會ノ通告ニ關スル事項

七 庶務ニ關スル事項

八 警備ニ關スル事項

九 其ノ他各處ニ屬セサル事項

第七條 工務處ノ職掌左ノ如シ

一 工事ノ設計及ヒ製圖ニ關スル事項

二 河道ノ踏査測量ニ關スル事項

三 沙泥ノ浚渫、河道ノ開鑿、堤防、水門、溝渠、池塘ノ修築及ヒ水害ノ豫防ニ關スル事項

四 其ノ他一切ノ工務ニ關スル事項

第八條 財務處ノ職掌左ノ如シ

一 經費ノ調達、收支及ヒ保管ニ關スル事項

二 會計、豫算、決算ニ關スル事項

- 三 公債ノ發行、募集及ヒ償還ニ關スル事項
- 四 其ノ他一切ノ財務事項
- 第九條 本會ハ工事ヲ保護スル爲警備隊ヲ置クコトヲ得
- 第十條 本會ハ國內外工程専門家ヲ聘任シテ顧問又ハ專門委員トナスコトヲ得
- 第十一條 本會ハ國民政府ノ認可ヲ得テ黃河水利公債ヲ發行シ又ハ借款ヲ以テ建設ノ用ニ充ツルコトヲ得、其ノ條例ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十二條 本會ハ日曜日毎ニ常會ヲ開キ四季ニ各一回ノ大會ヲ開キ必要アルトキハ臨時會議ヲ召集スルコトヲ得
- 第十三條 本會決議ノ實行及ヒ會内ノ事務處理ハ委員長ノ名義ヲ以テ之ヲ行フ
- 第十四條 本會ノ議事規程及ヒ各處科ノ議事規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十五條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

建設委員會  
農 礦 部

直轄中央模範林區組織章程

民國十八年二月二十三日公布

- 第一條 本模範林區ハ國民政府行政院建設委員會農 礦 部ニ直隸シ本區内ニ於ケル荒山、造林及ヒ其ノ他ノ林務事宜ヲ辦理ス
- 第二條 本模範林區施業區域ハ當分ノ中江浦、江寧、六合、句容ノ所轄タル宜林荒山ヲ以テ限リトナス

- 第三條 保護及ヒ施設ノ統一ヲ圖ル爲從來本模範區内ニ存在セル林場ハ私有及ヒ面積千畝未滿又ハ特ニ規定アルモノヲ除クノ外其ノ餘ハ一律ニ本模範林區代ツテ經營ヲナスモノトス
- 前項ノ林場所有權ハ本模範林區任意ニ變更スルコトヲ得ス但シ法律ニ依リ國有トナスモノハ此限ニ在ラス
- 第四條 私有林ノ本模範林區直轄森林ノ管理及ヒ施設ニ妨碍アルモノハ本模範林區ヨリ協議シテ之ヲ買收スルコトヲ得
- 第五條 本模範林區カ代行スル林場經營ノ爲ニ必要ナル經費ハ各林場所有者ノ負擔ニ歸シ其ノ得ル所ノ收益ハ各林主ノ享有ニ歸ス
- 前項費用ハ本模範林區ノ計算ニヨリ各該林主同意ノ後之ヲ定ム
- 第六條 本模範林區ニ左ノ各課ヲ設ク
  - 一 事 務 課
  - 二 技 術 課
- 第七條 事務課ノ掌理事務左ノ如シ
  - 一 各項ノ豫算編成ニ關スル事項
  - 二 金錢ノ出納及ヒ各種物品ノ購買ニ關スル事項
  - 三 文書ノ發受及ヒ保管ニ關スル事項

- 四 林業出版物ノ編算及ヒ宣傳ニ關スル事項
- 五 施業上ノ一切統計ニ關スル事項
- 六 所屬各處ノ執務報告審査ニ關スル事項
- 七 森林巡警及ヒ森林役夫ノ訓練及ヒ其ノ監督ニ關スル事項
- 八 造林傳習所ノ辦理ニ關スル事項

第八條 技術課ノ掌理事務左ノ如シ

- 一 造林實施ニ關スル事項
  - 二 苗圃ノ設置ニ關スル事項
  - 三 荒山土質ノ調査分析及ヒ測量ニ關スル事項
  - 四 植樹及ヒ作業方法ノ選定ニ關スル事項
  - 五 保護及ヒ培養ニ關スル事項
  - 六 森林ノ經理ニ關スル事項
  - 七 森林事業一切ノ研究及ヒ改良ニ關スル事項
  - 八 其ノ他一切ノ森林技術ニ關スル事項
- 第九條 本模範林區ニ主任一人ヲ置キ建設委員會主席會同シテ任命シ本模範林區一切ノ事務ヲ總理シ所屬職員ヲ指揮

監督セシム

第十條 本模範林區ニ技正兼課長二人ヲ置キ主任ヨリ會部ニ上申シテ任命シ主任ノ命ヲ承ケテ技術事務ヲ辦理シ並ニ各課ノ事務ヲ分掌セシム

第十一條 本模範林區ハ各課ニ課員一人乃至三人、技士三人乃至五人ヲ置キ主任ヨリ會部ニ申請シテ任命シ各課ノ事務ヲ助理セシム

第十二條 本模範林區ハ文件ノ作成謄寫及ヒ其ノ他ノ事務ノ爲適宜雇員ヲ採用スルコトヲ得

第十三條 本模範林區ハ全區ノ形勢及ヒ必要ニ照シ劃シテ若干分區トナスコトヲ得、其ノ分區ノ管理員ハ技士ヲ以テ之ニ充ツ

第十四條 本模範林區ニ技術委員會ヲ設ケ施業豫算造林計劃各事項ヲ議定ス其委員ノ人選ハ本模範林區主任ヲ當然委員ト爲ス外建設委員會、農礦部、江蘇省政府ヨリ各所屬職員中ノ林學專門ノ人才ニ就キ二人ヲ指定シテ之ニ任ス

第十五條 技術委員會ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 本模範林區ニ造林傳習所ヲ附設スルコトヲ得、其ノ章程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 本模範林區ノ辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農礦部東三省國有林整理委員會章程

民國十八年二月四日部令公布

- (一) 本會ハ農礦部ニ直隸シ東三省國有森林整理事宜ヲ管掌ス
- (二) 本會ハ當分ノ中委員七人乃至九人ヲ置キ部長之ヲ任命ス
- (三) 部長ハ本會ノ委員中ヨリ一人乃至三人ヲ指定シテ常務委員トス
- (四) 本會ノ議決事項ハ部長之ヲ査定シテ施行ス
- (五) 本會ハ必要ナルトキハ員ヲ東三省ニ派シ整理事務ヲ執行セシム
- (六) 本會ノ事務員及ヒ雇員ハ部長ヨリ部員ヲ指定シテ之ヲ兼任セシム
- (七) 本會ノ常務委員、事務員及ヒ雇員ヲ除クノ外餘ハ均シク名譽職員トス
- (八) 本會ハ三省林務機關組織成立ノ時即時撤廢ス
- (九) 本章程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

總理逝世紀念植樹式各省植樹暫行條例

民國十八年二月九日部令公布

- 第一條 各省ハ毎年三月十二日ノ總理逝世紀念日ニ於テ植樹式及ヒ造林運動ヲ舉行シ以テ民衆ノ林業ニ對スル注意ヲ喚起ス
- 第二條 植樹式ハ植樹地點ニ於テ之ヲ舉行ス
- 第三條 各省農礦廳又ハ建設廳ハ毎年該省及ヒ所屬各縣各市ニ於テ植樹地點ヲ豫定シ圖說ヲ作成シ植樹計畫書ト共ニ取經メテ農礦部ニ差出スヘシ
- 第四條 各省縣市ハ毎年植樹式ヲ舉行シ每處少クモ五百株ヲ植樹シ又ハ十畝ノ造林ヲ爲スヘシ
- 第五條 植樹地點ハ若シ相當ノ荒山ナキトキハ堤防又ハ路傍ニ於テ之ヲ定ムヘシ
- 第六條 植樹式ヲ舉行スル時ハ政府各機關長官、職員、各學校教師、生徒及ヒ地方團體民衆均シク一律ニ參加シ樹木ノ手植ヲナスヘシ
- 第七條 植樹式ニ植ウル所ノ樹木ハ地方公安局及ヒ林業主管機關ニ於テ切實ニ責ヲ負ヒテ保護管理スヘシ
- 第八條 植樹式ニ必要ナル經費ハ各省縣市長官ニ於テ責ヲ負ヒテ調達支出スヘシ
- 第九條 各省農礦廳又ハ建設廳ハ毎年植樹式舉行後二箇月内ニ該省及ヒ所屬各縣市ニ於ケル該年ノ植樹狀況及ヒ從前ノ植樹成績報告書ヲ圖表寫眞ト共ニ農礦部ニ差出スヘシ
- 第十條 各省植樹式ノ植樹成績ハ農礦部ヨリ員ヲ派シテ視察シ夫々賞罰スルコトヲ得
- 第十一條 各特別市ノ舉行スル植樹式及ヒ植樹辦法ハ本條例ヲ參照シテ辦理スヘシ



- 第十二條 本條例未タ事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ農鑛部ヨリ申請シテ修正スルコトヲ得
- 第十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 漁業法

民國十八年十一月十一日公布

### 第一章 總 綱

- 第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ
- 本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ營ム者及ヒ漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ
- 第二條 本法ニ於テ行政官ト稱スルハ中央ニ在リテハ農鑛部トシ各省ニ在リテハ農鑛廳トシ未タ農鑛廳ヲ設ケサル省ニ在リテハ建設省トシ各地方ニ在リテハ漁業局トシ未タ漁業局ヲ設ケサル地方ニ在リテハ縣政府トス
- 第三條 中華民國領海又ハ其他ノ公共水面ニ於テ漁業ノ權利ヲ取得シタル者ハ本法ニ依リテ所轄行政官署ニ申請シテ登記ヲナシ該官署ヨリ主管廳部ニ轉報スヘシ
- 前項ノ申請人ハ中華民國ノ國籍ヲ有スル者ニ限ル
- 漁業登記規則ハ農鑛部之ヲ定ム
- 第四條 公共用ニ非サル水面ニシテ公共用ノ水面ト連接シテ一體ヲ成スモノニハ本法ヲ適用ス

前項水面ノ占有者又ハ水底地ノ所有者ハ所轄行政官署ノ許可ヲ經テ他人カ之ヲ漁業ニ利用スルコトヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

### 第二章 漁業權及ヒ入漁權

- 第五條 漁業權ハ之ヲ物權ト看做シ民法ノ土地ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第六條 漁業權ヲ以テ抵當トナス場合其ノ漁場ニ定着スル工作物ハ別ニ契約ニ於テ約定アル場合ヲ除キ漁業權ニ附屬シテ一體ヲ成シタル物ト看做ス
- 第七條 法院ノ土地ノ管轄カ不動産ノ所在地ニ依テ定マル場合漁場ニ最モ近キ沿岸ノ屬スル鄉鎮又ハ之ニ相當スル行政區域ヲ不動産ノ所在地トス
- 第八條 漁業權ハ所轄行政官署ノ許可ヲ經ルニアラサレハ分割又ハ其ノ他ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス。
- 第九條 漁業權ノ存續期間ハ所轄行政官署之ヲ定ム但シ二十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニヨリ之ヲ更新スルコトヲ得
- 第十條 入漁權者ハ契約又ハ地方ノ慣習ニ依リ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入り該專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ經營スル權利ヲ有ス
- 第十一條 入漁權ハ物權ト看做ス但シ相續及ヒ讓渡ヲ除クノ外ハ權利ノ目的タルコトヲ得ス
- 第十二條 入漁權ハ漁業權者ノ同意ヲ經ルニアラサレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ地方ニ別段ノ慣習アル場合ハ

此限ニアラス

第十三條 漁業權又ハ入漁權カ共有ナル場合各共有者ハ他ノ共有者ノ同意ヲ經ルニアラサレハ其持分ヲ處分スルコトヲ得ス

第十四條 入漁權ノ存續期間ハ別ニ契約ナキ場合該漁業權ノ存續期間ト同シ

第十五條 漁業權者ハ入漁權者ヨリ入漁料ヲ收受スルコトヲ得入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ其ノ入漁ヲ拒絕スルコトヲ得入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 前二條ノ規定ト地方ノ慣習ト同シカラサル場合其ノ慣習ニ從フ

### 第三章 行政及ヒ管理

第十七條 漁具ヲ設定シテ採捕業ヲ經營シ又ハ水面ヲ區劃シテ養殖業ヲ經營セムトスル者ハ所轄行政官署ニ申請シテ許可ヲ得ルコトヲ要シ該官署ハ之ヲ主管廳部ニ轉報スヘシ

第十八條 一定ノ水面ヲ專用シテ漁業ヲ經營セムトスル者ハ所轄行政官署ヲ經由シテ主管廳ノ許可ヲ得ルコトヲ要シ該廳ヨリハ之ヲ農礦部ニ轉報スヘシ

前項ノ水面專用ノ權利ハ漁會ノ申請ヲ經ルニ非サレハ許可スルコトヲ得ス

第十九條 前二條ノ規定ヲ除クノ外農礦部カ特許ヲ與フルノ必要アリト認メタル漁業ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 行政官署ハ水産動植物ノ蕃殖ヲ保護スル爲又ハ其ノ他ノ公益ノ必要ノ爲漁業ノ許可ヲ與フルニ當リ之ニ制限ヲ加ヘ又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十一條 漁業ヲ許可シタル後左ニ掲クル事由ノ一アルトキハ行政官署ハ之ヲ取消スコトヲ得

- 一 許可ノ日ヨリ一年間漁業ニ從事セサルトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキ
- 二 漁業ノ許可ニ錯誤アルコトヲ發見シタルトキ

第二十二條 左ニ掲クル各款ノ事由ノ一アルトキハ行政官署ハ許可シタル漁業ヲ制限又ハ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

- 一 水産動植物ノ蕃殖ヲ保護スル必要アルトキ
- 二 船舶ノ航行碇泊ニ必要アルトキ
- 三 水底電線又ハ國防及ヒ其ノ他軍事上ノ必要アルトキ
- 四 公益ニ妨害アルトキ

第二十三條 漁業者カ本法又ハ本法ニ根據シテ發布セラレタル命令ニ違反シタルトキ行政官署ハ其ノ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十四條 漁業者ハ左ニ掲クル事項ノ爲必要アルトキハ行政官署ノ許可ヲ經テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ竹木土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

- 一 漁場ノ標識ノ建設
  - 二 漁業上必要ナル目標ノ建設又ハ保存
  - 三 漁業上ノ信號及ヒ其ノ他ノ必要ナル設備
- 第二十五條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官署ノ許可ヲ經テ他人ノ土地ニ立入り支障竹木又ハ其ノ他ノ障礙物ヲ除去スルコトヲ得
- 第二十六條 前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ豫メ該土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ之ニ因ツテ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第二十七條 行政官署ハ漁業者ニ命シテ漁場ノ標識ヲ建設セシムルコトヲ得

第二十八條 行政官署ハ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置カ魚類ノ通路ヲ妨害スルモノト認メタルトキハ除害工事を命スルコトヲ得

第二十九條 前條ノ規定ニ依リ行フ工事は對シテハ行政官署ハ相當ノ補償金ヲ給與スルコトヲ得但シ利害關係人ノ申請ニヨリ其ノ工事を命シタルトキハ行政官署ハ金額ヲ決定シテ該申請人ヨリ之ヲ補償スルコトヲ命スヘシ

第三十條 行政官署カ法令ノ規定ニ依リ漁業ヲ監督スルニ當リ必要アリト認ムルトキハ漁業船舶又ハ店舗及ヒ其ノ他ノ場所ニ在リテ其ノ帳簿及ヒ物件ヲ検査スルコトヲ得

前項ノ検査ニ際シ漁業ニ關スル犯罪ヲ發見シタルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲ス

コトヲ得

第三十一條 漁業ノ許可、登記、期限滿了ノ際ニ於ケル更新其ノ他ノ事項ニ對スル申請許否ニ對シ不服アル場合及ヒ第四條第二項、第二十一條、第二十二條、第二十三條、第二十八條ノ各規定ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得其ノ違法ニ因リテ權利ヲ害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條 漁業者ノ間ニ於テ漁業區域、漁業權、入漁權ノ範圍及ヒ漁業ノ方法ニ關シ爭議アルトキハ其ノ關係人ハ所轄行政官署ノ裁定ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁定ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得其ノ違法ニ權利ヲ害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

#### 第四章 保護及ヒ獎勵

第三十三條 行政官署ハ水産動植物ノ蕃殖又ハ取締ノ爲左ニ掲クル命令ヲ發スルコトヲ得

- 一 水産動植物採捕ニ關スル制限又ハ禁止
- 二 水産動植物及ヒ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限又ハ禁止
- 三 漁具漁船ニ關スル制限又ハ禁止
- 四 水産動植物ニ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止
- 五 水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限又ハ禁止

前項ノ命令ニハ漁獲物及ヒ漁具ノ沒收ト追徴價格ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三十四條 漁期内ニ在リテ所轄行政官ハ護船ノ派遣ヲ申請シテ救護巡緝ノ責ニ任セシムルコトヲ得其ノ辦法ハ農  
鑛部之ヲ定ム

第三十五條 漁獲物ニ對スル課稅ハ一回ヲ以テ限リトナス其ノ稅率ハ價格ノ百分ノ五ヲ超ユルコトヲ得ス從來ノ漁  
獲物及ヒ漁具漁船等ニ對スル各種ノ正雜稅捐ハ一律ニ免除ス

第三十六條 漁業用鹽ノ稅率ハ百斤ニツキ多クモ二角ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十七條 政府ハ漁業ノ改良發達ヲ獎勵スル爲ニ豫算内ニ漁業獎勵金及ヒ漁業銀行ノ基金ヲ計上スヘシ

第三十八條 左ニ掲クル各款ノ一ニ該當スル者ハ所轄行政官署ヨリ主管行政官署ニ申請シ該官署ヨリ農鑛部ニ轉請  
シテ許可ヲ得獎勵金ヲ支給スルコトヲ得

- 一 汽船又ハ帆船ヲ以テ遠洋ニ於テ捕魚又ハ運魚ヲナス者
- 二 護船ヲ設備シテ常ニ一定水面ニ在リテ救護及ヒ巡緝ニ任スル者
- 三 漁船漁具又ハ採捕ノ方法ヲ改良シタル者
- 四 水產學校ヲ創設シテ成績優秀ナル者
- 五 水產物ノ製造場及ヒ之ニ使用スル器械ヲ設備シタル者
- 六 水產物ノ貯藏倉庫又ハ運搬用ノ舟車ヲ設備シタル者

七 新タニ漁港又ハ停船港ヲ開キタル者

八 新タニ水產物ノ蕃殖場、畜養場、種魚場、人工孵化場ヲ設ケタル者

九 其ノ他獎勵スヘキ事項アリト認メタル者

第三十九條 漁業獎勵規則ハ農鑛部之ヲ定ム

#### 第五章 罰 則

第四十條 漁業ノ權利ヲ侵害シタル者ハ損害ヲ賠償セシムル外二百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 漁場ノ標識ヲ遷移汚損シ又ハ破壞シタルモノハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第三十條ノ規定ニヨル職務ノ執行ヲ拒絕又ハ妨害シ又ハ檢査捜査ノ時官吏ノ訊問ニ對シテ答辯ヲナサ  
ス又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 左ニ掲クル各款ノ一ニ該當スル者ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 未タ許可ヲ得ス又ハ業務停止期間内ニ漁業ヲ經營スル者
- 二 許可ノ條件ニ違反シテ漁業ヲ經營スル者
- 三 特殊漁業停止期間中該漁場ニ於テ停止セラレタル漁業ヲ經營スル者
- 四 漁業ニ關スル制限又ハ禁止ノ命令ニ違反シテ漁業ヲ經營スル者

上記ノ各款ニ依リテ處罰スル場合其ノ所有スル漁獲物及ヒ漁具ノ全部又ハ一部ヲ沒收スル能ハサルトキハ其ノ

價格ヲ追徴スルコトヲ得

第四十四條 柵欄建築物ヲ設ケ又ハ漁具ヲ以テ魚類ノ通路ヲ斷絶スルモノハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 藥品餌餅又ハ爆裂物ヲ水中ニ投シテ魚類ヲ麻醉又ハ減害スル者ハ一年以下ノ徒刑ニ處シ並ニ二百元以下ノ罰金ニ處ス

第六章 附 則

第四十六條 國營及ヒ私營ノ漁業ハ法律ニ別ニ規定アル場合ノ外本法ノ規定ヲ準用ス

第四十七條 本法ノ施行規則ハ農礦部之ヲ定ム

第四十八條 本法施行前ニ漁業ノ權利ヲ取得シタル者ハ本法施行後一箇年内ニ法ニ依リテ登記ヲ申請スヘシ

第四十九條 本法施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

漁 會 法

民國十八年十一月十一日公布

第一條 漁會ハ漁業者ノ智識技能ヲ増進シ其ノ生活ヲ改善シ並ニ漁業ノ生産ヲ發達セシムルヲ以テ目的トス

第二條 漁會ハ法人トス

第三條 漁會ノ任務左ノ如シ

一 漁業ノ改良事項

二 漁村漁市ノ整理事項

三 漁業資金ノ調達及ヒ漁船、漁具ノ賃貸借事項

四 漁業者共同ノ販賣、製造、運輸、計畫事項

五 漁業教育ノ舉辦事項

六 水産陳列所及ヒ博覽會ノ計畫事項

七 生産、消費、購買、信用、住宅諸組合ノ組織事項

八 貯蓄、保險、醫療、託兒諸事業ノ開始事項

九 漁業ノ保護及ヒ救卹ニ關スル事項

一〇 漁業ノ調査及ヒ建議ニ關スル事項

一一 官署ノ諮問及ヒ委託ニ關スル事項

一二 漁業者間ノ爭議調停ニ關スル事項

一三 水上標識ノ設置ニ關スル事項

一四 其ノ他會員ノ共同利益ニ關スル事項

第四條 漁業ハ縣ヲ以テ區域トナシ漁業ノ繁盛ナル地方ニ之ヲ設置ス

第六章 産業關係法令

同一区域内ニ二箇以上ノ漁會ヲ設置スルコトヲ得ス但シ重要港埠ニシテ相距ルコト四十里以上ナルトキハ分會ヲ設置スルコトヲ得

第五條 同一区域内ニ居住スル滿十六歳以上ノ漁業者又ハ水産物ノ製造、運輸、保管、各業ヲ營ム者五十人以上連署シテ發起人トナリ本法ニ依リ漁會ヲ組織スルコトヲ得

前項ノ發起人ハ創立大會ヲ開キ章程ヲ議定シ五人以上九人マテノ代表ヲ選出シテ漁會設立申請書ニ定款、代表者ノ履歷書及ヒ發起人名簿ヲ添附シ所轄行政官署ニ對シテ其ノ設立ヲ申請スルコトヲ得

漁會ノ設立カ許可セラレタルトキハ成立期日及ヒ選出職員ノ履歷、會員氏名ヲ所轄行政官署ニ呈報スヘシ

第六條 左ニ掲クル事由ノ一アル者ハ發起人又ハ會員タルコトヲ得ス

- 一 公權ヲ褫奪セラレテ未タ復權セサル者
  - 二 破産ノ宣告ヲ受ケタル者
  - 三 禁治産者
  - 四 鴉片又ハ其ノ代用品ヲ吸用スル者
- 第七條 漁會ノ定款ニハ左ニ掲クル各事項ヲ記載スベシ
- 一 名稱、區域及ヒ會事務所ノ所在地
  - 二 會員ノ資格及ヒ權利義務ノ規定

- 三 會員ノ入會退會及ヒ除名ノ規定
- 四 職員ノ人数、權限及ヒ選任解任ノ規定
- 五 會議ノ規定
- 六 共同施設事業ノ規定
- 七 經營及ヒ財産管理ノ規定
- 八 解散ノ規定

前項ノ定款ハ所轄官廳ニ提出シテ認可ヲ得該官廳ヨリ之ヲ農礦部ニ轉報スヘシ其ノ變更ノ時亦同シ

第八條 漁會ニハ理事ヲ置キ會員中ヨリ之ヲ選出スヘシ但シ必要アルトキハ所轄官署ノ許可ヲ得テ會員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

理事ハ會内一切ノ事務ヲ處理シ外部ニ對シテ本會ヲ代表ス

第九條 漁會ニハ監事ヲ置キ會員ヨリ之ヲ選任ス

監事ハ漁會ノ記録、帳簿ヲ審査シ事業ノ進行状態ヲ稽查シ並ニ各職員ヲ監察ス

第十條 漁會ニハ事務員及ヒ調査員ヲ置ク但シ調査員ハ水産ニ關スル學識ヲ有スル者又ハ漁業ニ經驗アル者ヲ以テ合格者トス

第十一條 漁會ノ理事又ハ其ノ他ノ職員カ職務ヲ執行スル爲ニ他人ニ加ヘタル損害ニ對シテハ漁會ハ連帶賠償ノ責

任ヲ負フヘシ但シ他人カ明ニ其ノ越權ノ行爲タルヲ知り又ハ自己ノ故意又ハ過失ニヨリ損害ヲ受クルニ至リタル場合ハ此限リニアラス

第十二條 漁會々議ハ會員大會、代表者大會及ヒ臨時大會ニ分ツ

會員大會ハ毎年一回召集シ代表者大會ハ三箇月毎ニ一回召集シ臨時大會ハ會員三十人以上ノ提議ニヨリ又ハ理事監事カ必要ト認メタルトキ之ヲ召集ス

第十三條 理事ハ大會召集ノ十五日前ニ各會員ニ通知スヘシ但シ臨時會ハ此限リニ在ラス

第十四條 左ニ掲クル各款ノ事項ハ會員大會又ハ代表者大會ノ議決ヲ經ヘシ

- 一 定款ノ變更
- 二 職員及ヒ代表者ノ選任解任又ハ被選舉權ノ停止
- 三 會員ノ除名
- 四 經費ノ調達
- 五 豫算決算ノ議決
- 六 共同事業ノ創始
- 七 基金ノ管理又ハ處分
- 八 漁會聯合會ノ組織及ヒ其ノ加入又ハ退會

九 漁會ノ解散

十 清算人ノ選任及ヒ清算ニ關スル事項

條十五條 漁會ノ經費ハ左記ノ二種トス

- 一 事務費 會務執行ニ必要ナル經常支出之ニ屬ス
- 二 事業費 共同事業創始ニ必要ナル特別支出之ニ屬ス

前項ノ事務費ハ會員ノ會費ヲ以テ之ニ充ツ事業費ハ大會ノ決議ニヨリ之ヲ調達ス

第十六條 漁會ハ會員ヨリ會費ヲ徴收ス但シ入會金ハ一人ニツキ一元毎月ノ會費ハ一人ニツキ二角ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 漁會ハ毎年左ニ掲クル各文書ヲ所轄官署ニ呈報シ該官署ハ之ヲ廳部ニ轉報スヘシ

- 一 職員ノ姓名履歴表
- 二 會員名簿
- 三 經費出入豫算及ヒ決算書
- 四 財産目録
- 五 大會決議録
- 六 事業進行概要

七 漁業狀況報告

八 各項爭議事件ノ經過

第十八條 漁會ハ左ニ掲クル事由ノ一ニヨリ解散ス

一 定款ニ定メタル事實ノ發生

二 大會ノ決議

三 漁會ノ分裂又ハ合併

四 漁會ノ破産

五 行政官署ノ法律ニ依ル處分

第十九條 漁會ヲ解散スルトキハ第十四條第十款ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任スヘシ清算人ヲ選任シ得サルトキハ所轄行政官署之ヲ指定スヘシ

第二十條 清算人カ清算事務ヲ執行スルニ當リ關係重大ナル事項アルトキハ會員大會ヲ召集シ其ノ決議ニ依リ之ヲ行フ但シ會員大會ヲ召集シ能ハサルトキハ清算人自ラ之ヲ決定シ所轄行政官署ノ許可ヲ申請スヘシ

第二十一條 清算人ノ任務ハ清算報告ヲ所轄官署ニ呈出シテ其ノ承認ヲ得タル後ニアラサレハ解除スルコトヲ得ス

第二十二條 漁會ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達成スル爲聯合シテ漁會聯合會ヲ組織スルコトヲ得

漁會聯合會ハ所在地官署ニ設立ヲ申請シタル後ニアラサレハ設立スルコトヲ得ス

第二十三條 漁會又ハ漁會聯合會ニ對シテハ營業稅又ハ登記稅ヲ課スルコトヲ免ス但シ營利事業ヲ爲スヲ得ス

第二十四條 行政官署ハ何時ニテモ漁會又ハ漁會聯合會ニ對シテ事業報告書ノ呈出ヲ命令シテ其ノ事業ヲ審査シ其ノ事業及ヒ財産狀況ヲ検査シ並ニ其他ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ及ヒ處分ヲナスコトヲ得

第二十五條 漁會及ヒ漁會聯合會ノ決議又ハ職員ノ行爲カ法令又ハ定款ニ違反シ又ハ公益ニ妨害アリト認メタルトキハ所轄行政官署ハ左ニ掲クル處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 職員ノ免職

三 漁會又ハ漁會聯合會ノ解散

第二十六條 漁會又ハ漁會聯合會カ本法ニ基キテ發布セラレタル命令ニ違反シタルトキハ其ノ職員ヲ三百元以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 本法ハ第四條以下第六條マテヲ除クノ外漁會聯合會ニ適用ス

第二十八條 本法施行前沿海各省ノ漁業者カ設立シタル漁業團體ハ本法施行後六箇月内ニ本法ニ依リテ組織ヲ改メ設立ヲ申請スヘシ

第二十九條 本法ノ施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム



## 第二節 商工關係法令

### 修正商標條例

民國十四年九月十二日國民政府修正公布

- 第一條 自己ノ生産、製造、加工、精選又ハ卸賣及ヒ取扱ニ係ル商品ナルコトヲ表明スル爲商標ヲ專用セムト欲スル者ハ本條例ニ依リ登録ヲ申請スルコトヲ要ス
- 商標ニ用ウル文字、圖形、記號又ハ其ノ結合ハ特別顯著ナルモノナルコトヲ要シ且施ス所ノ色彩ヲ指定スヘシ
- 第二條 左ニ記載スル各款ノ一ニ該當スルモノハ商標トシテ登録ヲ申請スルコトヲ得ス
- 一 中華民國ノ國旗、國徽、國璽、軍旗、官印及ヒ勳章ト同様又ハ類似スルモノ
  - 二 赤十字章又ハ外國ノ國旗、軍旗ト同様又ハ類似スルモノ
  - 三 風俗秩序ニ妨碍アリ又ハ公衆ヲ欺罔スル虞アルモノ
  - 四 同一商標ノ慣習上普ク用ヰラル、標章ト同様又ハ類似スルモノ
  - 五 世人ノ周知スル他人ノ標章ノ同一商品ニ使用セラル、モノト同様又ハ類似スルモノ
  - 六 政府ノ授與シタル褒章及ヒ博覽會、勸業會ノ獎牌、褒狀ト同様又ハ類似スルモノ但シ自己ノ授與セラレタル

モノヲ以テ商標ノ一部分トナスコトハ此限ニ在ラス

- 七 他人ノ肖像、姓名、商號又ハ法人及ヒ團體ノ名稱ヲ有スルモノ但シ其ノ承諾ヲ得タルモノハ此限ニ在ラス
- 八 他人ノ登録シタル商標ノ失效後一年滿タサルモノ、但シ登録ノ失效前既ニ一年以上使用セサルモノハ此限ニ在ラス

第三條 二人以上カ同一商品ニ對スル同様又ハ類似ノ商標ヲ以テ各別ニ登録ヲ申請シタルトキハ最先ニ使用セルモノニ登録ヲ許可シ其ノ申請前孰レモ未タ之ヲ使用セス又ハ最先ニ使用シタル者ヲ確實ニ證明シ能ハサルトキハ最先ニ申請シタル者ニ登録ヲ許可ス同日ニ申請シタル時ハ各申請者カ協議妥協シテ一人ノ専用ニ歸セシムルニ非サレハ登録セス

第四條 本條例施行以前ニ於テ善意ヲ以テ五年以上繼續使用シタル商標ハ本條例施行後六箇月内ニ本條例ニ依リ登録ヲ申請スルトキハ第二條第五款及ヒ第三條ノ規定スル制限ニ依ラスシテ登録ヲ許可スルコトヲ得、但シ實業廳カ必要ト認ムルトキハ之カ使用ニ就キ其ノ形式ニ修改又ハ制限ヲ加フルコトヲ得

第五條 同一商人カ同一商品ニ類似ノ商品ヲ使用セムトスルトキハ聯合商標トシテ登録ヲ申請スルコトヲ得

第六條 外國商人カ商標相互保護ノ條約ニ依リ其ノ商標ヲ専用セムトスルトキハ本條例ニ依リ登録ヲ申請スルコトヲ得

第七條 中華民國領土内ニ住所又ハ營業所ナキ者ハ中華民國領土内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ニ代理ヲ委託スル

ニアラサレハ商標登録ノ申請及ヒ其ノ他ノ手續ヲ爲シ並ニ商標專用權又ハ商標ニ關スル一切ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス

第八條 前條代理人ハ特ニ委任セラレタル權限ノ外本條例及ヒ其ノ他ノ法令ニ於ケル商標ニ關スル一切ノ手續及ヒ訴訟事務ニ關シ均シク本人ヲ代表ス

代理人ノ選任更替又ハ其ノ代理權ノ變更消滅ハ實業廳ニ登録ヲ申請シテ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九條 實業廳ハ商標ニ關スル代理人ヲ不適當ト認メタルトキハ代理人ノ更替ヲ命スルコトヲ得既ニ更替ヲ命シタル後ハ其ノ商標ニ關シ代理シタル行爲ヲ無効ト爲スコトヲ得

第十條 實業廳ハ外國又ハ邊境及ヒ交通不便ノ地ニ住居スル者ニ對シ職權ニヨリ又ハ申請ニ據リ登録所ニ對スル法定手續期間ヲ延期スルコトヲ得

第十一條 商標ニ關スル申請及ヒ其ノ他ノ手續ヲ爲ス者法定又ハ指定ノ期限ヲ遲延スルトキハ其ノ申請又ハ一切ノ手續ヲ無効トス但シ確實ニ事故又ハ障礙アル場合ハ此限ニアラス

第十二條 商標ノ證明圖案ノ模寫文書ノ査閱又ハ抄録ニ關シ申請ヲ爲ス者アル場合實業廳ハ秘密嚴守ヲ必要ト認ムルモノヲ除クノ外之ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第十三條 商標登録者ハ商標登録ノ日ヨリ商標專用權ヲ取得ス商標專用權ハ申請書ニ指定セル商品ヲ以テ限リト爲

ス

第十四條 一般使用ノ方法ヲ以テ自己ノ姓名、商號又ハ其ノ商品ノ名稱、產地、品質、形狀、效用ヲ表示スル者ハ商標專用權ニ拘束セラル、コトナシ但シ惡意ヲ以テ同一ノ姓名商號ヲ使用スル場合ハ此限ニアラス

第十五條 商標ノ專用期間ハ登録ノ日ヨリ二十箇年ヲ以テ期限トス

第六條ノ規定ニ依リ外國ニ登録シタル商標ノ登録ヲ申請シタル場合其ノ專用期間ハ該登録國ノ原定期間ヲ以テ標準トス但シ二十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ專用期間ハ本條例ノ規定ニ依リ更新ヲ申請スルコトヲ得、但シ其ノ後ノ二十箇年ヲ以テ限リト爲ス

第十六條 商標登録ノ申請ニヨリ生スル權利ハ其ノ營業權ト共ニ一括シテ他人ニ移轉スルコトヲ得、並ニ該商標ヲ使用スル商品ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得、但シ聯合商標ノ商標權ハ分割移轉スルコトヲ得ス

前項ノ權利ヲ繼承スル者ハ舊申請人ノ名義ヲ變更シ並ニ實業廳ノ登録許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス其ノ商標專用權ヲ擔保トスル場合亦同シ

第十七條 商標專用權ハ登録人ヨリ隨時取消ヲ申請シ得ル外登録ノ後左記事由ノ一アル場合ハ實業廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ利害關係人ノ申請ニ據リ之ヲ取消スコトヲ得

一 自ラ其ノ登録セル商標ヲ變改シ又ハ附記ニヨリテ模倣ヲ圖リ之ヲ使用スル者

二 登録後正當ノ事由ナクシテ一年以上之ヲ使用セス又其ノ使用ヲ停止スルコト二年以上ニ及フ者

三 商標移轉後一箇年ヲ經ルモ登録ヲ申請セサル者、但シ相續ニヨル移轉ハ此限ニアラス  
前項第二款ノ規定ハ聯合商標ノ場合ニ於テ依然其ノ一ヲ使用スル者及ヒ外國ニ登録シ登録國ニ於テ既ニ之ヲ使  
用シ又ハ其ノ使用ヲ停止セサル者ニ適用セス

實業廳カ第一項ニ定ムル取消處分ヲ爲ス場合ハ六十日以前ニ商標專用者又ハ其ノ代理人ニ告知スヘシ、第一項  
ニ定ムル取消處分ヲ受ケ不服アル者ハ六十日以内ニ法規ニ從ヒ省政府ニ訴願ヲ提起スヘシ

第十八條 商標專用期間内ニ其ノ營業ヲ廢止スルトキハ商標專用權ハ之ニヨツテ消滅ス

第十九條 商標専用又ハ其ノ専用期間更新ノ登録カ第一條乃至第五條ノ規定ニ違反スルトキハ實業廳ノ審判ヲ經テ  
無効トス

第二十條 實業廳ニ商標簿ヲ備ヘテ商標專用權及ヒ商標ノ權利並ニ法令ノ規定ニ關スル一切ノ事項ヲ記入シ登録ヲ  
許可シタル商標ハ總テ商標簿ニ登録シ並ニ登録證ヲ下付スヘシ

第二十一條 實業廳カ登録ヲ許可シタル商標及ヒ商標ニ關スル必要事項ハ總テ政府公報又ハ實業廳ノ刊行スル公報  
ニ登載スヘシ

第二十二條 商標ノ専用又ハ其ノ専用期間更新ノ登録ヲナストキハ申請人ヨリ申請ノ時規定ノ登録費ヲ納入スヘシ  
但シ實業廳ハ申請ヲ却下シタル場合之ヲ返還スヘシ

第二十三條 登録ヲ申請スル者ハ各種類ノ商品ニ就キ商標ヲ指定スヘシ

前項商品ノ類別方法ハ別ニ施行細則ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 實業廳ハ商標ノ専用又ハ其ノ専用期間ノ登録申請アルトキハ審査員ヲシテ之ヲ審査セシメ法規ニ違反  
セスト認メタルトキハ審査通知書ニ依ツテ申請人ニ通知スル外政府公報又ハ實業廳ノ刊行スル公報ニ登載シ爾後  
四箇月間ニ利害關係人ヨリノ異議ナク又異議アルモ之ニ對スル辯明ヲ經タル時之ヲ許可スヘシ

第二十五條 商標ノ登録申請却下ニ對シ不服アルトキハ審定書送達ノ日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ具シ法規ニ  
從ヒ省政府ニ訴願ヲ提起スヘシ

第二十六條 利害關係人ハ左記ノ場合ニ於テ審判ヲ申請スルコトヲ得

一 第十九條ノ規定ニ依リ其ノ登録ヲ無効トセラレタル場合

二 商標專用權ノ範圍ヲ確認スル必要アル場合

第一條又ハ第二條第一款乃至第六款ノ規定ニ違反シ其ノ登録ノ無効トセラレタル場合審査員ヨリ審判ヲ請求スル  
コトヲ得

登録シタル商標カ第二條第七款、第三條乃至第五條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テ公報登載ノ日ヨリ滿二年ヲ經  
過シタルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 審判ヲ請求スルトキハ申請書ヲ實業廳ニ提出スヘシ

審判事項ニ關シ各當事者ノ提出シタル書狀ヲ抄録シテ相手方ニ示シ文書ヲ以テ相互ニ答辯セシムルコトヲ要ス並

ニ詰問書ヲ發シテ陳述ヲ徵スルコトヲ得

第二十八條 審判ハ審判委員三人ノ合議ニ依リ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

審判委員ハ實業廳長ニ於テ各該事件ニ利害關係ヲ有シ又ハ之ニ參與シタル者ヲ迴避セシム

第二十九條 審判ハ文書ニ就キテ之ヲ審決ス、但シ必要ト認めタルトキハ日時ヲ指定シテ當事者ヲ出頭セシメ口頭辯論ヲナサシム審判ニ關係アル各當事者カ法定又ハ指定ノ期間ニ審決ヲナサル場合ニ於テ審判ハ之ニヨリ中止セス

第三十條 審判事件ニ關シ利害關係アル者ハ審判終結前ニ於テ參加ヲ申請スルコトヲ得、之ニ對スル許否ハ當事者並ニ審判委員ニ諮問シ合議ニヨリ之ヲ決定ス參加人カ審判ニ關シテ爲ス所ノ行爲カ其ノ輔助スル所ノ當事者トノ行爲カ相抵觸スルモノハ無効トス

第三十一條 審判ノ審決ニ對シテ不服アル者ハ審決書送達ノ日ヨリ六十日以内ニ法規ニ依リ省政府ニ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十二條 商標專用權ニ關スル事項ニツキ民事又ハ刑事訴訟ヲ提起スル者ハ審判ノ審決確定後其ノ訴訟手續ヲ進行スヘシ

第三十三條 營利ヲ目的トスル商品ニ標章ヲ專用セムトスル者ハ本條例ニ依リ登録ヲ申請スルコトヲ得前項ノ標章ハ商標ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十四條 商標登録費及ヒ其ノ他商標ニ關シテ徵收スヘキ公費ノ額ハ施行細則ニ於テ之ヲ定ム

第三十五條 左ノ各款ニ記載スル一ニ該當シタル者ハ一年以上ノ徒刑又ハ五百元以上ノ罰金ニ處シ並ニ其ノ物件ヲ沒收ス

一 他人ノ登録セル商標ヲ同一商品ニ使用シ又ハ他人ノ登録セル商標ヲ附シタル容器包装等ヲ同一商品ニ使用シ又ハ此種商品ヲ交付又ハ販賣シタル者

二 同一商品ニ使用セシムル目的ヲ以テ他人ノ登録セル商標又ハ他人ノ登録セル商標ヲ附シタル容器包装等ヲ交付又ハ販賣シタル者

三 自ラ同一商品ニ使用シ又ハ人ヲシテ使用セシムル目的ヲ以テ他人ノ登録セル商標ヲ偽造又ハ模造シタル者

四 登録セル商標ヲ偽造又ハ模造シテ同一商品ニ使用シ又ハ人ヲシテ同一商品ニ使用セシムル目的ヲ以テ之ヲ他人ニ交付又ハ販賣シタル者

五 偽造又ハ模造セル商標ヲ使用セル同一商品ヲ交付又ハ販賣シタル者

六 他人ノ登録セル商標ト同様又ハ類似ノ商標ヲ使用セル商品ヲ交付販賣シテ外國ヨリ輸入シタル者

七 同一ノ商品ニ關シ他人ノ登録セル商標ト同様又ハ類似ノ商標ヲ營業ニ用ウル廣告、看板、引札及ヒ取引書類ニ使用シタル者

前項第一款第二款及ヒ第五款第六款ノ交付又ハ販賣ノ罪ハ交付又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者ニ對シ亦

同シク之ヲ科ス

第一項各款ノ罪ハ被害人ノ告訴ヲ待チテ論ス

第三十六條 左ニ記載シタル各款ノ一ニ該當シタル者ハ六箇月以下ノ徒刑又ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標權ヲ取得シタル者

二 登録ヲ經スシテ登録済ノ商標ナリト詐稱シテ商品ニ使用シ又此種商品ヲ交付又ハ販賣シ又ハ交付販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

三 登録ヲ經スシテ登録済ノ商標ナリト詐稱シ之ヲ營業ニ用ウル廣告看板引札及其ノ他ノ取引書類ニ表示スル者

第三十七條 第三十五條ノ規定ニ依リ沒收スヘキ物件ハ判決前ニ被害者ノ請求ニヨリ之ヲ評價シ被害者ニ交付スル

言渡ヲナスヘシ被害者ノ損害額カ前項ノ交付シタル物件ノ評價ヲ超過シタルトキハ其ノ不足額ニ就キ損害賠償ノ

訴訟ヲナスコトヲ得

第三十八條 證人、鑑定人及ヒ通事カ實業廳及ヒ之ヲ囑託セル行政又ハ司法官署ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ

ハ六箇月以下ノ徒刑又ハ二百元以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者查定又ハ審決前ニ自首シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第三十九條 第三十五條乃至第三十八條ニ規定スル商標ニ關スル罰則及ヒ損害賠償ノ審理及ヒ執行ハ外國人民ニ關

シ條約ニ特別ノ規定アルトキハ現行條約ニ依リ辦理ス

第四十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 修正商標條例施行細則

民國十四年九月十二日國民政府公布

第一條 商標專用權ノ登録ヲ申請スル者ハ本細則第三十一條ニ規定スル商品種別ニ從ヒ申請書ヲ認メ並ニ商標圖案

五枚及ヒ商標印版一箇ヲ附呈スヘシ但シ印板ハ申請後六十日以内ニ續呈スルコトヲ得

第二條 商標圖案ハ堅韌清潔ノ紙料ニ筆墨ヲ以テ描キ長サ及ヒ幅ハ共ニ新定營造尺五寸ヲ超ユルコトヲ得ス(即十

六公分)

商標圖案ハ指定ノ彩色ニ依リ着色スヘシ

第三條 商標印版ハ木版又ハ細網板及ヒ其ノ他印刷ニ便宜ナルモノヲ用ウルコトヲ要ス長サ及ヒ幅ハ新定營造尺ヲ

以テ計リ均シク四寸(即チ十二公分八公釐)厚サ八分(即二公分五釐六)ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 實業廳ハ必要ト認ムルトキハ商標登録申請人ヲシテ別ニ商標ノ説明書ヲ提出セシメ及ヒ商標圖案ノ再提出

ヲ命スルコトヲ得

第五條 商標條例第二條第六款乃至第八款ニ規定スル商標ノ登録ヲ申請スル者ハ各款ノ但書ノ規定ニ依リ登録ノ承

諾ヲ得タル事實ヲ證明スルコトヲ要ス

第六條 商標條例第三條ノ規定ニ依リ登録ヲ申請スル者既ニ申請前之ヲ使用シタルトキハ該商標ヲ使用シタル事實及ヒ其ノ年月日ヲ證明スルコトヲ要ス

第七條 商標條例ノ規定ニ依リ各申請人ノ協議ヲ必要トスルトキハ實業廳ハ相當期間ヲ指定シテ各申請人ニ協議呈報スヘキコトヲ通知ス

前項ノ期間ヲ經過スルモ協議決定ノ呈報ナキトキハ妥協カ未タ成立セサルモノト認ム

第八條 登録セル商標ト相似スル商標ヲ聯合商標ト爲スタメニ登録ヲ申請スル場合ハ其ノ登録商標ノ原登録證ヲ添附スヘシ

前項申請ノ商標カ既ニ登録済ナル場合ハ添附ノ原登録證ニ其ノ登録番號ヲ記入シ實業廳ヨリ捺印シテ還付スヘシ

第九條 商標專用權カ讓渡又ハ其ノ他ノ事由ニヨリ移轉シタル場合其ノ登録ヲ申請スル者ハ關係者連署シ並ニ左ノ物件ヲ添附スヘシ

一 原登録證

二 合法移轉ノ證據書類

三 營業ト共ニ移轉シタル證據書類

第十條 商標條例第九條第一項ニ依リ代理人ヲ交替シタルトキハ同時ニ該代理人ニ通知スヘシ

第十一條 商標專用期間ノ更新ノ登録ヲ申請スル者ハ滿期ノ三箇月前ニ申請シ並ニ原登録證ヲ附呈スヘシ

商標專用期間滿期前ニ於テ既ニ前項ノ期限ヲ經過シタル場合別ニ定メタル公費ヲ納付スルトキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十二條 商標專用權ノ分割移轉登録申請人ハ其ノ移轉シタル商標ヲ使用スル商品ヲ明記スヘシ

第十三條 聯合商標中ノ一種ノ商標專用權移轉登録申請人ハ更ニ同時ニ他種商標專用權ノ移轉登録ヲ申請スヘシ

第十五條 營業ヲ廢止シタル爲其ノ商標專用權ヲ取消ス場合ハ登録名義人之ヲ申請スルコトヲ得登録ノ一部分ヲ取消ス場合ハ營業ヲ廢止シタル商品ヲ明記スヘシ

第十四條 商標ノ登録又ハ其ノ手續ニ關スル各項ノ文書ハ書式アルモノハ各其ノ書式ニ依ルヘシ

第十六條 代理人カ商標ニ關スル申請又ハ其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ハ其ノ代理權ヲ證明スル文書ヲ添附スヘシ但シ法人ノ支配人又ハ代表者カ其ノ法人ノ名義ヲ以テ之ヲ爲ス場合ハ此限ニアラス

第十七條 外國人カ商標ニ關スル申請又ハ其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ハ併セテ國籍證明書及ヒ現ニ中國領土内ニ確實ナル商業營業所ヲ有スル證明書ヲ提出スルコトヲ要ス外國ノ法人タル場合ハ其ノ證明書ヲ附呈ヘシ

第十八條 代理權證明書又ハ國籍證明書及ヒ其ノ他ノ附呈ヲ必要トスル文書カ外國文ナルトキハ華文ノ翻譯ヲ添附スヘシ書狀ヲ以テ商標ニ關スル各項ノ申請ヲ爲ス場合相手方又ハ關係人アルトキハ副本ヲ添附スヘシ

第十九條 實業廳ハ職權又ハ申請ニヨリ本細則ニ規定スル期間及ヒ商標條例又ハ本細則ニ指定スル期日及ヒ期間ヲ變更スルコトヲ得

期日及ヒ期間變更ノ申請ハ相手方又ハ關係人アル事件ニ於テハ之ト交渉シテ同意ヲ得サルトキ又ハ顯著ナル理由アルニアラサレハ許可セス

第二十條 商標條例第十一條ニ依リ障碍アルコトノ申立ヲ爲ス場合ハ其ノ事實ト發生及ヒ消滅ノ年月日ヲ詳細ニ記載シ並ニ其ノ延期ノ順序ヲ届出ツヘシ

第二十一條 申請人又ハ其ノ代理人カ姓名商號住所又ハ印章ヲ變更スルトキハ直チニ實業廳ニ呈報スヘシ住所ナキ者カ其ノ居所又ハ營業所ヲ變更シタル時及ヒ商標專用權者カ其ノ印章ヲ變更シタル時亦同シ姓名又ハ印章ノ變更ニハ證明書ヲ添附スヘシ

第二十二條 商標ニ關スル申請ノ爲差出シタル文書又ハ其ノ他ノ物件ニハ商標名稱及ヒ申請人ノ姓名ヲ註明シ既ニ登録シタルモノハ併セテ其ノ商標番號ヲ註明スヘシ

第二十三條 文書又ハ物件ノ差出日ハ實業廳ニ到着シタル日ヲ以テ基準トス

第二十四條 實業廳ノ審決審判及ヒ其ノ他ノ文書ハ申請人及ヒ其ノ關係者ニ送達スヘシ

實業廳カ送達シ得サル文書ハ總テ公報ニ掲載シ該公報發行ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ送達シタルモノト看做ス

做ス

實業廳ハ代理人ノ選任カ未タ登録ヲ經サル場合總テノ文書ノ送達ハ郵便ニ付託シタル日ヲ以テ基準トス

第二十五條 商標ニ關スル證據及ヒ物件ノ提出ハ提出人カ豫メ受領者ヲ申出テアル場合ハ該案確定後六十日以内ニ

領收スヘシ

第二十六條 實業廳ノ抄録交付セル文書ハ主管人員ニ於テ原本ト對照シテ相違ナキコトヲ註記シテ署名捺印スヘシ

第二十七條 商標登録證ハ一定ノ書式ニ依リ商標圖案ヲ貼附シ實業廳ヨリ捺印下付スヘシ

第二十八條 商標登録證ヲ遺失又ハ毀損シタルトキハ商標權專用者ハ事由ヲ具シ證明書ヲ添附シテ再下附ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ登録證ノ再下付ヲナストキハ公報ヲ以テ舊登録證ノ無効ヲ告示スヘシ

商標無効ノ審決確定ニヨリ又ハ裁決及ヒ其ノ他ノ事由ヲ經テ其ノ商標專用權ノ消滅シタル場合ハ商標登録書ヲ返納セシメ並ニ公報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二十九條 商標登録ニ關シ徵收スヘキ登録費左ノ如シ

一 商標專用權ノ設定又ハ商標専用期間ノ更新ハ一件ニツキ銀四十元トス

二 商標專用權ノ移轉ハ一件ニツキ銀二十元トス但シ相續ニ依ル移轉ハ一件ニツキ銀十元トス

三 各事項ノ變更又ハ抹消ハ一件ニツキ銀二元トス

前項各款ノ登録費ハ聯合商標ノ場合ハ總テ半額ニ減ス

第三十條 商標條例又ハ其ノ他ノ條例ニ依リ商標ニ關スル各項ノ申請ヲナス場合ハ左ノ如ク公費ヲ徵收ス

一 商標登録ノ申請ハ一件ニツキ銀五元トス

- 二 商標登録ノ原申請人名義ヲ變更スル場合ハ一件ニツキ銀五元トス
  - 三 登録證ノ再下付申請ハ一件ニツキ銀三元トス
  - 四 商標専用權期間ノ更新登録申請ハ一件ニツキ銀五元トス
  - 五 商標専用權期間未了前所定期間經過後ニ於ケル更新登録申請ハ一件ニツキ銀十元トス
  - 六 他人ノ登録シタル商標ノ抹消申請ハ一件ニツキ銀五元トス
  - 七 證明書下付ノ申請ハ一件ニツキ銀一元トス
  - 八 圖案ノ模寫申請ハ一件ニツキ銀一元乃至二十元トス
  - 九 文書抄録ノ申請ハ百字ニツキ銀二角トシ百字未滿ノトキ亦同シ
  - 十 文書ノ査閲申請ハ一件ニツキ銀二角トス
  - 十一 審判ノ申請ハ一件ニツキ銀五元トス
  - 十二 參加ノ申請ハ一件ニツキ銀五元トス
- 前項第一款第二款及ヒ第四款ノ公費ハ聯合商標ノ場合ハ總テ半額ニ減ス
- 第三十一條 商標ノ登録申請人ハ左記ノ類別ニ依リ其ノ商標ヲ使用スル商品ヲ指定スヘシ其ノ類別ヲ指定スルコト能ハサルトキハ實業廳之ヲ指定ス
- 第一類 化學品、藥劑藥品及ヒ醫治用品

樹脂、膠、燐、石灰、礦泉、食鹽（各種藥材及ヒ丸藥、散藥、膏藥、錠劑、繡帶、海綿等均シク之ニ屬ス）

第二類 顏料

油漆及ヒ塗染用料

第三類 香料

香品及ヒ他類ニ屬セサル化粧品

第四類 石鹼

第五類 他類ニ屬セサル洗料

洗粉、齒磨粉、其ノ他洗刷用膏液等之ニ屬ス

第六類 他類ニ屬セサル金屬及ヒ其ノ粗製品

金屬ノ條索、板、アルミニウム、水銀及ヒ合金等均シク之ニ屬ス

第七類 他類ニ屬セサル金屬製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物等均シク之ニ屬ス

第八類 利器及ヒ尖刃器

針、釘、刀、曲刀等之ニ屬ス

第九類 貴金屬又ハ模造物ニツケル又ハ其ノ製造品又ハ彫刻品ノ他類ニ屬セサルモノ



合金鍍金等之ニ屬ス

第十類 珠玉、寶石類又ハ其ノ模造物及ヒ製品彫刻品ノ他類ニ屬セサルモノ

第十一類 礦物類

第十二類 石材又ハ其ノ模造物及ヒ製品ノ他類ニ屬セサルモノ

第十三類 漆喰、土砂、三和土類

セメント、石膏、土瀝青、土砂、火山灰等之ニ屬ス

第十四類 陶器、磁器、土器、煉瓦、瓦ノ類

第十五類 玻璃又ハ其ノ製品及ヒ珽瑯質類ノ他類ニ屬セサルモノ

色模様附硝子瓶、七寶燒等之ニ屬ス

第十六類 樹膠及ヒ其ノ製品

第十七類 他類ニ屬セサル機械器具及ヒ其ノ附屬品

汽罐、發電機、扇風機、揚水機、裁縫機、印刷機、消火器等之ニ屬ス

第十八類 理化學、醫術、測量、寫真、教育等ニ用ウル機械器具及ヒ其ノ附屬品

電信、電話機、化學試験外科用ノ機械器具、蓄音器、眼鏡、算數器ノ類之ニ屬ス

第十九類 農工器具

第二十類 運送用機械器具及ヒ其ノ各部

第二十一類 時計並ニ其ノ各部及ヒ附屬品

第二十二類 樂器

第二十三類 軍用銃砲、獵銃、火藥、爆竹及ヒ其ノ他爆發物

第二十四類 蠶種及ヒ繭

第二十五類 木棉綿、葛、麻、鳥毛類及ヒ其ノ粗製品

第二十六類 蠶絲

第二十七類 綿糸

第二十八類 毛絲

第二十九類 麻糸及ヒ前三類ニ屬セサル絲類

第三十類 絹織物

第三十一類 木綿織物

第三十二類 毛織物

第三十三類 麻織物

第三十四類 前四類ニ屬セサル織物

國民政府の産業政策

二八四

- 第三十五類 絲類中他類ニ屬セサル絲類ノ編物、撚物、刺繍品及ヒ縫紐、織紐
- 第三十六類 冠、衣服、カラー、カフス、手拭、ボタン及ヒ裝身用品
- 第三十七類 寢臺及ヒ他類ニ屬セサル室内裝置品
- 第三十八類 各種酒及ヒ麴
- 第三十九類 ソーダ水、果汁、清涼飲料
- 第四十類 醬油、味噌及ヒ醋
- 第四十一類 砂糖及ヒ蜜
- 第四十二類 茶及ヒ珈琲
- 第四十三類 菓子及ヒ麵包
- 第四十四類 他類ニ入ラサル食料品蒸製、酢漬、鹽漬及ヒ罐詰食品
- 第四十五類 獸乳及ヒ其ノ製品又ハ其ノ模造品
- 第四十六類 穀菜類、果物、種子穀粉、澱粉及ヒ其ノ製品
  - 麴種、葛粉、凍豆腐等之ニ屬ス
- 第四十七類 煙草
- 第四十八類 煙草具及ヒ袋物

第四十九類 紙及ヒ其ノ製品

封筒、帳簿、紙撚等之ニ屬ス

第五十類 文具

第五十一類 皮革及ヒ他類ニ屬セサル製品

鞆類之ニ屬ス

第五十二類 燃料

第五十三類 磷寸

第五十四類 油蠟

第五十五類 肥料

第五十六類 竹木及ヒ竹木皮

第五十七類 他類ニ入ラサル竹、木、籐、竹木皮等ノ製品及ヒ其ノ漆塗品、蒔繪品

第五十八類 骨、角、牙、貝殻類及ヒ他類ニ入ラサル製品及ヒ其ノ模造品

第五十九類 草、藁及ヒ其ノ製品ノ他ノ類別ニ入ラサル者

繩、笠、蓆、麥稈眞田等之ニ屬ス

第六十類 傘、扇、杖、履物及ヒ其ノ附屬品

第六章 産業關係法令

二八五

- 第六十一類 燈器及ヒ其ノ各部
  - 第六十二類 ブラシ及ヒ鬚
  - 第六十三類 玩具及ヒ遊戯具
  - 第六十四類 圖畫、寫眞、書籍、新聞、雜誌
  - 第六十五類 他類ニ入ラサル商品
- 第三十二條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 註冊條例

民國十六年十一月十九日公布

- 第一條 國民政府統治下ニ在リテ工商業ヲ經營スル者ハ均シク法ニ依リテ註冊ヲ申請スヘシ
- 第二條 本條例ノ註冊事宜ハ國民政府註冊局ヲ以テ之ヲ主管ス
- 第三條 註冊ノ種類左ノ如シ
  - 一 公司註冊
  - 二 商號註冊
  - 三 商標註冊

### 四 礦業註冊

- 第四條 前條舉クル所ノ各種註冊ハ商號註冊ニ關シテハ註冊局員ヲ該號所在地ニ派シ期限ヲ定メテ辦理シ其ノ他ノ註冊ハ均シク直接註冊局ニ註冊ヲ申請シ執照ノ下付ヲ受クルモノトス但シ商業資本五百元ニ滿タサル者ハ註冊ヲ免除ス
- 第五條 民國十六年五月以前ニ於テ既ニ北京政府ノ註冊ヲ經タル者ハ本條例公布ノ月ヨリ三箇月以内ニ國民政府註冊局ニ執照ノ書替ヲ申請スヘシ
- 第六條 本條例第三條ニ列舉スル各種ノ註冊ヲ行フヘキ事項ハ國民政府カ別ニ規則ヲ定メサル以前ニ在リテハ暫ク舊各註冊ヲ適用ス
- 第七條 有ラユル註冊費ハ當分ノ中均シク舊制ニ依ツテ徵收ス但シ商業註冊ノ商號註冊費ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 註冊ヲ補行スルトキ其ノ納付スヘキ註冊費ハ商標ニツキテハ舊制ノ四分ノ一トシ其ノ他ノ場合均シク三分ノ一トス
- 第九條 本條例ニ違反シ期限内ニ註冊ヲ申請セサル者ニ對シテハ舊制罰則ノ規定ヲ準用ス
- 第十條 有ラユル註冊事項ニ對シテハ均シク註冊費ノ三割ヲ教育費トシテ附加ス
- 第十一條 註冊局組織章程及ヒ註冊費施行細則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十二條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商號註冊施行細則

民國十七年二月二十日公布

- 第一條 本條例ハ註冊條例第十二條ノ規定ニ依據シテ商號註冊施行細則ト稱シ商號登錄事宜ニ之ヲ適用ス
- 第二條 商號註冊事宜ハ南京上海等ノ各繁盛區域ニ於テハ本局ヨリ員ヲ派シテ專ラ之ヲ辦理セシメ其ノ餘ノ各省區ハ註冊局ヨリ縣政府ニ委託シテ辦理セシメ地方ノ狀況ニ從ツテ各別ニ之ヲ定ム
- 第三條 商號註冊事宜ハ各地ニ於ケル布告ノ日ヨリ三箇月ヲ限リテ處理ヲ完了セシム但シ特別ノ事情アルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得
- 前項ノ期限滿了後各地ニ於ケル商號ノ創定又ハ商號ノ變更廢止ノ申請ハ均シク本局ニ於テ直接辦理ス
- 第四條 商人カ創定又ハ讓渡ヲ受ケタル商號ノ註冊ヲ申請スル者ハ部ノ規定セル商號註冊費ニ照シテ各別ニ左ノ如ク納入スヘシ
- 一 資本一千元以上五千元以下 註冊手数料十元
  - 二 資本五千元以上一萬元以下 註冊手数料二十元
  - 三 資本一萬元以上三萬元以下 註冊手数料三十元
  - 四 資本三萬元以上五萬元以下 註冊手数料四十元

- 五 資本十萬元以上三十萬元以下 註冊手数料六十元
  - 六 資本三十萬元以上五十萬元以下 註冊手数料八十元
- 資本五十萬元以上ナル者ニ對シテハ無限公司及ヒ兩合公司(合名會社及ヒ合資會社——譯者註)ノ條款ニ準據シテ遞増ス
- 以上ノ註冊手数料ニ附隨シテ三割ノ教育費ヲ徵收ス
- 第五條 商號ノ註冊ハ其ノ創定又ハ讓受ノ場合ノ外其ノ他ノ事項ノ註冊申請ニ際シテハ一件ニツキ註冊手数料銀一元並ヒニ附加教育費銀三角ヲ徵ス
- 第六條 商人カ商號ノ註冊ヲ申請スルトキハ申請書ヲ認メ註冊ヲ行フヘキ事項ヲ各別ニ記述スヘシ
- 前項ノ申請書ニハ申請人署名捺印又ハ『サイン』ヲナスヘシ
- 代理人ヲ以テ註冊ヲ申請スル場合ハ代理人捺印シ並ニ代理委任狀ヲ添附スヘシ
- 商號讓受ノ註冊ヲナス時ハ其ノ資格ヲ證明スル文書又ハ讓渡契約書ヲ添附スヘシ
- 第七條 各地ノ註冊辦理人員ハ十日毎ニ收受セル各註冊ノ申請書及ヒ徵收セル各種手数料ヲ取纏メテ本局ニ送り各別ニ註冊シテ執照ヲ下付スルノ憑據トナスヘシ
- 第八條 各地ノ註冊辦理人員ハ執照ノ下付ヲ命セラレタル時ハ日附順ニ各商店ニ通知シテ之ヲ受領セシメ並ヒニ一面十日毎ニ其ノ地ニ於テ註冊事項ヲ公告スヘシ

第九條 各地ノ註冊辦理人員ハ商號註冊ノ申請ヲ査閲シ其ノ法令ニ違反シ又ハ手續ノ不備ナルモノアルトキハ之カ訂正ヲ命シ再ヒ申請ヲナサシムルコトヲ得

前項ノ訂正案件ハ十日毎ニ其ノ摘要ヲ報告スヘシ

第十條 各地ノ註冊辦理人員カ商號ノ註冊申請ノ取扱ニ於テ法令ニ違反セル場合申請人又ハ利害關係人ヨリ事實ヲ列記シテ本局ノ調査ヲ申請スルコトヲ得

第十一條 各地ノ註冊辦理人員ハ文書發受簿ヲ備ヘ月日番號ヲ附シテ摘要ヲ記入シ並ニ徵收セル費額ヲ註明スヘシ

第十二條 一人ニシテ數箇ノ商號ノ註冊ヲ申請スルトキハ各別ニ註冊手数料ヲ納入シ註冊シテ執照ヲ下付スルノ憑據トナスヘシ

第十三條 本局ニ對シ註冊條例公布以前其ノ他ノ機關ニ於テ註冊セル商號ノ執照書替ヲ申請スル者ハ原註冊機關カ部ノ規定セル商號註冊手数料表ニ依ツテ各費用ヲ徵收シアラサル場合本細則第四條ノ規定ニ依リ各別ニ補足納入スヘシ

第十四條 商號註冊事項及ヒ其ノ附屬文書ハ當事者又ハ利害關係人ヨリ本局ニ對シ査閲又ハ抄録ヲ請求スルコトヲ得前項ノ査閲費ハ一回銀五角抄録費ハ百字毎ニ銀一角トシ百字ニ滿タサルトキハ百字ヲ以テ計算ス之ヲ郵送スヘキトキハ豫メ相當ノ郵送費ヲ納入スヘシ

第十五條 註冊條例公布前舊法令ニ依リ專用ヲ認メラレタル商號ハ該地ニ於ケル布告後一箇月以内ニ本細則ニ照シ

一律ニ註冊ヲ申請スヘシ

第十六條 註冊條例公布前既ニ使用セル商號カ他人ノ既ニ註冊セル商號ト相同シキ場合ハ該地ニ於ケル布告ノ日ヨリ一箇月以内ハ一律ニ其ノ註冊申請ヲ許可ス但シ註冊條例公布前確實ニ該商號ヲ使用シタルコトヲ證明スル文書ヲ添附スルコトヲ要ス其ノ曾テ訴訟事件ヲ發生シタルモノハ此限ニアラス

第十七條 本局ハ各地ニ於ケル商號註冊事宜ノ施行ニ對シ隨時員ヲ派シテ之ヲ視察スルコトヲ得

第十八條 註冊セル商號カ變更又ハ廢止セラレタルトキ利害關係人ヨリ註冊抹消ノ申請ヲナス場合ハ其ノ利害關係ノ事由ヲ詳細確實ニ叙述スヘシ

前項ノ註冊取消ハ原註冊人ニ於テ本局ノ催告ヲ受ケタル後一箇月以内ニ異議ヲ聲明スルコトヲ得催告ヲ送達シ能ハサルトキハ公示ヲ以テ之ヲ行フ

第十九條 註冊セル商號カ變更又ハ廢止セラレタルトキ其ノ相續人又ハ法定代理人ヨリ註冊ヲ申請スル場合ハ其ノ資格ヲ證明スル文書ヲ添附スヘシ

第二十條 註冊セル商號ノ當事者カ其ノ註冊事項ノ證明ヲ申請スルトキハ其ノ申請スル事項ニツキ官署ノ印文ヲ以テ證明ヲナシ之ヲ申請人ニ下付ス

第二十一條 商號註冊申請書ニ添附セル重要文書ノ別ニ副本ヲ作成セルモノハ當事者ノ申請ニ據リ之ヲ返還ス前項ノ文書ヲ返還スルトキハ其ノ副本ニ原文書ト相違ナキ旨ヲ記入シ註冊官吏署名捺印スルコトヲ要ス

第二十二條 商號註冊申請書及ヒ其ノ附屬文書ニハ其ノ註冊セル帳簿番號及ヒ紙數ヲ記入シ申請ノ順序ニ依リテ順次編成保存スヘシ

第二十三條 商號註冊簿ノ形式ハ別ニ之ヲ定ム

前項ノ註冊簿ニハ別ニ索引簿ヲ附スヘシ其ノ冊形式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十四條 註冊セル商號ノ當事者註冊ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知り註冊訂正ノ申請ヲナシタルトキハ訂正欄内ニ之ヲ記入ス

前項訂正セル部分ノ註冊ハ朱書ノ勾(朱書チエツクノ意——譯者註)ヲ以テ之ヲ抹消スヘシ

第二十五條 營業ノ停止又ハ營業所ヲ該管轄區以外移轉ニヨリ註冊セル商號ノ取消ヲ申請シタルトキハ取消欄内ニ之ヲ註記シ實際ノ帳簿ヲ結銷ス

前項註冊ノハ索引簿中ノ備考欄ニ其ノ事由ヲ記入シ朱勾ヲ以テ之ヲ抹消ス但シ移轉シタル商店カ尙該管轄區域内ニ別ニ營業所ヲ有スルトキハ之ヲ適用セス

第二十六條 註冊セル商號ノ營業禁止ノ審判確定シ又ハ其ノ破産ニ關スル一切ノ事項ニツキ官廳ヨリ註冊官吏ニ通知アリタルトキ註冊ヲ要スヘキ事項ハ備考欄内ニ之ヲ記入スヘシ

第二十七條 商號註冊簿中ノ某欄カ事項ノ記入ヲ終リテ餘白アルトキハ其ノ餘白ハ斜ニ交叉セル朱線ヲ以テ標トスヘシ

訂正欄内ニ記入ヲナシタルトキハ其ノ左ノ餘白ハ縦斷ノ墨線ヲ以テ之ヲ分ツヘシ

第二十八條 商號註冊簿及ヒ其ノ申請書及ヒ其ノ他ノ註冊ニ關スル文書ノ總テノ番號、銀額、年月日等ノ數字ハ一律ニ壹、貳、參等ノ大寫字體ヲ用キ添削改訂ヲナストキハ別ニ其ノ字數ヲ記シ並ニ捺印スヘシ

第二十九條 國民政府カ新法規ヲ公布セサル以前ニ在リテハ商人通例第四章ノ規定ノ註冊條例ニ牴觸セサルモノハ從前通り之ヲ適用ス

第三十條 經理人、法定代理人ノ二十歳未滿ノ者、有夫ノ婦等ノ各項ハ商業註冊ノ新法規ノ未タ頒布セラレサル以前ニ在リテハ註冊條例及ヒ本細則ニ牴觸セサル部分ヲ以テ限リトス商人通例第二章、第三章、第六章及ヒ商業註冊規則施行細則各條ノ規定ハ從前通り之ヲ適用ス

前項ノ註冊手数料ハ當分ノ中本細則第五條ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 本細則ハ國民政府財政部ノ認可ヲ得タル日ヨリ施行ス

第三十二條 本細則未タ事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ隨時修正シテ部ニ報告スルモノトス

### 商 會 法

民國十八年八月十五日公布

#### 第一章 總 則

##### 第六章 産業關係法令

第一條 商會ハ工商業及ヒ對外貿易ノ發展ヲ圖リ工商業者共通ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第二條 商會ハ法人トス

第三條 商會ノ職務左ノ如シ

- 一 工商業ノ改良及ヒ發展ノ籌議ニ關スル事項
- 二 工商業ニ關スル照會及ヒ通報ニ關スル事項
- 三 國際貿易ノ紹介及ヒ指導ニ關スル事項
- 四 工商業ノ調停及ヒ公斷ニ關スル事項
- 五 工商業ノ證明及ヒ鑑定ニ關スル事項
- 六 工商業統計ノ調査及ヒ鑑定ニ關スル事項
- 七 商品陳列所商業學校又ハ其ノ他工商業ニ關スル公共事業ヲ經營スルコトヲ得但シ所轄官署ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス
- 八 市場ノ恐慌等ニ遇フトキハ維持及ヒ地方官署ニ維持ヲ申請スルノ責任アルモノトス
- 九 其ノ他第一條ニ掲クル趣旨ニ合致スル事項ノ辦理

第四條 商會ハ工商業ニ關スル事項ニ就テ中央又ハ地方官署ニ建議スルコトヲ得

第二章 設 立

第五條 各特別市、各縣及ヒ各市ハ均シク商會ヲ設立スルコトヲ得此場合各該市縣ノ區域ヲ以テ其ノ區域ト爲ス但シ繁盛ノ區鎮モ亦單獨又ハ聯合シテ商會ヲ設立スルコトヲ得

第六條 商會ノ設立ハ該區域内ニ於ケル五箇以上ノ工商同業公會之ヲ發起スルコトヲ要ス但シ工商同業公會ナキトキハ商業ヲ營ム法人又ハ商店五十家以上カ之ヲ發起スルコトヲ要ス但シ外國ニ居留スル商人カ商會ヲ設立スル場合ハ此限リニアラス

前項ノ發起人ハ設立大會ヲ召集シ第七條ノ規定ニ依リ章程ヲ訂正シ其ノ他ノ必要事項ヲ具備シテ特別市政府ニ申請シ又ハ其ノ他ノ地方主管官署ヲ經由シ省政府ニ申請シテ設立許可ヲ得特別市及ヒ省政府ヨリハ並ニ之ヲ工商部ニ轉報スヘシ

第七條 商會章程ハ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 名稱區域及ヒ事務所所在地
- 二 事業及ヒ其ノ執行ニ關スル規定
- 三 會員ノ入會退會及ヒ除名ノ規定
- 四 職員ノ名稱、員數、權限及ヒ選任、解任ノ規定
- 五 會議ニ關スル規定
- 六 經費及ヒ會計ニ關スル規定

第八條 商會ハ其ノ區域内ニ事務所ヲ設置スヘシ

商會ハ特殊ノ事情ノタメ必要ト認メタルトキハ會員ノ議決ヲ經テ事務分所ヲ設置スルコトヲ得  
事務分所ノ事務ハ該商會職員中事務分所ノ區域ニ居住又ハ營業スル者之ヲ執行スヘシ

第三章 會 員

第九條 商會會員ヲ左ノ二種ニ分ツコトヲ得

一 公會會員

二 商店會員

前項ノ會員ハ均シク代表者ヲ選舉シテ商會ニ出席セシメ會員代表者ト稱スルコトヲ得

第十條 會員代表者ハ本區域内ニ在リテ商業ヲ經營スル中華民國人民ニシテ年齢二十五歳以上ノ者ニ限ル

第十一條 公會會員ノ代表者ハ該同業公會ヨリ選舉ス

前項ノ代表者ハ各公會ヨリ一人ヲ選舉ス但シ其ノ最近一年間ノ平均使用人數カ十五人ヲ超過スルトキハ其ノ超過  
人數十五人毎ニ代表者一人ヲ増加スルコトヲ得唯タ其ノ代表者人數ハ多クモ二十一人ヲ超過スルコトヲ得ス

第十二條 商會ノ法人又ハ商店ハ別ニ同業者ナキカ又ハ同業者アルモ同業公會ノ組織ナキトキハ商會ノ店員ノ爲ニ  
各店ヨリ代表者一人ヲ選舉スルコトヲ得但シ其ノ最近一年間ノ平均使用人數カ十五人ヲ超過スルトキハ其ノ超過  
人數十五人毎ニ代表者一人ヲ選舉スルコトヲ得但シ其ノ代表者人數ハ多クモ三人ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 左ニ掲クル各款ノ一ニ該當スル者ハ商會會員ノ代表者タルコトヲ得ス

一 公權ヲ褫奪サレタル者

二 反革命ノ行爲アリタル者

三 破産ノ宣告ヲ受ケテ未タ復權セサル者

四 行爲能力ナキ者

第十四條 會員代表者ハ均シク表決權選舉權及ヒ被選舉權ヲ有ス

第十五條 會員代表者ハ之ヲ選舉シタル公會會員又ハ商店會員ニ於テ隨時之ヲ交迭スルコトヲ得但シ既ニ當選シテ  
商會職員トナリタル者ハ法規上ノ解任事由アルニアラサレハ之ヲ交迭スルコトヲ得ス

第十六條 會員代表者カ國籍ヲ喪失スルカ又ハ第十三條ニ列舉スル各款ノ一ニ該當スル事由ヲ發生シタルトキハ之  
ヲ選舉シタル會員ニ於テ之ヲ交迭スルコトヲ得

第十七條 會員代表者ニシテ不正當ナル行爲アリテ商會ノ名譽信用ヲ妨害シタル者ハ會員大會ノ議決ニヨリ之ヲ除  
名シ並ニ其ノ選舉會員ニ通知ス除名處分ヲ受ケタル會員代表者ハ除名ノ日ヨリ三年以内ハ會員代表者トナルコト  
ヲ得ス

第四章 職 員

第十八條 商會ノ執行委員及ヒ監察委員ハ會員大會ニ於テ會員代表者ノ中ヨリ之ヲ選任ス其ノ人數ハ執行委員ハ多  
クモ十五人ヲ逾ユルコトヲ得ス監察委員ハ多クモ七人ヲ逾ユルコトヲ得ス

前項ノ執行委員ハ常務委員ヲ互選シ並ニ常務委員中ヨリ一人ヲ選舉シテ主席トナスコトヲ得



第十九條 執行委員及ヒ監察委員ノ任期ハ均シク四年トシ二年毎ニ半數ヲ改選スルコトヲ得  
前項ノ第一次改選ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ委員ノ人數カ奇數ナルトキハ留任者ノ人數カ改選者ヨリ一人多キコトヲ得

第二十條 委員ハ就任後十五日以内ニ之ヲ特別市政府ニ届出テ又ハ地方主管官署ヲ經由シテ省政府ニ届出テ特別市政府及ヒ省政府ハ之ヲ工商部ニ報告スヘシ

第二十一條 執行委員及ヒ監察委員ハ均シク名譽職トス

第二十二條 委員ニシテ左ニ掲クル各款ノ一ニ該當スル者アルトキハ直チニ解任スヘシ

- 一 已ムヲ得サル事故ニ因リ會員大會ノ議決ヲ經テ其ノ退職ヲ承認セラレタル者
- 二 職務ヲ曠廢シ會員大會ノ議決ヲ經テ其ノ退職ヲ要求セラレタル者
- 三 職務ノ上ニ於テ法令ニ違反スル不正行爲アルカ又ハ其ノ他ノ重大ナル不正當ノ行爲アリテ會員大會ノ議決ヲ經テ其ノ退職ヲ要求セラレ又ハ工商部或ハ地方最高行政官署ヨリ其ノ退職ヲ命セラレタル者
- 四 第十三條ニ規定スル各款ノ事由ノ一ヲ發生シタル者

第二十三條 商會事務所及ヒ事務分所ハ均シク事務員ヲ置クコトヲ得

### 第五章 會議

第二十四條 會員大會ヲ定期會議及ヒ臨時會議ノ二種ニ分チ均シク執行委員會之ヲ召集ス

第二十五條 前條ノ定期會議ハ每年少クトモ一會開會ス

臨時會議ハ執行委員會ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ會員代表者十分ノ一以上ノ請求アルトキ又ハ監察委員會カ文書ヲ以テ召集ヲ請求シタルトキ之ヲ召集ス

第二十六條 會員大會ヲ召集スルトキハ十五日以前ニ之ヲ會員ニ通知スヘシ但シ第二十七條第二十八條ノ事由アルカ又ハ緊急事項ノ爲ニ臨時會議ヲ召集スルトキハ此限ニアラス

第二十七條 會員大會ノ議決ハ會員代表者過半數ノ出席ト出席代表者過半數ノ同意トヲ以テ之ヲ行フ出席代表者カ過半數ニ滿タサルトキハ假決議ヲ行ヒ其ノ結果ヲ各代表者ニ通告シ一週間後ニ於テ二週間以内ニ再ヒ會員大會ヲ召集シ出席代表者過半數ノ同意ヲ以テ假決議ニ對シテ議決ヲ行フ

第二十八條 左ニ掲クル各款ノ事項ノ議決ハ會員代表者三分ノ二以上ノ出席ト出席代表者三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ行フ出席代表者過半數ヲ逾エテ三分ノ二ニ滿タサル場合ハ出席代表者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ假決議ヲ行ヒ其ノ結果ヲ各代表者ニ通告シ一週間後ニ於テ二週間以内ニ再ヒ會員大會ヲ召集シ出席代表者三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ假決議ニ對シテ議決ヲ行フ

- 一 章程ノ變更
- 二 會員又ハ會員代表者ノ除名
- 三 職員ノ退職

四 清算人ノ選任及ヒ清算ニ關スル事項ノ決議

第二十九條 執行委員會ハ毎月少クトモ二回開會シ監察委員會ハ毎月少クトモ一回開會ス

第六章 經費及ヒ會費

第三十條 商會ノ經費ハ左ノ二種ニ分ツ

- 一 事務費 會員ニ於テ其ノ選舉セル代表者ノ人數及ヒ資本額ニ比例シテ之ヲ負擔ス
- 一 事業費 會員大會ノ決議ニヨリ之ヲ調達ス

第三十一條 商會ノ經費ノ豫算決算及ヒ事業成績ハ毎年報告書ヲ編輯シテ之ヲ刊行シ並ニ特別市政府ニ届出テ又ハ地方主管官署ヲ經由シテ省政府ニ届出ツヘク特別市政府及ヒ省政府ハ之ヲ工商部ニ報告スヘシ

第七章 解散及ヒ清算

第三十二條 商會ノ解散ハ會員代表者四分ノ三以上ノ出席ト出席代表者三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ方メテ議決スルコトヲ得

前項ノ決議ハ工商部ノ許可ヲ經ルニアラサレハ效力ヲ生セス

第三十三條 商會カ解散スルトキハ決議ニ依テ清算人ヲ選任シ選任後缺員ヲ生シタルトキハ更ニ補選ヲ行フ清算人ヲ選任スル能ハサルトキハ主管行政官署之ヲ指定ス

第三十四條 清算人ハ商會ヲ代表シテ清算上ノ一切ノ事務ヲ執行スル權限ヲ有ス清算人ノ定ムル清算及ヒ財産處理ノ方法ハ會員大會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

會員大會カ前項ノ決議ヲ爲サ、ルトキ又ハ決議ヲ爲シ能ハサルトキハ清算人ハ自ラ清算及ヒ財産處理ノ方法ヲ決定スルコトヲ得但シ地方最高行政官署ノ許可ヲ經ルニアラサレハ效力ヲ生セス

第三十五條 商會ノ所有スル財産カ債務ヲ償還スルニ足ラサルトキ其ノ不足額ハ第三十條第一款ノ規定ニ依リ按分シテ之ヲ負擔ス

第三十六條 工商業者共通ノ福利増進ヲ圖ル目的ノ爲同一省區内ノ商會ハ聯合シテ全省商會聯合會ヲ組織シ各省商會聯合會及ヒ特別市商會聯合會ハ聯合シテ中華民國商會聯合會ヲ組織スルコトヲ得

第三十七條 全省商會聯合會ヲ組織スル爲ニハ該省ノ商會五分ノ一以上カ發起シ該省商會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ章程ヲ定メ省政府ニ申請シテ許可ヲ得省政府ハ之ヲ工商部ニ報告スルコトヲ要ス

中華民國商會聯合會ヲ組織スル爲ニハ各省商會聯合會及ヒ特別市商會四分ノ一以上カ發起シ各省商會聯合會及ヒ特別市商會三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ章程ヲ定メ工商部ニ申請シテ許可ヲ得工商部ハ之ヲ國民政府ニ報告スルコトヲ要ス

第三十八條 全省商會聯合會ハ全省各商會ヲ以テ其ノ會員トシ中華民國商會聯合會ハ各省商會聯合會及ヒ特別市商會ヲ以テ其ノ會員トス

第三十九條 商會聯合會カ會員大會ヲ召集スルトキハ二箇月前ニ各會員ニ通知スヘシ但シ臨時會ハ一箇月前ニ通知スルコトヲ得

第四十條 商會聯合會ハ法律ニ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外本法第一章ヨリ第七章ニ至ル規定ヲ準用ス  
第九章 附 則

第四十一條 外國在留ノ華商々會ハ本法各章ノ規定ヲ準用シテ之ヲ設立スルコトヲ得

第四十二條 本法施行前ニ成立シタル商會及ヒ商會聯合會ハ本法施行後六箇月内ニ本法ニ依リテ改組スヘシ

第四十三條 本法施行細則ハ工商部之ヲ定ム

第四十四條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 工商同業公會法

民國十八年八月十七日公布

第一條 同一區域内ニアリテ各種ノ正當ナル工業又ハ商業ヲ經營スル者ハ均シク本法ニ依リテ同業公會ヲ設立スルコトヲ得

第二條 工商同業會ハ同業者ノ共通利益ヲ増進シ及ヒ營業ノ弊害ヲ矯正スルヲ以テ趣旨トス

第三條 工商同業公會ノ設立ハ同業ノ會社商店七家以上ノ發起者アルコトヲ必要トス

前項ノ發起者ハ第四條ノ規定ニ依リ章程ヲ定メ該同業會社商店及ヒ其ノ營業主又ハ經理人ノ姓名表ヲ作成シ章程ト共ニ之ヲ特別市政府又ハ地方主管官署ヲ經由シテ省政府ニ差出シ設立許可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 工商同業公會ノ章程ハ該地同業會社商店ノ代表者三分ノ二以上ノ出席ニヨリ議決スルコトヲ得

第五條 工商同業公會ノ章程ハ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 名稱
  - 二 辦理スル事務
  - 三 組織及ヒ職員ノ選任
  - 四 會議ニ關スル規定
  - 五 同業者ノ入會、退會及ヒ會員除名ニ關スル規定
  - 六 費用ノ調達及ヒ其ノ收支方法
  - 七 會規違反者ノ除名其ノ他ノ處分方法
  - 八 公會ノ存續期間
- 第六條 同一區域内ニ於ケル同業公會ノ設立ハ一箇ヲ以テ限リト爲ス
- 第七條 工商同業公會ハ其ノ區域内ニ事務所ヲ設立スヘシ
- 第八條 同業ノ會社商店ハ均シク同業公會ノ會員トシテ代表者ヲ選任シ公會ニ出席セシムルコトヲ得但シ除名處分ヲ受ケタル者ハ此限リニアラス
- 第九條 左ニ掲クル各款ノ事由ノ一アル者ハ同業公會會員ノ代表者タルコトヲ得ス

- 一 公權ヲ褫奪セラレタル者
- 二 反革命ノ行爲アリタル者
- 三 破産ノ宣告ヲ受ケテ未タ復權セサル者
- 四 行爲能力ナキ者

第十條 同業公會ハ委員七人乃至十五人ヲ置キ委員ニ於テ常務委員三人又ハ五人ヲ互選シ常務委員中ヨリ一人ヲ選任シテ主席ト爲シ均シク名譽職ト爲ス但シ會務ヲ辦理スル爲ノ實費ハ公費トシテ支出ス

第十一條 商會法ノ職員及ヒ會議ニ關スル規定ハ同業公會ニ之ヲ準用ス

第十二條 工商同業公會ノ職員ニシテ會規ニ違反シ又ハ其ノ他ノ重大ナル事由アル場合ハ公會ノ決議ニヨリ之ヲ退職セシムルコトヲ得

第十三條 工商同業公會カ法令ニ違反シ權限ヲ踰越シ又ハ公益ヲ妨害シタル場合ハ其ノ特別市ニ在ルモノハ特別市政府ヨリ解散ヲ命シ其ノ縣又ハ市ニ在ルモノハ縣政府又ハ市政府ヨリ省政府ニ申請シ其ノ許可ヲ得テ解散ヲ命スルコトヲ得但シ均シク工商部ニ報告スルコトヲ要ス

第十四條 工商同業公會ノ豫算、決算及ヒ主要會務ノ辦理狀況ハ每會計年度末ヨリ三箇月以内ニ所在地ノ主管官署ニ届出ツヘシ

第十五條 本法施行前ヨリ存在スル工商各業同業團體ハ其ノ公所、行會、會館其ノ他ノ名稱ヲ用ウルヲ問ハス其ノ

趣旨カ本法第二條ニ規定スル所ニ合致スルモノハ均シク本法ニ依リ設立シタル同業公會ト見做シ並ニ本法施行後一年以内ニ本法ニ準據シテ改組セシム

第十六條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 會 社 法

民國十八年十二月二十六日公布

### 第一章 通 則

第一條 本法ニ稱スル所ノ會社ハ營利ヲ目的トシテ設立スル團體ヲ謂フ

第二條 會社ヲ分チテ四種トス

- 一 合名會社（無限公司）
  - 二 合資會社（兩合公司）
  - 三 株式會社（股份有限公司）
  - 四 株式合資會社（股份兩合公司）
- 會社ノ名稱ハ其ノ種類ヲ標明スルコトヲ要ス

第三條 會社ハ法人トス

### 第六章 産業關係法令

- 第四條 會社ハ其ノ本店ノ所在地ヲ住所トス
- 第五條 會社ハ本店所在地ノ所轄官署ニ於テ登記シタル後ニ非サレハ成立セス  
前項ノ登記申請ハ會社定款（公司章程）ノ作成後十五日内ニ之ヲ行フヘシ
- 第六條 會社ノ設立登記後其ノ設立手續又ハ其ノ登記事項ニ違法又ハ虚偽ノ點アルコト發覺シタル時ハ法院ニ於テ判決ヲ經タル後所轄官署ニ通知シテ其ノ登記ノ取消ヲ爲サシムヘシ
- 第七條 會社登記ノ後六箇月ヲ經ルモ營業ヲ開始セサルトキハ所轄官署ハ工商部ニ申請シテ其ノ登記ヲ取消スコトヲ得
- 第八條 會社ノ登記事項ニ變更アル時ハ變更後十五日内ニ所轄官署ニ申請シテ登記ノ變更ヲ爲スヘシ
- 第九條 會社ノ設立登記後登記スヘキ事項アルモ登記ヲ爲サス又ハ登記事項ニ變更アルモ變更ノ登記ヲ爲サ、ルトキハ其ノ事項ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
- 第十條 會社ノ解散ハ破産ノ場合ヲ除キ解散命令ヲ接受シ又ハ解散ヲ決議シタル後十五日内ニ所轄官署ニ申請シテ解散ノ登記ヲ爲スヘシ
- 第十一條 會社ハ他ノ會社ノ無限責任社員トナルコトヲ得ス他ノ會社ノ有限責任社員トナルトキハ其ノ持株ノ總價額カ本會社ノ拂込株金總額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第二章 合名會社（無限公司）

第一節 設立

- 第十二條 合名會社ノ設立ハ社員（股東）二人以上カ協議シテ定款ヲ作成シ署名捺印シテ每人各一部ヲ執ルヘシ
- 第十三條 合名會社ノ定款ニハ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 會社ノ名稱
  - 二 經營スヘキ事業
  - 三 社員ノ姓名住所
  - 四 本店支店及ヒ其ノ所在地
  - 五 社員出資ノ種類及ヒ價額又ハ評價ノ標準
  - 六 定款作成ノ年月日
- 第十四條 會社ノ定款作成後十五日内ニ所轄官署ニ申請シテ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ登記スヘシ
- 一 前條ニ列擧スル各款ノ事項
  - 二 解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ事由
  - 三 會社ノ代表社員ヲ定メタルトキハ其ノ姓名
- 第二節 會社ノ内部關係
- 第十五條 會社ノ内部關係ハ法律ニ規定アル場合ノ外定款ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 社員カ債權ヲ以テ出資ニ充テタルトキ其ノ債權カ期限ニ至リ償還セラレサル場合ハ該社員ヨリ填補セシム損害アルトキハ並ニ賠償ノ責ヲ負ハシム

第十七條 會社ノ損益分配ニツキ定款ニ規定ナキトキハ社員出資ノ多寡ヲ以テ標準トス  
定款ニ於テ單ニ利益又ハ損失ノミニ就キテ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其ノ割合ハ利益又ハ損失ニ對シ均シク之ヲ適用ス

第十八條 各社員ハ均シク業務ヲ執行スル權利ヲ有シ又其ノ義務ヲ負フ但シ定款ニ於テ社員中ノ一人又ハ數人カ業務ヲ執行スルコトヲ定メタルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十九條 社員ノ數人又ハ全部カ業務ヲ執行スルトキ業務ノ執行ニ關シテハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス  
業務ヲ執行スル社員ハ通常ノ事務ニ關シテハ各單獨ニ執行スルコトヲ得但シ他ノ業務執行社員カ一人ニテモ異議ヲ提出スルトキハ直チニ執行ヲ停止スルコトヲ要ス

第二十條 支配人ノ選任及ヒ解任ハ社員ノ過半数ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十一條 會社カ定款ヲ變更シ及ヒ定款ニ定ムル事業ノ範圍外ノ行爲ヲ爲ストキハ總社員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二十二條 業務ヲ執行セサル社員ハ業務執行社員ニ對シ會社ノ營業狀況ヲ質問シ財産文書ヲ検査スルコトヲ得

第二十三條 業務執行社員ハ特約アルニ非サレハ會社ニ對シ報酬ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十四條 社員カ業務ヲ執行スルニ當リ立替拂ヲナシタル金額ハ會社ニ對シ償還並ニ立替金ノ利子支拂ヲ要求スルコトヲ得債務ヲ負擔シタルトキハ其ノ債務ノ期限前ニ於テモ相當擔保ノ提供ヲ要求スルコトヲ得社員カ業務ノ執行ニヨリテ損害ヲ受ケ自己ニ過失ナキトキハ會社ニ對シテ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第二十五條 會社ノ定款ニ於テ社員ノ一人又ハ數人カ業務ヲ執行スルコトヲ定メタルトキハ該社員ハ故ナク辭職スルコトヲ得ス

第二十六條 社員ノ業務執行ハ定款及ヒ社員ノ決議ニ從フコトヲ要ス

第二十七條 社員カ會社ノ金錢ヲ代理受領シ相當期間内ニ之ヲ會社ニ納入セサルカ又ハ會社ノ金錢ヲ流用シタルトキハ利息ヲ加算シテ全額償還シ損害ヲ與ヘタルトキハ並ニ之ヲ賠償スルコトヲ要ス

第二十八條 社員ハ其ノ他ノ社員全員ノ同意ヲ經ルニ非サレハ自己又ハ他人ノ爲ニ會社ト同種類ノ營業行爲ヲ爲スコトヲ得ス並ニ他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

社員カ前項ノ規定ニ違反スルトキハ其ノ他ノ社員ハ過半数ノ決議ヲ以テ其ノ自己又ハ他人ノ爲ニ爲シタル行爲ヲ會社ノ爲ニ爲シタル行爲ト看做スコトヲ得但シ行爲ノ時ヨリ一年ヲ經過シタル場合ハ此限ニ在ラス

第二十九條 社員ハ其ノ他ノ社員全部ノ同意ヲ經ルニアラサレハ自己ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

第三節 會社ノ對外關係

第三十條 會社ハ定款又ハ社員全部ノ同意ヲ以テ會社ヲ代表スル社員ヲ特定スルコトヲ得之ヲ特定セサルトキハ各社員ハ均シク會社ヲ代表スルコトヲ得

第三十一條 會社ヲ代表スル社員ハ會社ノ營業上一切ノ事務ニ關シ辦理ノ權ヲ有スル

第三十二條 會社カ社員ノ代表權ニ對シテ加フル制限ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三十三條 會社ヲ代表スル社員又ハ支配人カ業務ノ執行ニヨリ他人ニ損害ヲ與ヘタルトキハ行爲ヲ爲シタル者ト會社ト連帶シテ賠償ノ責ヲ負フコトヲ要ス

第三十四條 會社ヲ代表スル社員カ自己又ハ他人ノ爲ニ會社ト賣買貸借又ハ其ノ他ノ法律行爲ヲ爲ストキハ同時ニ會社ノ代表者タルコトヲ得ス但シ會社ニ對シテ債務ヲ償還スル場合ハ此限ニ在ラス

第三十五條 會社ノ財産カ債務ヲ償還スルニ足ラサルトキハ社員ハ連帶シテ其ノ責任ヲ負フモノトス

第三十六條 會社ニ加入シテ社員トナリタルモノハ加入前ニ於ケル會社ノ債務ニ對シテモ亦責任ヲ負フコトヲ要ス

第三十七條 社員ニ非スシテ人ヲシテ社員タルヲ信セシムル行爲アルトキハ善意ノ第三者ニ對シ社員ト同一責任ヲ負フコトヲ要ス

第三十八條 會社ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ利益ヲ分配スルコトヲ得ス

第三十九條 會社ノ債務者ハ其ノ債務ヲ以テ社員ニ對スル債權ト相殺スルコトヲ得ス

#### 第四節 退 社

第四十條 定款ニ於テ會社ノ存續期間ヲ定メサルトキハ退社ニ關シテ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外社員ハ每營業年度末ニ於テ退社スルコトヲ得但シ六箇月以前ニ書面ヲ以テ申出テヲ爲スコトヲ要ス

社員已ムヲ得サル事由アルトキハ會社カ其ノ存續期間ヲ定ムルト否トニ拘ハラズ該社員ハ隨時退社ヲナスコトヲ得

第四十一條 前條ノ規定ヲ除クノ外各社員ハ左ニ掲クル各款ノ事由ノ一ニ因リ退社ヲ爲スコトヲ得

一 定款ニ定ムル事由ノ發生

二 死亡

三 破産

四 禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五 除名

第四十二條 社員カ左ニ掲クル各款ノ事由ノ一アルトキハ其ノ他ノ社員全部ノ同意ヲ經テ除名ヲ決議スルコトヲ得但シ之ヲ通知シタル後ニ非サレハ該社員ニ對抗スルコトヲ得ス

一 拂込ムヘキ資本ノ拂込ヲ爲シ能ハサルトキ又ハ屢催告スルモ之ヲ拂込マサルトキ

二 第二十八條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 不正當ノ行爲アリテ會社ノ利益ヲ妨害シタルトキ

四 重要ノ義務ヲ盡ササルトキ

#### 第六章 産業關係法令

第四十三條 會社ノ名稱ノ中ニ社員ノ姓又ハ姓名ヲ用ウル場合ハ該社員ノ退社スルトキ其ノ使用ノ停止ヲ要求スルコトヲ得

第四十四條 退社スル社員ト會社トノ勘定清算ハ退社ノ時ニ於ケル會社ノ財産ヲ標準トス

退社スル社員ノ出資ハ其ノ種類ヲ問ハス均シク金錢ヲ以テ返還スルコトヲ得

退社ノ時會社ノ事務完了セサルモノアルトキハ其ノ完了後ニ決算シ並ニ其ノ損益ヲ分配スルモノトス

第四十五條 退社シタル社員ハ所轄官署ニ申請シテ之ヲ登記スルコトヲ要ス登記前ニ於ケル會社ノ債務ニ對シテハ登記後二年内ハ連帶シテ無限責任ヲ負フモノトス

社員カ其ノ持分ヲ讓渡シタルトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

#### 第五節 會社ノ解散

第四十六條 會社ハ左ニ掲クル各款ノ事由ノ一ニ因リ解散ス

- 一 定款ニ定ムル解散事由ノ發生
- 二 會社ノ事業カ成就シ又ハ成就シ能ハサルトキ
- 三 總社員ノ同意
- 四 社員カ一人トナリタルトキ
- 五 他ノ會社トノ合併

### 六 破産

#### 七 解散ノ命令

社員ハ已ムヲ得サル事由アルトキハ前項第七款ノ命令ヲ發スルコトヲ法院ニ申請スルコトヲ得

第四十七條 會社ハ總社員ノ同意ニ依リ他ノ會社ト合併スルコトヲ得

第四十八條 會社カ合併ヲ決議シタルトキハ直チニ資産負債表及ヒ財産目錄ヲ作成スヘシ

會社カ合併ヲ決議シタルトキハ直チニ各債權者ニ對シテ各別ニ通知シ及ヒ公告シ並ニ三箇月以上ノ期間ヲ指定シ債權者カ期間内ニ異議ヲ申立テ得ヘキコトヲ聲明スヘシ

第四十九條 會社カ前條ノ通知及ヒ公告ヲナサス又ハ其ノ指定セル期間内ニ異議ヲ提出シタル債權者ニ對シ償還ヲ爲サス又ハ相當ノ擔保ヲ提供セサルトキハ其ノ合併ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五十條 會社カ合併シタルトキハ十五日以内ニ所轄官署ニ申請シテ各別ニ左ニ掲クル各款ノ登記ヲ申請スヘシ

- 一 合併ニ因ツテ存続スル會社ノ變更登記
- 二 合併ニ因ツテ消滅スル會社ノ解散登記
- 三 合併ニ因ツテ別ニ設立スル會社ノ設立登記

第五十一條 合併ニ因ツテ消滅スル會社ノ權利義務ハ合併後存続シ又ハ別ニ設立スル會社ニ於テ之ヲ繼承スルコトヲ要ス



第六節 清算

第五十二條 解散シタル會社ノ清算中ハ清算ノ範圍内ニ於テ未タ解散セサルモノト看做ス

第五十三條 會社ノ解散シタル後ノ財産ハ社員ノ決議ニ依リ清算人ヲ定メタル場合ノ外總社員ニ於テ清算スルコトヲ要ス

第五十四條 總社員カ清算ヲナストキ社員中死亡者アル場合ハ其ノ相續人之ヲ行ヒ相續人數名アルトキハ一人ヲ選ヒテ之ヲ行フヘシ

第五十五條 第五十三條ノ規定ニ依リ其ノ清算人ヲ定メ得サルトキハ法院ハ利害關係人ノ申請ニヨリ清算人ヲ指定スルコトヲ得

第五十六條 法院ハ利害關係人ノ申請ニヨリ必要ト認メタルトキハ清算人ヲ解任スルコトヲ得但シ社員ノ選任シタル清算人ノ解任ハ社員過半数ノ決議ニ依リ之ヲ行フコトヲ得

第五十七條 清算人ハ就任後十五日以内ニ其ノ姓名住所及ヒ就任日ヲ法院ニ届出ツルコトヲ要ス

清算人ノ解任ハ社員ヨリ十五日以内ニ法院ニ届出ツルコトヲ要ス

清算人ヲ法院ヨリ選定シタルトキハ之ヲ公告スルコトヲ要ス解任ノ時亦同シ

第五十八條 清算人ノ職務左ノ如シ

一 現務ノ結了

二 債權ノ取立債務ノ辦濟

三 殘餘財産ノ分配

清算人ハ前項ノ職務ヲ執行スル爲ニ會社ヲ代表シテ一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第五十九條 清算人カ數人アルトキハ清算事務ノ執行ニ關シテ其ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス但シ第三者ニ對シテハ各會社ヲ代表スル權限ヲ有ス

第六十條 清算人ノ代表權ニ對シテ加フル權限ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十一條 清算人ハ就任ノ後直チニ會社ノ財産状態ヲ調査シ資産負債表及ヒ財産目錄ヲ作成シ之ヲ社員ニ交付シテ査閲セシムルコトヲ要ス

清算人ハ六箇月以内ニ清算ヲ完了スヘシ六箇月以内ニ清算ヲ完了スルコト能ハサルトキハ清算人ハ理由ヲ開陳シテ法院ニ延期ヲ申請スルコトヲ得

清算人ハ社員ノ質問アル場合其ノ都度清算狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第六十二條 清算人ハ就任後公告ノ方法ヲ以テ債權者ニ債權ノ申出ヲ催告シ判明セル債權者ニ對シテハ各別ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第六十三條 會社ノ財産カ債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ清算人ハ遲滞ナク破産ノ宣告ヲ申請スヘシ

清算人カ其ノ事務ヲ破産管財人ニ引繼キタル時其ノ職務ハ終了シタルモノトス

第六十四條 清算人ハ會社ノ債務ヲ完済シタル後ニ非サレハ會社ノ財産ヲ各社員ニ分配スルコトヲ得ス

第六十五條 殘餘財産ノ分配ハ各社員出資ノ多寡ニ依リテ之ヲ定ム

第六十六條 清算人ハ清算完了後十五日内ニ決算報告書ヲ作成シテ各社員ニ交付シ其ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

社員カ一箇月内ニ異議ノ申出ヲナササルトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス但シ清算人ニ不正ノ行爲アリタルト

キハ此限ニ在ラス

第六十七條 清算人ハ清算カ結了シタル後十五日内ニ法院ニ呈報スルコトヲ要ス

第六十八條 會社ノ帳簿及ヒ營業並ニ清算ニ關スル書類ハ清算結了ノ時ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其ノ保

存者ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

第六十九條 社員ノ連帶無限責任ハ解散登記後五年ヲ經過シタルトキ消滅ス

### 第三章 合資會社(兩合公司)

第七十條 合資會社ハ無限責任社員ト有限責任社員トヲ以テ之ヲ組織ス

有限責任社員ハ出資定額ノ限度ニ於テ會社ニ對シ責任ヲ負フ

第七十一條 合資會社ニハ本章ノ規定ノ外第二章ノ規定ヲ準用ス

第七十二條 合資會社ノ定款ハ第十三條ニ掲クル各款事項ノ外並ニ各社員ノ責任ノ有限ナルコトヲ記載スルコトヲ

要ス

第七十三條 有限社員ハ信用又ハ勞務ヲ以テ出資ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 支配人ノ選任又ハ解任ハ無限責任社員ノ過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス

第七十五條 有限責任社員ハ毎年度末ニ於テ會社ノ業務及ヒ財産狀況ヲ検査スルコトヲ得

必要アルトキハ法院ハ有限責任社員ノ請求ニヨリ隨時會社ノ業務及ヒ財産狀況ノ検査ヲ許スコトヲ得

第七十六條 有限責任ハ無限責任社員全員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ其ノ持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

第七十七條 有限責任社員ハ自己又ハ他人ノ爲ニ會社ト同種類ノ營業行爲ヲ爲シ亦他ノ會社ノ無限責任社員ト爲ルコトヲ得ス

第七十八條 有限責任社員カ人ヲシテ其ノ無限責任社員ナリト信セシムヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ善意ノ第三者ニ對シテ無限責任社員ノ責任ヲ負フ

第七十九條 有限責任社員ハ會社ノ業務ヲ執行シ及ヒ外部ニ對シ會社ヲ代表スルコトヲ得ス

第八十條 有限責任社員ハ禁治産ノ宣告ヲ受クルコトニヨリテ退社セス

有限責任社員カ死亡シタルトキハ其ノ持分ハ其ノ相續人ニ歸ス

第八十一條 有限責任社員ハ已ムヲ得サル事故アルトキハ無限責任社員全員ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得テ退社スルコトヲ得又ハ法院ニ退社ノ認可ヲ申請スルコトヲ得

第八十二條 有限責任社員ニシテ左ニ掲クル各款ノ事由ノ一アル者ハ無限責任社員全員ノ同意ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

一 出資ノ義務ヲ履行セサルトキ

二 不正ノ行爲アリテ會社ノ利益ヲ妨害シタルトキ

前項ノ除名ハ該社員ニ通知スルニアラサレハ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第八十三條 合資會社ハ無限責任社員又ハ有限責任社員全員ノ退社ニヨリテ解散ス但シ有限責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ無限責任社員全員ノ同意ヲ以テ合名會社ニ改ムルコトヲ得

第八十四條 合資會社ヲ合名會社ニ改ムルトキハ十五日ニ所轄官署ニ合資會社ノ解散登記及ヒ合名會社設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第八十五條 合資會社ノ解散シタル場合ハ無限責任社員過半数ノ決議ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ決議ナキトキハ無限責任社員全員ニ於テ清算ス

第八十六條 前條第一項ノ清算人ハ無限責任社員過半数ノ決議ヲ以テ解任スルコトヲ得

#### 第四章 株式會社（股份有限公司）

##### 第一節 設立

第八十七條 株式會社ノ設立ニハ七人以上ノ發起人アルコトヲ要ス

第八十八條 發起人ハ定款ヲ作成シテ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載シ署名捺印スルコトヲ要ス

一 會社ノ名稱

二 營ムヘキ事業

三 株式ノ總數及ヒ一株ノ金額

四 本店支店及ヒ其ノ所在地

五 會社カ公告ヲ爲ス方法

六 取締役（董事）又ハ監査役（監察人）ノ被選資格

七 發起人ノ姓名住所

第八十九條 左ニ掲ケタル各款ノ事項ハ定款ニ記載スルニ非サレハ效力ヲ生セス

一 解散ノ事由

二 株式ノ額面以上ノ發行

三 發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ姓名

第九十條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケタルトキハ遲滞ナク第一回ノ株金拂込ヲナシ並ニ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

前項ノ選任方法ハ發起人ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

第九十一條 取締役ハ就任後遲滞ナク第一回ノ拂込ヲ完了シタルヤ否ヤ及ヒ左ニ掲クル各款ノ事項ノ確實ナリヤ否ヤヲ検査スル爲検査員ノ選任ヲ所轄官署ニ申請スルコトヲ要ス

一金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ニ充當スル者ノ姓名及ヒ其ノ財産ノ種類、價格、會社ノ之ニ與フル株數

二 會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

第九十二條 所轄官署ハ發起人ノ受クヘキ特別利益、報酬又ハ設立費用ヲ調査シテ其ノ不當ナルコトヲ認メタルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

株金ニ充當スル財産ノ評價カ高キニ過クルトキハ與フル所ノ株數ヲ減少シ又ハ其ノ補足ヲ命スルコトヲ得

第九十三條 發起人カ株式ノ總數ヲ引受ケサルトキハ株主ヲ募集シテ殘餘ノ株式ヲ引受ケシムルコトヲ要ス

第九十四條 發起人ハ聯單式ノ株式申込書ヲ備ヘ之ニ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載シ引受人ヲシテ申込株數、金額及ヒ住所ヲ記入セシメテ署名捺印セシムルコトヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

二 第八十八條、第八十九條及ヒ第九十一條ニ掲クル各款ノ事項

三 各發起人ノ引受株數

四 第一回拂込金額

五 株式總數ノ引受人募集期限及ヒ期間内ノ應募者不足ナル場合株式申込人ハ申込ヲ取消シ得ヘキ聲明

額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ發行スル場合ハ株式申込人ハ株式申込書ニ引受價格ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十五條 株式申込人ハ株式申込書ニ記載シタル株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第九十六條 株券ノ發行價格ハ額面金額ヲ下ルコトヲ得ス

第一回ノ拂込株金ハ額面金額ノ二分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第九十七條 株式總數ノ引受アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク各株式申込人ニ對シ第一回ノ株金拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

額面以上ノ價額ヲ以テ株式ヲ發行シタルトキハ其ノ超過額ハ第一回拂込ト同時ニ之ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第九十八條 株式申込人カ第一回ノ拂込ヲ遅延シタルトキハ發起人ハ二箇月以上ノ期限ヲ定メテ該株式申込人ノ拂込ヲ催告シ並ヒニ期限内ニ拂込ヲササルトキハ其ノ權利ヲ失フヘキコトヲ聲明スヘシ

發起人カ前項ノ催告ヲ爲シタルモ株式引受人カ拂込ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失ヒ其ノ申込ミタル株式ニツキテハ別ニ其ノ株主ヲ募集ス前項ノ事由ノ爲損害アリタルトキハ該株式引受人ニ對シ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第九十九條 第一回ノ株金拂込完了シタル後發起人ハ三箇月内ニ創立總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第一百條 創立總會ノ召集及ヒ決議ハ第二百二十九條乃至第三百三十一條、第三百三十四條第一項、第三項及ヒ第三百三十五條ノ規定ヲ準用ス

創立總會ノ決議ハ株式申込人ノ過半數以上ニシテ資本ノ半額以上ヲ引受ケタル者出席シ出席者ノ議決權ノ過半數

ヲ以テ之ヲ行フ

出席者カ前項ノ定足數ニ滿タサルトキハ出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲シ並ニ假決議ヲ各株式申込人ニ通知ス無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ假決議ヲ公告シ一箇月内ニ再ヒ創立總會ヲ召集スヘシ其ノ決議ハ出席者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ行フ

第一百一條 發起人ハ會社ノ創立ニ關スル一切ノ事項ヲ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第一百二條 創立總會ニ於テハ取締役及ヒ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

第一百三條 取締役及ヒ監査役ハ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ調査シテ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

一 株式總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 各株式申込人カ第一回ノ拂込ヲナシタルヤ否ヤ

三 第八十九條第三款及ヒ第九十一條各款ニ掲クル事項カ正當ナルヤ否ヤ

取締役及ヒ監査役カ發起人ヨリ選出セラレタル者アルトキハ創立總會ハ別ニ検査人ヲ選任シテ前項ノ調査報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第一百四條 發起人カ受クヘキ特別利益、報酬又ハ創立費用ヲ不當ト認メタルトキハ創立總會ハ之ヲ削減スルコトヲ得株金ニ充當シタル財産ノ評價カ高キニ過クルトキハ創立總會ハ之ニ對シテ與フル株數ヲ減少シ又ハ填補ヲ命スルコトヲ得

第一百五條 引受ナキ株式及ヒ引受アリタルモ第一回ノ拂込未済ナル株式ハ發起人連帶シテ引受ケ又拂込ヲ爲スコトヲ要ス株式ノ引受カ取消サレタルトキ亦同シ

第一百六條 前二條ノ事由ノ爲會社カ損害ヲ受ケタルトキハ發起人ニ對シテ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第一百七條 創立總會ハ定款ヲ改正シ又ハ會社ヲ設立セサル決議ヲ爲スコトヲ得

第一百八條 株式總數ノ引受アリタル後六箇月ヲ經過スルモ第一回ノ拂込カ完了セサルトキ又ハ第一回ノ拂込完了スルモ三箇月内ニ發起人カ創立總會ヲ召集セサルトキハ株式申込人ハ其ノ申入ヲ取消スコトヲ得

第一百九條 株式ノ總數ヲ發起人カ引受ケタルトキハ第九十一條ニ規定スル検査終了後株式ノ總數ヲ發起人カ引受ケタルトキハ創立總會終了後十五日内ニ取締役ヨリ左ニ記載スル各款ノ事項ノ登記ヲ所轄官署ニ申請スヘシ

一 第八十八條第一款以下第五款ニ掲クル事項

二 各株式ニ付キ拂込済ノ金額

三 取締役及ヒ監査役ノ姓名住所

四 解散事由ヲ定メタルトキハ其ノ事由

第一百十條 會社カ設立登記ヲナシタル後ハ株式引受人ハ其ノ申込ヲ取消スコトヲ得ス

### 第二節 株式

第一百一十條 株式會社ノ資本ハ之ヲ株式ニ分チ每株ノ金額ハ一律ト爲シ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス但シ第一回ニ全額

ヲ拂込ムトキ八十圓ヲ以テ一株ト爲スコトヲ得

第百十二條 各株主ノ責任ハ其ノ拂込ヲ完了シタル株式ノ金額ヲ限度トス

株主ハ其ノ會社ニ對スル債權ヲ以テ株金ニ充當スルコトヲ得ス

第百十三條 株式カ數人ノ共有タル場合ハ其ノ共有者ハ一人ヲ定メテ株主ノ權利ヲ行使セシムルコトヲ要ス

株式ノ共有者ハ會社ニ對シ連帶シテ株金ノ拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ

第百十四條 會社ハ設立登記ヲ經タル後ニ非サレハ株券ヲ發行スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ株券ヲ發行シタルトキハ其ノ株券ハ無効トス但シ株券所持人ハ株券發行人ニ對シテ損害賠償ノ要求ヲ爲スコトヲ得

第百十五條 株券ニハ番號及ヒ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載シ取締役五人以上署名捺印スヘシ

一 會社ノ名稱

二 設立ヲ登記シタル年月日

三 總株數及ヒ一株ノ金額

四 期ヲ分チテ株金ノ拂込ヲ爲ストキハ毎回ニ拂込ムヘキ金額

記名株式ノ場合同一人ノ所有スル株券ニハ同一ノ姓名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要ス

第百十六條 會社ノ株式ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

發起人ノ株式ハ會社ノ營業開始後一箇年内ハ讓渡スルコトヲ得ス

第百十七條 記名株式ノ讓渡ハ讓受人ノ姓名、住所ヲ會社ノ株式名簿ニ記載シ並ニ讓受人ノ姓名ヲ株式ニ記載スルニ非サレハ其ノ讓渡ヲ以テ會社及ヒ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第百十八條 會社ハ無記名株式ヲ發行スルコトヲ得但シ其株數ハ株式總數ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第百十九條 會社ハ自己ノ株式ヲ取得シ又ハ擔保品トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第百二十條 會社ハ資本減少ノ規定ニ依ルニ非サレハ其株式ヲ消却スルコトヲ得ス

第百二十一條 會社ハ株金拂込期日毎ニ一箇月前ニ於テ各株主ニ對シ各別ニ催告シ及ヒ公告ヲ爲スコトヲ要ス

期限内ニ拂込ヲ爲ササル者ニ對シテハ會社ハ更ニ一箇月以上ノ期限ヲ定メテ各別ニ催告シ及ヒ公告ヲ爲シ並ニ期限ヲ經過スルモ拂込ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ聲明スルコトヲ要ス

會社カ前項ノ催告及ヒ公告ヲ爲スモ株主カ仍ホ拂込ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ

第百二十二條 株主カ拂込ヲ遅延シタルトキハ利息ヲ加算スルコトヲ要ス定款ニ違約金支拂ノ規定アルトキハ會社ハ違約金ヲ要求スルコトヲ得

第百二十三條 株主カ其ノ權利ヲ失ヒタル場合其ノ株式カ讓渡セラレタルモノナルトキハ會社ハ各讓渡人ニ對シ一箇月以上ノ期限ヲ定メテ其ノ拂込ムヘキ株金ノ拂込ヲ催告スルコトヲ要ス

讓渡人カ前條ノ催告ヲ受ケタルトキ最モ先ニ滯納株金ノ拂込ヲ爲シタル者其ノ株式ヲ取得ス期限ヲ經過スルモ拂

込ナキ株式ハ會社之ヲ競賣スルコトヲ得

競賣ニ依リ得タル金額カ滯納株金ノ額ニ達セサルトキハ順次ニ原株主及ヒ讓渡人ニ辨濟ヲ要求スルコトヲ得

第二百二十四條 前條ニ定ムル讓渡人ノ責任ハ其ノ讓渡カ株主名簿ニ記載セラレタル後二箇年ヲ經過シタル後消滅ス

第二百二十五條 株式總數ノ拂込カ完了シタル後ニ非サレハ會社ハ株主ノ要求ニヨリ無記名式株式券ヲ發行スルコトヲ得ス

株主ハ何時ニテモ無記名式株式券ヲ記名式ニ改ムルコトヲ請求スルコトヲ得

第二百二十六條 株主名簿ニハ番號及ヒ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 各株主ノ株式ノ數及ヒ株券ノ番號

二 各株主ノ住所、姓名

三 各株式ニ付キ拂込ミタル株金額及ヒ拂込ノ年月日

四 各株式取得ノ年月日

五 無記名ノ株式券ヲ發行シタルトキハ其ノ數、番號及ヒ發行ノ年月日

六 優先株式發行シタルトキハ番號ノ下ニ優先ノ文字ヲ記入ス

第三節 株主總會

第二百二十七條 株主總會ハ左ノ二種ニ分ツ

一 株主定時總會ハ每年少クトモ一回召集ス

二 株主臨時總會ハ必要アルトキ之ヲ召集ス

第二百二十八條 株主總會ハ取締役之ヲ召集ス

株主總會ノ決議ハ本法ニ別ニ規定アルカ又ハ會社ノ定款ニ於テ別ニ定アル場合ヲ除ク外第百條第二項及ヒ第三項ノ規定ヲ準用ス

第二百二十九條 會社ノ各株主ハ一株ニツキ一箇ノ議決權ヲ有ス十一株以上ヲ有スル株主ハ定款ニ於テ其ノ議決權ヲ制限スルコトヲ得但シ各株主ノ議決權及ヒ他ノ株主ヲ代理シテ行フ議決權ハ全部ノ株主ノ議決權ノ五分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二百三十條 株主ハ代理人ニ委託シテ株主總會ニ出席セシムルコトヲ得但シ委任狀ヲ差出スコトヲ要ス

第二百三十一條 株主カ會議事項ニ對シテ特別ノ利害關係アルトキハ議決權ヲ行フコトヲ得ス亦他ノ株主ヲ代理シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第二百三十二條 無記名式株式券ノ所持人ハ總會ヨリ五日前ニ其ノ株式券ヲ會社ニ供託スルニ非サレハ會議ニ出席スルコトヲ得ス

第二百三十三條 株式總數ノ二十分ノ一以上ヲ有スル株主ハ書面ヲ以テ提議事項及ヒ其ノ理由ヲ説明シ取締役ニ對シ臨時株主總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

取締役カ前項ノ請求アリタル後十五日内ニ總會召集ノ通知ヲ爲ササルトキハ株主ハ所轄官署ニ申請シ認可ヲ經テ其ノ召集ヲ爲スコトヲ得

第三百三十四條 株主定時總會ヲ召集スルニハ一箇月前ニ各株主ニ通知シ無記名式株券ヲ所持スル者ニ對シテハ四十分日前ニ之ヲ公告スルコトヲ要ス

臨時株主總會ヲ召集スルニハ十五日前ニ各株主ニ通知シ無記名式株券ノ所持人ニ對シテハ二十日前ニ之ヲ公告スルコトヲ要ス

通知及ヒ公告中ニハ召集ノ事由及ヒ提議事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百三十五條 株式總會ノ議決事項ハ決議録ヲ作成シテ之ニ記載シ主席之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

決議録ニハ並ニ會議ノ時日及ヒ場所主席ノ姓名及ヒ決議ノ方法ヲ記載スルコトヲ要ス

決議録ハ出席株主ノ名簿ト共ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第三百三十六條 株主總會ハ取締役ノ作成セル表冊、監査役ノ報告ヲ検査シ並ニ利益及ヒ利子ノ配當ヲ議決スルコトヲ得前項ノ検査ノ爲株主總會ハ検査人ヲ選任スルコトヲ得

第三百三十七條 株主總會ノ召集又ハ決議カ法令又ハ定款ニ違反スルトキハ株主ハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ法院ニ其ノ決議ヲ無効トスル宣告アリタキ旨提訴スルコトヲ得

#### 第四節 取締役

第三十八條 會社ノ取締役ハ五人以上トシ株主總會ニ於テ選任ス

第三百三十九條 取締役ハ就任後定款ニ定ムル被選資格トシテ有スヘキ株式ニ對スル株券ヲ監査役ノ手ヲ經テ會社ニ供託スルコトヲ要ス

第四百十條 取締役ノ報酬カ定款ニ於テ定メラレサルトキハ株主總會ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第四百十一條 取締役ノ任期ハ三年ヲ起ユルコトヲ得ス但シ重任スルコトヲ得

第四百十二條 取締役ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得但シ任期ヲ定メタル場合正當ノ理由ナクシテ滿期前ニ解任セラレタルトキハ取締役ハ會社ニ對シ之ニ因ツテ受クル所ノ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得

第四十三條 取締役ノ缺員カ總數ノ三分ノ一以上ニ達シタルトキハ遲滯ナク臨時株主總會ヲ召集シテ之ヲ補選スルコトヲ要ス

取締役ノ缺員カ補選セラレサル間ニ必要ヲ生シタルトキハ前選舉ニ於ケル次點者ヲシテ職務ヲ代行セシムルコトヲ得

第四十四條 取締役ノ業務執行ハ定款ニ於テ別ニ定メタル場合ヲ除クノ外其ノ過半数ノ決議ヲ以テ之ヲ行フ支配人ノ選任及ヒ解任ノ場合亦同シ

第四百十五條 會社ハ定款又ハ株主總會ノ決議ニ依リ取締役中ノ一人又ハ數人ヲ特定シテ會社ヲ代表セシムルコト



ヲ得

第二十八條、第三十一條以下第三十三條ノ規定ハ取締役ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四百十六條 取締役ハ定款及ヒ各株主總會ノ決議録、資産負債表、損益計算書ヲ本店及ヒ支店ニ備ヘ置キ並ヒニ

株主名簿及ヒ社債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クコトヲ要ス

株主及ヒ會社ノ債權者ハ何時ニテモ前項ノ定款及ヒ帳簿ノ査閱ヲ請求スルコトヲ得

第四百十七條 會社ノ缺損額カ資本總額ノ三分ノ一ニ達シタルトキハ取締役ハ遲滯ナク株主總會ヲ召集シテ之ヲ報

告スルコトヲ要ス

會社ノ財産カ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルコト判明シタルトキハ取締役ハ遲滯ナク破産宣告ノ請求ヲナスコトヲ要ス

第四百十八條 取締役ハ業務執行ニ當リ定款及ヒ株主總會ノ決議ニ準據スルコトヲ要ス

取締役カ前項ノ規定ニ違反シテ會社ニ損害ヲ與ヘタルトキハ會社ニ對シテ賠償ノ責任ヲ負フ

第四百十九條 株主總會カ取締役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ議決シタルトキハ會社ハ議決ノ日ヨリ一箇月内ニ

之ヲ提起スルコトヲ要ス

第五百十條 株式總數ノ十分ノ一以上ヲ有スル株主ハ會社ノ爲ニ取締役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合法院ハ監査役ノ申請ニヨリ起訴シタル株主ニ對シ相當擔保ノ提供ヲ命スルコトヲ得

若シ敗訴ニヨリ會社ニ損害ヲ與ヘタルトキハ會社ニ對シテ賠償ノ責ヲ負フ

第五十一條 會社ト取締役トノ間ノ訴訟ハ法律ニ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外監査役會社ヲ代表ス株主總會亦別

ニ會社ヲ代表スル者ヲ選舉シテ訴訟當事者ト爲スコトヲ得

#### 第五節 監査役

第五百十二條 監査役ハ株主總會ニ於テ株主中ヨリ之ヲ選任ス

第五百十三條 監査役ノ報酬ヲ定款ニ於テ定メサルトキハ株主總會ニ於テ之ヲ定ム

第五百十四條 監査役ノ任期ハ一年トス但シ重任スルコトヲ得

第五百十五條 第四百十二條ノ規定ハ監査役ニ準用ス

第五百十六條 監査役ハ何時ニテモ會社ノ財産狀況ヲ調査シ帳簿書類ヲ検査シ並ニ取締役ニ會社ノ業務狀況報告ヲ

求ムルコトヲ得

第五百十七條 監査役ハ取締役カ作成シテ株主總會ニ提出セムトスル各種ノ表冊ヲ帳簿及ヒ證憑書類ト對照シテ查

閲シ其ノ意見ヲ株主總會ニ報告スルコトヲ要ス

第五百十八條 監査役ハ前二條ニ規定シタル事務ニ對シ會社ヲ代表シテ會計師、辯護士ニ委託シテ之ヲ辦理スルコ

トヲ得其ノ費用ハ會社ノ負擔トス

第五百十九條 監査役カ必要ト認メタルトキハ株主總會ヲ召集スルコトヲ得

第六十條 監査役ハ各單獨ニ監察權ヲ行使スルコトヲ得

第六十一條 監査役ハ會社ノ取締役又ハ支配人ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第六十二條 取締役カ自己又ハ他人ノ爲ニ會社ト交渉アルトキハ監査役會社ヲ代表ス

第六十三條 監査役カ其ノ職務ヲ盡サスシテ會社ニ損害ヲ與ヘタルトキハ會社ニ對シテ賠償ノ責ヲ負フ

第六十四條 株主總會カ監査役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ議決シタルトキハ會社ハ議決ノ日ヨリ一箇月内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

前項ノ起訴代表者ハ株主總會ニ於テ取締役ニ非サル者ヨリ別ニ選舉スルコトヲ得

第六十五條 株式總數ノ十分ノ一ヲ有スル株主ハ會社ノ爲ニ監査役ニ對シテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ場合法院ハ取締役ノ請求ニヨリ起訴シタル株主ニ對シ相當ナル擔保ノ提供ヲ命スルコトヲ得若シ敗訴ニヨリ會社ニ損害ヲ與ヘタルトキハ起訴シタル株主ハ會社ニ對シテ賠償ノ責ヲ負フ

第六節 會計

第六十六條 取締役ハ毎營業年度末ニ左ニ掲クル各項ノ表冊ヲ作成シ株主定期總會開會ノ三十日前ニ監査役ニ交付シテ審査セシムルコトヲ要ス

一 營業報告書

二 資產負債表

三 財産目錄

四 損益計算書

五 積立金及ヒ株利(股息)利益(紅利)配當案

前項ノ表冊ハ監査役ヨリ取締役ニ對シ審査ノ爲前以テ交付スルコトヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 取締役ノ作成シタル各項ノ表冊ト監査役ノ報告書トハ株主定期總會ノ開會十日前ヨリ會社ノ本店ニ備置キ株主ヲシテ何時ニテモ査閲セシムルコトヲ要ス

第六十八條 取締役ハ其ノ作成セル各項ノ表冊ヲ株主總會ニ提出シテ承認ヲ求ムルコトヲ要ス  
株主會議カ之ヲ承認シタル後取締役ハ資產負債表、損益計算書及ヒ積立金、利息、利益ノ配當決議ヲ公告スルコトヲ要ス

第六十九條 各項表冊カ株主總會ノ承認ヲ經タルトキハ會社カ取締役及ヒ監査役ノ責任ヲ解除シタルモノト看做ス但シ取締役又ハ監査役カ不正行爲アルトキハ此限リニアラス

第七十條 會社カ利益ヲ配當スルトキハ先ツ其ノ十分ノ一ヲ控除シテ積立金ト爲スコトヲ要ス但シ積立金カ資本總額ノ二分ノ一ニ達シタルトキハ此限ニ在ラス

額面以上ノ價額ヲ以テ株券ヲ發行シタルトキハ其價格ヲ超ユル金額ハ全部積立金ト爲スコトヲ要ス  
第七十一條 會社ハ損失ヲ補填シ及ヒ前條ノ規定ニ依ル積立金ヲ控除シタル後ニ非サレハ利子及ヒ利益ノ配當ヲ

ナスコトヲ得ス會社ニ利益ナキトキハ利息及ヒ利益ノ配當ヲナスコトヲ得ス但シ積立金カ資本總額ノ二分ノ一ヲ超過シタルトキ又ハ利益ヨリ控除シタル積立金カ其ノ時ノ利益ノ十分ノ一ニ相當スル金額ニ達シタルトキハ會社ハ株券ノ價格ヲ維持スル爲其ノ超過シタル金額ヲ配當スルコトヲ得

第七十二條 前條ノ規定ニ違反シテ利息及ヒ利益ヲ配當シタルトキハ會社ノ債權者ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得  
第七十三條 會社カ業務ノ性質ニ依リ設立登記ヲナシタル後二年以上ノ準備ヲ爲スニ非サレハ開業スルコト能ハサルモノナルトキハ所轄官署ノ許可ヲ經テ定款ニ於テ營業開始前利息ノ配當ヲナスコトヲ定ムルコトヲ得  
前項利息ノ定率ハ年利五分ヲ超過スルコトヲ得ス

第七十四條 利息及ヒ利益ノ配當ハ定款ニ規定アル場合ヲ除クノ外拂込株金ノ多寡ヲ以テ標準トス

第七十五條 株式總數ノ二十分ノ一以上ヲ有スル株主ハ検査員ヲ選定シテ會社ノ業務及ヒ財産狀況ヲ検査スルコトヲ申請スルコトヲ得  
法院ハ検査員ノ報告アリタル後必要ト認ムルトキハ監査役ニ命シテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得

### 第七節 社 債

第七十六條 會社ハ第八十二條ノ規定ニ依リテ議決シタル後ニアラサレハ社債ヲ募集スルコトヲ得ス

第七十七條 社債ノ總額ハ拂込ミタル株金ノ總額ヲ超過スルコトヲ得ス

會社ニ現存スル財産カ拂込ミタル株金ノ總額ニ滿タサルトキハ社債ノ總額ハ現存ノ財産額ニ超過スルコトヲ得ス

第七十八條 社債券一枚ノ金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第七十九條 社債ノ償還金額カ額面金額ヲ超過スルコトヲ定メタルトキハ同時ニ發行シタル各種社債ハ同一ノ超過率ヲ有スルコトヲ要ス

第八十條 社債ヲ募集スルトキハ取締役ハ左ニ掲クル事項ヲ公告スルコトヲ要ス

- 一 會社ノ名稱
  - 二 社債ノ總額及ヒ社債券一枚ノ金額
  - 三 社債ノ利率
  - 四 社債償還ノ方法及ヒ期限
  - 五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル金額
  - 六 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
  - 七 會社ノ資本總額及ヒ拂込ミタル株金ノ總額
  - 八 會社ニ現存スル財産總額
  - 九 社債募集完了ノ豫定期限並ニ其ノ期限ヲ經過スルモ募集ノ完了セサル場合既ニ應募シタル者カ其ノ引受ヲ取消シ得ルコト
- 取締役ハ聯單式ノ引受書ヲ備ヘテ前項各款ノ事項ヲ記入シ應募者ハ之ニ應募金額及ヒ其ノ住所姓名ヲ記入シテ捺

印セシムルコトヲ得

第百八十一條 社債ノ募集カ豫定額ニ達シタルトキハ取締役ハ各應募者ニ對シ其ノ引受金額ノ拂込ヲ請求スルコトヲ要ス

取締役ハ社債ノ拂込カ完了シタル十五日内ニ所轄官署ニ申請シテ前條第一項第二款ヨリ第四款ニ至ル事項及ヒ社債發行ノ年月日ヲ登記スルコトヲ要ス

第百八十二條 社債券ニハ番號、發行年月日並ヒニ第百八十條第一項第一款ヨリ第四款ニ至ル事項ヲ記載シ取締役署名捺印スヘシ

第百八十三條 社債原簿ニハ總テノ債權ヲ番號順ニ記入シ並ニ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載スヘシ

一 社債所有者ノ姓名住所

二 第百八十條第一項第二款ヨリ第四款ニ至ル事項

三 社債發行ノ年月日

四 各債券取得ノ年月日

第百八十四條 記名社債ノ讓渡ハ讓受人ノ姓名住所ヲ社債原簿ニ記入シ並ヒニ其ノ姓名ヲ債券ニ記載スルニ非サレハ其ノ讓渡ヲ以テ會社及ヒ其ノ他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第百八十五條 無記名式債券ノ所有者ハ何時ニテモ之ヲ記名式ニ改ムルコトヲ請求スルコトヲ得

第八節 定款ノ變更

第百八十六條 會社ハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ定款ヲ變更シ又ハ資本ヲ増減スルコトヲ得ス

前項ノ決議ハ株主ノ過半数以上ニシテ資本總額ノ過半数ヲ代表スル者出席シ其ノ議決權ノ三分ノ二ヲ以テ之ヲ決ス出席株主カ前項ノ定款ニ滿タサルトキハ出席株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ決議ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各株主ニ其ノ假決議ヲ通知シ無記名式ノ株券ヲ發行シタルトキハ假決議ヲ公告シ一箇月内ニ第二回ノ株主總會ヲ召集スルコトヲ要ス其ノ決議ハ出席株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ行フ

第百八十七條 會社ハ株金全額拂込ノ後ニアラサレハ資本ヲ増加スルコトヲ得ス

第百八十八條 會社カ資本ヲ増加シ又ハ債務ヲ整理スルトキハ優先株ヲ發行スルコトヲ得但シ會社ノ定款中ニ優先株ノ有スル權利ノ種類ヲ記載スルコトヲ要ス

第百八十九條 會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ其ノ定款ノ變更カ優先株主ノ權利ニ損害ヲ及ボスヘキトキハ株主總會ノ決議ヲ除クノ外更ニ優先株主ノ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス  
優先株主ノ總會ニハ株主總會ノ規定ヲ準用ス

第百九十條 會社カ新株ヲ募集スルトキハ先ツ舊株主ニ申込マシメ殘餘アルトキ始メテ別ニ募集スルコトヲ得  
第百九十一條 會社カ資本ヲ増加スル場合ニ於テ金錢以外ノ財産ヲ以テ株金ニ充當スル者アルトキハ其ノ人、其ノ財産ノ種類、價格及ヒ會社ノ之ニ對シテ與フル株式ノ數ハ資本増加ノ決議ト同時ニ之ヲ議決スヘシ

第九十二條 會社カ新株ヲ募集スルトキハ取締役ハ聯單式ノ株式引受書ヲ備ヘ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記入シ引受人ヲシテ其ノ引受金額及ヒ其ノ住所姓名ヲ記入シテ捺印セシムルコトヲ要ス

一 第八十八條第一款乃至第六款、第八十九條及ヒ第九十一條第一款ノ事項

二 資本増加ヲ議決シタル年月日

三 増加スヘキ資本ノ總額及ヒ一株ノ金額

四 第一回拂込ノ株金

五 優先株ヲ發行スル場合ハ其ノ種類及ヒ各種優先株ノ總額

同時ニ數種ノ優先株ヲ發行スルトキハ株式引受人ハ株式申込書ニ引受株ノ種類及ヒ株數ヲ記入スルコトヲ要ス

第九十三條 會社カ資本ヲ増加シタル場合ニ於テ第一回ノ拂込カ完了シタルトキハ取締役ハ遲滞ナク株式總會ヲ召集シ新株募集ニ關スル事項ヲ報告スヘシ

第九十四條 監査役ハ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ調査シテ之ヲ株主總會ニ報告スヘシ

一 募集シタル新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ

二 各新株ニツキ第一回ノ拂込アリタルヤ否ヤ

三 金錢以外ノ財産ヲ以テ株金ニ充當シタル者アル場合之ニ對シテ與ヘタル株式ノ數カ正當ナリヤ否ヤ

前項ノ調査及ヒ報告ノ爲株主總會ハ別ニ検査人ヲ選舉スルコトヲ得

第九十五條 取締役ハ第九十三條ニ規定シタル株主總會ノ結了後十五日內ニ所轄官署ニ申請シテ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 増加シタル資本ノ總額

二 資本増加ノ決議ノ年月日

三 各新株ニツキ拂込シタル株金額

四 優先株ヲ發行シタルトキハ其ノ優先株ノ有スヘキ權利ノ種類、各種優先株ノ總額及ヒ其ノ各種ノ株ノ一株ノ金額  
前項ノ登記ヲ經サル以前ニ於テハ新株券ヲ發行シ又ハ新株券ノ讓渡ヲナスコトヲ得ス

第九十六條 會社カ新株ヲ募集シテ發行シタル新株券ニハ番號、株式數及ヒ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載シ取締役五名以上之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 會社ノ名稱

二 増加資本登記ノ年月日

三 増加シタル株式總數及ヒ一株ノ金額

四 優先株ヲ發行シタルトキハ其ノ株金總額及ヒ優先ノ權利

五 増加シタル株式ノ株金ヲ割賦拂込トシタルトキハ毎回ノ拂込金額

第九十七條 第九十五條乃至第九十八條及ヒ第一百十一條乃至第一百十三條ノ規定ハ新株ノ募集ニ之ヲ準用ス

第九十八條 資本ヲ減少スル爲ニ株券ノ引換ヲナス場合ニ於テハ會社ハ資本減少ノ登記ヲ爲シタル後六箇月以上ノ期間内ニ各株主ニ引換ヲ爲スヘキ旨及ヒ其ノ期間内ニ引換ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨通告スルコトヲ要ス

株主カ前項ノ期間内ニ株券ノ引換ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フ此場合會社ハ其ノ株式ヲ競賣シ其ノ代金ヲ該株主ニ交付スルコトヲ要ス

第九十九條 資本減少ノ爲株式ヲ併合スヘキ場合ニ於テ併合ニ適セサル株式ニハ前條ノ第二項ノ規定ヲ準用ス

第一百條 第四十八條及ヒ第四十九條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九節 解散

第一百一條 會社ハ左ニ掲クル各款ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款ニ定メタル解散事由ノ發生
- 二 會社ノ事業ノ成就又ハ不成就
- 三 株式總會ノ決議
- 四 記名株ノ株主カ七人未滿トナリタルトキ
- 五 他ノ會社トノ合併
- 六 破産

七 解散ノ命令

第一百二條 會社カ解散スルトキハ破産ノ場合ヲ除クノ外取締役ハ遲滞ナク之ヲ株主ニ通知シ無記名株券ヲ發行シタルトキハ並ニ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第一百三條 株主總會カ解散及ヒ他ノ會社ト合併ノ決議ヲ爲ストキハ第八十六條第二項ノ規定ヲ準用スルコトヲ要ス

第一百四條 合併ニ因リ解散スル會社ハ第四十八條乃至第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第十節 清算

第一百五條 會社ノ解散ハ合併及ヒ破産ヲ除クノ外取締役ヲ以テ清算人トス但シ定款ニ別段ノ定メアルトキ又ハ株主總會ニ於テ他ニ清算人ヲ選定シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リテ清算人ヲ定メ得サルトキハ法院ハ利害關係人ノ申請ニヨリ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第一百六條 清算人ハ法院ノ選任シタル者ヲ除クノ外株主總會ノ決議ニヨリテ之ヲ解任スルコトヲ得

法院ハ監査役又ハ株式總數ノ十分ノ一以上ヲ有スル株主ノ申請ニヨリ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第一百七條 清算人カ清算事務ヲ執行スル範圍内ニ於テハ本節ニ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ權利ハ取締役ト同シ

第一百八條 清算人ノ報酬ハ法院ノ選任シタル者ヲ除クノ外株主總會ニ於テ之ヲ定ム法院ノ選任シタル清算人ノ報酬ハ法院之ヲ決定ス

清算費用及ヒ清算人ノ報酬ハ會社現存ノ財産中ヨリ優先ニ給付ス

第二百九條 清算人ハ就任後遲滯ナク會社ノ財産狀況ヲ検査シ資産負債表及ヒ財産目録ヲ作成シ株主總會ニ提出シテ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百十條 債務ヲ完済シタル後ノ剩餘財産ハ各株主ノ拂込シタル株金額ノ割合ニ應シテ分配スルコトヲ要ス但シ會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款中別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第二百十一條 清算カ結了シタルトキハ清算人ハ十五日内ニ清算期間中ノ收支計算書損益計算表ヲ作成シ之ヲ各項ノ帳簿及ヒ書類ト共ニ株主總會ニ提出シテ株主總會ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

株主總會ハ別ニ検査人ヲ選定シテ前項ノ帳簿書類ノ正確ナリヤ否ヤヲ検査スルコトヲ要ス  
帳簿及ヒ書類カ株主總會ノ承認ヲ經タルトキハ會社カ清算人ノ責任ヲ解除シタルモノト見做ス但シ清算人ニ不正ノ行爲アルトキハ此限ニ在ラス

第二百十二條 會社ノ各項ノ帳簿及ヒ書類ハ清算結了ノ登記後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス  
其ノ保存者ハ清算人及ヒ其ノ他ノ利害關係人ノ申請ニヨリ法院之ヲ指定ス

第二百十三條 清算結了後分配スヘキ財産アルトキハ法院ハ利益關係人ノ申請ニヨリ清算人ヲ選任シテ更ニ分配ヲナスコトヲ得

第二百十四條 第五十二條、第五十七條、第五十八條、第六十條乃至第六十四條及ヒ第六十七條ノ規定ハ株式會社

ノ清算ニ之ヲ準用ス

第五章 株式合資會社(股份兩合公司)

第二百十五條 株式合資會社ノ株主ニハ一人以上ノ無限責任社員アルコトヲ要ス

第二百十六條 株式合資會社ニハ左ニ掲クル各款ノ事項ニツキ合名會社ノ規定ヲ準用ス

- 一 無限責任社員ノ對内關係
- 二 無限責任社員ノ對外關係
- 三 無限責任社員ノ退社

其ノ他ノ事項ハ本章ニ規定アル場合ヲ除クノ外株式會社ノ規定ヲ準用ス

第二百十七條 株式合資會社ヲ設立スルトキハ無限責任社員發起人トナリ定款ヲ作成シテ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載シ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 第八十八條第一款乃至第五款ノ事項
  - 二 無限責任社員ノ姓名、住所
  - 三 無限責任社員ノ株金以外ノ出資、其種類及ヒ價格又ハ評價ノ標準
- 第二百十八條 無限責任社員ハ株金募集ノ責ニ任ス
- 第二百十九條 株式申込書ニハ左ニ掲クル各款ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 第八十九條、第九十四條第一項第一、第二、第四、第五各款及ヒ第二百七條所載ノ事項

二 無限責任社員カ株式ヲ引受ケタルトキハ其ノ株數

第二百二十條 創立總會ハ株主中ヨリ監査役ヲ選任スルコトヲ要ス

無限責任社員ハ監査役トナルコトヲ得ス

第二百二十一條 無限責任社員ハ創立總會及ヒ株主總會ニ於テ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ株式ヲ引受ケタルトキト雖モ議決權ヲ有セス

第二百二十二條 監査役ハ第三百三條第一項及ヒ第二百七條第三款所載ノ事項ヲ調査シテ創立總會ニ報告スルコトヲ要ス

第二百二十三條 會社ハ創立總會終了ノ後十五日内ニ所轄官署ニ申請シテ左ニ記載スル各款ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一 第八十八條第一、第二、第三、第五各款、第九十九條第二、第四各款、第二百七條第二、第三各款所載ノ事項

二 會社ヲ代表スル無限責任社員ヲ定メタルトキハ其ノ姓名、住所

三 監査役ノ姓名、住所

第二百二十四條 會社ヲ代表スル無限責任社員ニハ百三十八條乃至第四百二十二條ヲ適用セサル外株式會社取締役ノ規定ヲ準用ス

第二百二十五條 合名會社ニ於テ社員全員ノ同意ヲ必要トスル事項ハ株式合資會社ニ於テハ株主總會ノ決議ヲ除クノ外更ニ無限責任社員ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ第八十六條第二項、第三項ノ規定ヲ準用ス

第二百二十六條 合名會社ノ解散事由ノ規定ハ株式合資會社ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條 無限責任社員ノ全員カ退社シタルトキハ株主ハ第八十六條第二項ノ規定ニ依リ株式會社ニ改ムルコトヲ得

第二百二十八條 會社カ解散シタルトキハ合併、破産及ヒ命令ヲ以テ解散スル場合ノ外無限責任社員ノ全員又ハ其ノ選任シタル清算人ト株主總會ノ選任シタル清算人ト共同シテ清算ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニアラス無限責任社員カ清算人ヲ選任スルトキハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス株主總會ノ選任スル清算人ハ無限責任社員又ハ其ノ選任スル清算人ト同數ナルコトヲ要ス

第二百二十九條 清算人ハ第二百九條及ヒ第二百一十一條ノ規定ニ依リ各項ノ帳簿及ヒ書類ヲ株主總會ニ提出シテ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第二百三十條 株式合資會社ヲ改メテ株式會社ト爲ストキハ第四十八條第二項及ヒ第四十九條乃至第五十一條ノ規定ヲ準用ス



第二百三十一條 會社ノ業務ヲ執行スル社員、發起人、取締役、監査役及ヒ清算人ニ左ニ掲クル各款ノ事由ノ一アルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

一 本法ノ届出期間又ハ登記申請期間ニ關スル規定ニ違反シタルトキ

二 本法ノ公告期間又ハ通知期間ニ關スル規定ニ違反シタルトキ

三 本法ノ規定ニ依リ査閲ヲ許スヘキ帳簿書類ノ査閲ヲ正當ノ理由ナクシテ拒絶シタルトキ

四 本法ノ依リテ行フ調査ニ對シ妨礙ノ行爲アリタルトキ

五 第九十四條第一項、第九十二條第一項及ヒ第二百十七條ノ規定ニ違反シ株式申込書ヲ備ヘス又ハ株式申込書ニ不實ノ記載ヲナシタルトキ

六 第一百十四條第一項及ヒ第九十五條第二項ノ規定ニ違反シ株券ヲ發行シタルトキ

七 第一百五條第八十二條及ヒ第九十六條ノ規定ニ違反シ株券ニ不實ノ記載ヲナシタルトキ

八 會社定款、株主總會決議録、株主名簿、社債原簿、營業報告書、資產負債表、財産目錄、損益計算表及ヒ利息利益ノ配當、積立金控除ニ關スル議案ヲ本店ニ備ヘ置カス又ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

第二百三十二條 會社ノ業務ヲ執行スル社員、發起人、取締役、監査役及ヒ清算人ニ左ニ掲クル各款ノ事由アルトキハ一千圓以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

一 第四百七十七條第一項、第七十五條第二項ノ規定ニ違反シ株主總會ヲ召集セサルトキ

二 官署又ハ株主總會ニ對シ不實ノ陳述報告ヲナシタルトキ

三 第四十八條及ヒ第四十九條ノ規定ニ違反シテ他ノ會社ト合併シタルトキ

四 本法ニ依ル検査ニ對シ妨礙ノ行爲アリタルトキ

五 第二百二十條ノ規定ニ違反シテ株式ヲ消却シタルトキ

六 第二百二十五條第一項ノ規定ニ違反シテ無記名式株券ヲ發行シタルトキ

七 第六十三條第一項及ヒ第四百七十七條第二項ノ規定ニ違反シ遲滞ナク破産ノ宣告ヲ申請セサルトキ

八 第七十條第一項ノ規定ニ依ラスシテ積立金ヲ控除シタルトキ

九 第六十四條ノ規定ニ違反シテ會社ノ財産ヲ分配シタルトキ

十 會社カ解散ノ命令ヲ受ケテ解散シタル後事務ヲ清算人ニ引繼カサルトキ

第二百三十三條 會社ノ業務ヲ執行スル社員、發起人、取締役、監査役及ヒ検査人ニ左ニ掲クル事由ノ一アリタルトキハ一年以下ノ徒刑又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 設立ノ登記又ハ資本増加ノ登記ヲ申請スルニ當リ株式總數ノ引受完了、株金拂込總額ニ關シ不實ノ陳述アリタルトキ

二 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス會社ノ爲ニ會社ノ株式ヲ買入レ又ハ擔保ト爲シタルトキ

三 本法ノ規定ニ違反シテ利息又ハ利益ノ配當ヲナシタルトキ

四 會社ノ定款ニ定ムル事業ノ範圍外ニ於テ會社ノ財産ヲ流用シテ事業ヲナシタルトキ

### 國民政府工商部駐滬辦事處組織大綱

民國十七年六月九日部令公布

- 第一條 工商部ハ駐滬辦事處ヲ設置シ部長ノ命ヲ受ケテ上海ニ於テ進行シ又ハ協議スヘキ各事宜ヲ辦理ス
- 第二條 工商部駐滬辦事處ハ主任一人ヲ置キテ本處ノ事務ヲ掌理セシメ副主任一人ヲ置キテ本處ノ事務ヲ協理シ課長二人ヲ置キテ各課ノ事務ヲ辦理シ課員四人乃至八人ヲ置キテ各課ノ事務ヲ助理セシム
- 第三條 工商部駐滬辦事處職員ハ部長之ヲ任命シ又ハ部員ヨリ轉任セシム文件ノ作成、謄寫及ヒ計算、調査等ノ事務ノ爲ニハ適宜雇員ヲ採用スルコトヲ得
- 第四條 工商部駐滬辦事處ニ左ノ二課ヲ置ク
  - 一 第一課(總務課)ハ文牘及ヒ庶務會計等ノ事務ヲ掌理ス
  - 二 第二課(政務課)ハ工商業者ノ訪問、勞働者調査及ヒ展覽會、陳列館等ノ事務ヲ掌理ス
- 第五條 本組織大綱未タ事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ主任ヨリ部長ニ申請シテ之ヲ修正ス
- 第六條 本組織大綱ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 國貨調查委員會章程

民國十七年六月十六日部令公布

- 第一條 工商部ハ國貨提唱ノ爲各部院會ヲ會同シテ國貨委員會ヲ組織ス
- 第二條 各部院會ハ各責任ヲ負擔シ得ル代表者一人又ハ二人ヲ派シテ國貨調查委員會委員ト爲スヘシ
- 第三條 國貨調查委員會ハ工商部長ヲ以テ委員長トス
- 第四條 國貨調查委員會ハ工商部ニ附設ス
- 第五條 國貨調查委員會ニ左ノ各係ヲ置ク
  - 一 總務係
  - 二 調査係
  - 三 獎勵係
- 第六條 總務係ノ職掌左ノ如シ
  - 一 會議ノ記錄ニ關スル事項
  - 二 會務ノ協議ニ關スル事項
  - 三 議案ノ整理ニ關スル事項

- 四 報告書ノ編纂ニ關スル事項
- 五 他ノ係ニ屬セサル事項

第七條 調査係ノ職掌左ノ如シ

- 一 國貨ノ生産及ヒ販路ニ關スル事項
- 二 税捐ノ減免ニ關スル事項
- 三 運輸交通ニ關スル事項
- 四 物價ノ調節ニ關スル事項

第八條 獎勵係ノ職掌左ノ如シ

- 一 國貨製造ノ獎勵ニ關スル事項
- 二 偽國貨取扱者ノ處罰ニ關スル事項
- 三 國貨使用宣傳ニ關スル事項
- 四 國貨ノ販路保護ニ關スル事項

第九條 調査、獎勵ノ兩係ニ關スル事項ニシテ各部院會ノ主管ニ屬スルモノハ各部院會ノ辦理ヲ求ムルコトヲ得

第十條 各係ニ主任委員一人、委員若干人ヲ置キ委員長ヨリ各部院會ノ派遣セル代表者中ヨリ之ヲ任命ス

第十一條 各係ノ事務ヲ辦理スル爲必要ナルトキハ工商部各處司員ノ助理ヲ求ムルコトヲ得

第十二條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行シ並ヒニ各部院會ニ報告スルモノトス

工業品獎勵暫行條例

民國十七年六月十八日國民政府公布

第一條 工業上ノ物品及ヒ製造方法ニ關シ最初ニ發明シ又ハ特殊ノ改良ヲナシ又ハ外國ノ成法ヲ應用シテ物品ヲ製造シ優良ナル成績ヲ得タル者ハ本條例ニ依リ工商部ニ對シ獎勵ヲ申請スルコトヲ得

第二條 獎勵ノ類別左ノ如シ

- 一 專利 凡ソ工業上ノ物品及ヒ製造方法又ハ特殊ノ改良法ニ關シ最初ニ發明シタル者ハ工商部ニ稟申シテ審査ヲ請ヒ合格シタルトキハ與フルニ專利ヲ以テシ其ノ年限ハ十五年、十年、五年、三年ノ四種ニ分ツ右期限ハ執照下付ノ日ヨリ起算シ工商部ヨリ國民政府ニ申請シ各省ニ命シテ一體ニ保護セシム
- 二 凡ソ特殊ノ技能ヲ以テ優良品ヲ製造シ又ハ外國ノ成法ヲ應用シテ物品ヲ製造シ成績優秀ナル者ハ工商部ニ稟申シテ審査ヲ請ヒ合格シタルトキハ褒賞ヲ給與ス

第三條 左記ノ工業品ハ獎勵ヲ申請スルコトヲ得ス

- 一 凡ソ社會ノ秩序又ハ善良ノ風俗公共ノ衛生ヲ妨害スルノ虞アルモノ
- 二 同様ナル發明及ヒ特殊ノ改良アリテ既ニ先ニ獎勵ノ許可アリタルモノ

第四條 凡ソ發明又ハ特殊改良ノ工業製品ニシテ軍事上秘密ヲ守ルヘキ必要アルモノハ主管官署ノ請求ニヨリ專利ヲ與ヘス又ハ制限ヲ加フルコトヲ得但シ此場合主管官署ハ相當ノ報酬ヲ與フルモノトス

第五條 凡ソ獎勵ノ申請アリテ之ヲ審査セル後專利ヲ與フルモノハ工商部ヨリ執照ヲ發給シ獎勵ヲ與フルモノハ工商部ヨリ褒章並ヒニ褒狀ヲ發給ス

第六條 凡ソ獎勵ヲ申請スル者ハ申請書ノ外詳細ナル説明書、圖樣、製品又ハ模型等ヲ工商部ニ呈送シテ審査ヲ請フヘク專利ヲ申請スル者ハ別ニ宣誓書ヲ呈送シテ自己ノ發明又ハ特殊改良ニ相違ナキコトヲ證明スヘシ

第七條 凡ソ獎勵ヲ申請シタル者ハ特可ノ通知アリタル後六箇月内ニ左記ノ規定ニ從ツテ費用ヲ納付シ執照又ハ褒章ヲ受領スヘシ

- 一 專利十五年ノ執照費 五期ニ分納スル場合ハ第一年ヨリ第五年マテ毎年五十元一回ニ完納スル場合ハ二百元
- 二 專利十年ノ執照費 三期ニ分納スル場合ハ第一年ヨリ第三年マテ毎年四十元一回ニ完納スル場合ハ一百元
- 三 專利五年ノ執照費 五十元一回完納
- 四 專利三年ノ執照費 三十元一回完納
- 五 褒 賞 費 十元

第八條 凡ソ專利ヲ申請スル者認可ノ通知後六箇月以内ニ執照ヲ受領セサルトキハ之ヲ無効トス但シ事由アル場合ハ之ヲ申出テ延期ヲ請フコトヲ得延期ハ三箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

專利ハ執照ヲ受領セサル以前ニ在リテハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第九條 既ニ獎勵ヲ得タル工業製品又ハ製造方法ハ其ノ申請人ノ姓名、工場名、資本、製品名稱及ヒ種類、專利年限、專利執照、褒章號數ヲ工商部公報ニヨリテ公布ス

第十條 既ニ專利權ヲ得タル者專利期限内ニ於テ其ノ專利物品又ハ製造方法ニ於テ更ニ特殊ノ改良ヲ爲シタル時ハ再ヒ專利ヲ申請スルコトヲ得

第十一條 申請人カ發明シ又ハ特殊ノ改良ヲシタル物品又ハ方法ノ一部分カ既ニ申請アリタル物品又ハ方法ト同様ナル場合ハ先ニ申請シタル者ヲシテ專利權ヲ享有セシム

第十二條 專利權ハ之ヲ相續又ハ移轉スルコトヲ得但シ工商部ニ申請シ認可ヲ得テ執照ノ書換ヲナスコトヲ要ス

第十三條 專利年限内ニ於テ他人カ模造模倣ニヨリ專利權ヲ妨害シタル時ハ專利權者ハ民事法規ニ依リ賠償ヲ要求スル外工商部ニ申請シテ之ヲ禁シ其ノ物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十四條 專利權ヲ得タル者ハ物品ノ上ニ專利權ノ號數及ヒ某年某月某日許可ノ文字ヲ註シ以テ模造品ノ發生ヲ免ルヘシ

第十五條 既ニ權利ヲ得タル者ニシテ左ノ事由ノ一アル者ハ直チニ其ノ專利權ヲ取消ス

- 一 既ニ專利權ヲ得タル工業品ハ執照發給ノ日ヨリ滿一年以内ニ製造ヲ爲サス之ニ關シ特別ノ事由アルコトヲ屆出テテ認可ヲ得サル者

- 二 外國品ヲ輸入シテ自家製品ト詐稱スル者
- 三 製造スル物品ト説明書又ハ圖樣トカ符合セサル者
- 四 專利期間内ニ故ナクシテ一年以上休業シ之ニ關シ届出テテ認可ヲ得サル者
- 五 本條例第三條ノ規定ニ違反セル者
- 六 詐僞ノ方法ヲ以テ許可ノ申請ヲナシタル者
- 第十六條 專利年限ノ滿了セル時又ハ專利權ヲ取消シタル時ハ均シク工商部ノ公報ニヨリ公布ス
- 第十七條 本條例施行後ハ從前公布シタル工業品獎勵ニ關スル規則ハ總テ之ヲ廢止ス
- 第十八條 從來第十七條ニ謂フ所ノ工業品獎勵ニ關スル規則ニ依リ專利權ヲ得タル者ハ本條例施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ本條例ノ規定ニ依リ工商部ノ審査ヲ申請スヘシ若シ右期限内ニ審査ヲ申請セサルトキハ其ノ專利權ヲ取消ス
- 第十九條 本條例ノ施行細則ハ工商部別ニ之ヲ定ム
- 第二十條 專利特許法制定公布後ハ本條例ヲ廢止ス但シ本條例ニ依リテ取得シタル獎勵ハ繼續シテ效力ヲ有ス
- 第二十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 工業品獎勵暫行條例施行細則

民國十七年七月二日國民政府工商部令公布

- 第一條 獎勵ヲ申請スル者ハ中華民國ノ國籍ヲ有スル者ヲ以テ限リト爲ス
- 第二條 獎勵ヲ申請スル者ノ申請書及ヒ説明書等ハ中國ノ文字ヲ用ウルコトヲ要シ若シ説明書中科學上ノ名詞アル時ハ外國ノ原語及ヒ譯文ヲ並列スヘシ
- 第三條 專利申請ノ申請書圖說等ヲ郵送スル場合ハ必ス書留トナスヘシ工商部ハ發送郵便局ノ捺印セル日附ニヨリ申請ノ前後ヲ認定ス
- 第四條 專利申請ノ圖樣又ハ模型カ不明瞭又ハ不完全ナル時ハ工商部ハ申請人ヲシテ詳細ニ補呈セシム此項ノ補呈ハ批示ノ日ヨリ六箇月内ニ送呈スヘク期限ヲ經過シテ補呈セサルトキハ其ノ申請ヲ無効トス
- 第五條 獎勵ヲ申請スル者左記各款ノ事由ノ一アルトキハ其ノ申請書ハ受理セス
  - 一 工業品暫行條例第一條第三條ノ規定違反
  - 二 規定手数料ノ未納
- 第六條 申請書ニ添附スル説明書ニハ左記事項ヲ詳記スヘシ
  - 一 發明者又ハ改良者ノ姓名、原籍出身及ヒ經歷
  - 二 發明又ハ改良品ノ名稱
  - 三 發明又ハ改良ノ趣旨
  - 四 製造方法及ヒ所用原料ノ名稱ト產地、若シ機械類ナルトキハ其ノ構造及ヒ應用方法ヲ詳細シ詳細ナル圖樣ヲ

添附シ圖樣面ニ符號寸法ヲ註明シ並ヒニ黑色『インク』ヲ用キテ作圖スヘシ又圖樣及ヒ説明書ハ密封シテ差出シ表面ニ審査委員會直披ノ文字ヲ記スヘシ

五 請獎ノ類別(專利又ハ褒獎)

六 專利ヲ請願スル年限及ヒ範圍

第七條 獎勵ヲ申請スル者ハ其ノ見本品ヲ工商部ニ送リ考查ニ資スヘシ

第八條 申請書ニ添附スヘキ宣誓書ハ登記ヲ經タル會社ノ商號名義ヲ以テシ又ハ辯護士ノ署名捺印ヲ以テ證明ニ資スヘシ

宣誓書ノ樣式左ノ如シ

余謹ミテ宣誓ス茲ニ專利ヲ申請スル物品(又ハ方法)ハ確カニ本人ノ發明ニ係ル若シ僞稱、變造、模倣、踏襲等ノ事アラハ法律上ノ懲罰ヲ甘受ス茲ニ誓フ

宣誓者

證明者

住所

中華民國年月日

第九條 部ニ差出シタル見本品カ到着ノ時破損箇所アル場合ハ申請人ヲシテ之ヲ補足セシム

第十條 申請人ハ左記ノ規定ニ依リ手数料ヲ納付スヘシ

一 專利ノ申請 五元

二 褒賞下付ノ申請 二元

三 專利權ノ移轉申請 十元

四 專利權ノ相續申請 五元

五 專利執照遺失ノ爲再下付申請 十元

六 褒賞遺失ノ爲再下付申請 四元

第十一條 獎勵申請ニ對スル審査事項ニ關シテハ工商部ニ於テ審査委員會ヲ組織シテ之ヲ審査ス審査委員會ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 獎勵品ノ審査ニ於テ必要ナルトキハ工廠ニ員ヲ派シテ調査セシメ又ハ申請人ヲ部ニ出頭セシメテ質問シ又ハ實驗ヲナサシム實驗費ノ徵收額ハ臨時酌定ス

第十三條 獎勵品ノ審査ヲ經タル後審査委員會ハ審査書ヲ作成ス審査書ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一品ノ名

二 申請人ノ姓名又ハ工廠名

三 請獎ノ種類(專利又ハ褒獎)

- 四 專利又ハ褒獎ヲ與フルノ可否
- 五 給獎ノ類別、專利年限又ハ褒獎
- 六 審査ノ主文及ヒ理由
- 七 審査年月日

第十四條 審査書ハ專利又ハ褒獎ヲ與フルト否トニ拘ハラス均シク決裁スルニ随ツテ發表ス

第十五條 獎勵登録簿ニハ左記事項ヲ記載スヘシ

- 一 專利又ハ褒賞ノ號數
  - 二 獎勵ヲ與フル物品ノ名稱
  - 三 申請人ノ姓名、住所又ハ工廠名、其ノ所在地及ヒ其ノ資本
  - 四 登録ノ年月日
  - 五 專利權ヲ取消ストキハ其ノ事由及ヒ年月日
  - 六 專利權ヲ移轉シ又ハ相續セシムルトキハ其ノ事由及ヒ年月日
  - 七 專利權ノ執照ヲ再下付スルトキハ其ノ事由及ヒ年月日
  - 八 褒章ヲ再下付スルトキハ其ノ事由及ヒ年月日
- 第十六條 專利執照又ハ褒章カ紛失又ハ毀滅シタルトキハ直チニ三日間其ノ地ノ新聞紙ニ登載シ一箇月ヲ經タル後

登録シタル會社ノ證明書ヲ認メ再下付ヲ出願スヘシ

第十七條 專利權移轉ノ爲申請ヲナス時ハ當事者カ連署シ並ニ移轉ノ契約書ヲ添附スヘシ

專利權相續ノ申請ヲナストキハ事實ヲ證明スル文件ヲ添附スヘシ

第十八條 移轉又ハ相續ニヨリテ專利權ヲ取得シタル者執照ノ書換ヲ申請スル時ハ舊執照ヲ工商部ニ返還スヘシ  
專利權ノ移轉又ハ相續後ノ有効期間ハ從來ノ專利年限ヲ加ヘテ計算ス

第十九條 專利權ヲ有スル物品又ハ方法ノ專利年限カ終了シ又ハ本條例第十五條ノ規定ニ依リ其ノ專利權カ取消サレタルトキハ工商部ヨリ專利權者ノ姓名、物品ノ名稱又ハ方法、專利權執照ノ番號又ハ取消理由ヲ公報ヲ以テ公布スヘシ

前項ノ專利權カ取消サレタルトキハ其ノ執照ヲ工商部ニ返還スヘシ

第二十條 凡ソ本條例第十三條ノ規定ニ依リ禁止ヲ申請スル場合ハ詳細ニ模造又ハ變造ヲ發明シタル實狀ヲ記載シ並ニ模造又ハ變造品ヲ提出シテ工商部ノ検査ヲ申請スヘシ

第二十一條 本條例第十八條ニ云フ所ノ專利權者カ若シ前北京政府ノ許可シタルモノナル場合ハ其ノ執照下付ノ年月日カ該地方ノ國民政府ニ隸屬セル以前ナルモノニ限り審査ヲ申請スルコトヲ得

第二十二條 審査ヲ申請スル者ハ舊執照及ヒ審査書ニ審査費二元ヲ添附スヘシ審査ニ合格シタルトキハ舊執照及ヒ審査書ニ檢印ヲ捺捺シテ還付ス若シ審査ニ疑義アルトキハ本細則第十三條ニ依リテ辦理スルコトヲ得

第二十三條 本條例公布ノ日以後ハ各省政府、特別市政府カ處理シ來レル工業品獎勵事項ハ直チニ停止シ既ニ受理シテ未タ處理ヲ了セサルモノハ工商部ニ轉送スヘシ

第二十四條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 特種工業獎勵法

民國十八年七月三十一日公布

第一條 中華民國人民ノ經營スル工業ニシテ左ニ掲クル各款ノ一ニ該當シ成績確實ナルモノハ本法令ニ依リ獎勵ヲ申請スルコトヲ得

- 甲 基本化學工業、紡織工業、建築材料工業、機器工業、電氣器具工業及ヒ其ノ他ノ重要工業ヲ創始シタル者
- 乙 大宗貨物ヲ製造シテ國外ニ輸出スル者
- 丙 自己ノ發明ニ依リ又ハ外國人ノ發明ヲ輸入シテ一定區域内ニ於テ率先シテ製造工業ヲ經營スル者
- 丁 機械ヲ應用シ又ハ手工業ヲ改良シテ外國貨ノ代用品ヲ製造スル者

第二條 獎勵方法左ノ如シ

- 一 一定區域内ニ於テ一定年限ノ專製權ヲ有セシム但シ其ノ年限ヲ五年以内トス
- 二 一定年限ノ間國營交通事業ノ運賃ヲ減額ス但シ其ノ年限ヲ五年以内トス

三 一定年限ノ間材料稅ヲ減免ス

四 一定年限ノ間出品稅ヲ減免ス

前條ノ甲丙兩款ノ工業ハ前項一款以下各款ヲ任意選擇シ又ハ併用シ乙款ノ工業ハ前項一款以下ノ各款ヲ任意選擇又ハ併用シ丁款ノ工業ハ三、四兩款ヲ任意選擇又ハ併用スルコトヲ得

第三條 獎勵ヲ申請スル者ハ申請書ニ左ニ掲クル各項ヲ記載シ工商部ニ申請スヘシ

- 一 會社及ヒ工場ノ種類名稱
- 二 經理、董事及ヒ重要職員ノ履歷
- 三 本店、本工場並ニ分店、分工場ノ所在地
- 四 資本及ヒ其ノ種類、財産、價格又ハ評價ノ標準
- 五 會社及ヒ工場創立以來ノ經過並ニ成績
- 六 製品ノ種類及ヒ商標並ニ製造及ヒ販賣狀況
- 七 其ノ他會社及ヒ工場ニ關スル一切ノ記載物、印刷品、圖樣表冊、憑證等

第四條 工商部カ前條ノ申請書ヲ接受シタルトキハ工業獎勵審查委員會ニ交付シテ之ヲ審査セシムヘシ

前項ノ審查委員會ハ工商部及ヒ關係主管機關ノ任命スル委員ヲ以テ組織ス委員會ノ規定及ヒ審査標準ハ別ニ之ヲ定ム



國民政府の産業政策

三六一

第五條 第三條ノ申請カ審査委員會ノ審査ヲ經テ合格シタルトキハ工商部ハ獎勵ヲ認可シ執照ヲ下付シ並ニ國民政府ニ報告スルモノトス

第六條 外國ノ資本ヲ用ウル工業ハ總テ本法ノ獎勵ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國民政府工商部發給國貨證明規則

民國十七年六月十四日部令公布

第一條 凡ソ中國人民カ自ラ工廠ヲ設立シテ製造シタル工業品ニシテ外國製品ニ代用シ得ヘキモノハ直接工商部ニ申請シ又ハ地方主管機關ヲ經テ工商部ニ對シ證明書ノ下付ヲ轉請スルコトヲ得

第二條 證明書ノ下付ヲ申請セムトスル者ハ申請書ヲ認メ之ヲ製造品及ヒ説明書又ハ證憑書ト共ニ部ニ提出シテ審査ヲ求ムヘシ

第三條 工商部カ申請書ヲ接受シタルトキハ之ヲ審査ニ付シ疑義アル場合ハ員ヲ派シテ實地調査ヲ爲スコトヲ得

第四條 證明書下付ノ申請ヲナス場合ハ製造品一種毎ニ證明費二元、手續費一元ヲ豫納スヘシ

同一會社又ハ工廠カ兩種以上ノ工業製品ニ就キ同時ニ申請ヲナス場合ハ手續費ハ唯一回徴收シ證明書費用ハ審査不合格ノ場合之ヲ返還ス

第五條 審査合格ノ場合ハ國貨證明書ヲ下付シ並ニ工商部公報ニヨリテ公布ス

第六條 凡ソ工商部ノ國貨證明書ヲ下付セラレタル者ハ之ヲ廣告ニ挿入スルコトヲ得

第七條 工商部ノ證明書ヲ下付セラレタル工業製品ハ工商部又ハ其ノ他ノ主管官廳隨時之ヲ検査スルコトヲ要ス

第八條 自ラ工廠ヲ設ケテ製造シタル物品ニアラスシテ之ヲ國貨ト詐稱シタルカ爲ニ告發セラレ又ハ查出セラレタル者ハ法規ニ從ツテ懲罰シ又ハ該物品ヲ沒收ス

第九條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國貨證明書

會社ノ呈稱ニ據ル  
工廠ノ呈稱ニ據ル

茲ニ  
工業製品  
商標  
ハ純粹ノ國貨ナレハ證明書下付セラレタシトノ申請アリ本部詳ニ之ヲ審査セルニ確實ニ國貨ニ係ル依ツテ特ニ證明書ヲ下付シテ憑トス  
國民政府工商部部長  
工業司司長  
商業司司長

中華民國 年 月 日

工業司司長  
商業司司長

第六章 産業關係法令

國貨證明書

會社ノ呈稱ニ據ル  
工廠ノ呈稱ニ據ル

茲ニ  
工業製品  
商標  
ハ純粹ノ國貨ナレハ證明書下付セラレタシトノ申請アリ本部詳ニ之ヲ審査セルニ確實ニ國貨ニ係ル依ツテ證明書ヲ下付シ之ヲ留メテ存査ス  
國民政府工商部部長  
工業司司長  
商業司司長

中華民國 年 月 日

字第

號

三六三

### 工業品獎勵審査委員會規則

民國十七年七月十六日工商部令公布

- 第一條 工業品獎勵審査委員會ハ工業品獎勵暫行條例施行細則第十一條ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス
- 第二條 審査委員會ノ委員數ハ十一名乃至十五名ト定メ部長ニ於テ工業上ノ學識ヲ有スル部員ヨリ選任シテ兼務セシム但シ工業司司長、技術處主任ハ當然委員ト爲ス
- 必要アル時ハ臨時委員ヲ聘任シ又ハ選任スルコトヲ得
- 第三條 獎勵ヲ申請スル者ノ申請書及ヒ説明書カ部ニ到達シ工業司カ手續完備スト認メタル時ハ直チニ審査委員會ニ送付スヘシ
- 第四條 審査委員會ハ工業司司長毎月二日之ヲ召集シ必要アル時ハ臨時開議ヲ開クコトヲ得開會ノ時ハ工業司司長ヲ以テ主席トス
- 第五條 審査委員會ノ議事日程及ヒ議事ノ概要書ハ開會三日前ニ各委員ニ分配スヘシ
- 第六條 審査委員會開會ノ時ハ工業品獎勵暫行條例施行細則第六條ニ列擧スル各款ヲ審査事項ト爲シ密封呈遞シテ封書面ニ審査委員直披ト註明セル文書ハ開會ノ時主席之ヲ開封ス
- 第七條 審査ノ初メニ於テハ專門委員ヲ指定シ之ヲ審査セシムルコトヲ得

專門委員審査ノ時ハ工業品獎勵暫行條例施行細則第二條ノ規定ニ依リ辦理ス

- 第八條 專門委員カ審査ヲ完了シタル時ハ審査書草案ヲ作成シテ主席ニ提出スヘシ
- 第九條 主席カ審査書草案ヲ收受シタルトキハ次回ノ議事日程ニ編入シ議決ノ後部長ニ提出スヘシ
- 第十條 審査委員會開會ノ時ハ全體委員ノ過半數ノ出席及ヒ出席委員ノ過半數ヲ以テ議決シ可否同數ナルトキハ決テ主席ニ取ル

第十一條 審査委員會ニハ議事録ヲ備ヘテ審査ノ經過狀況ヲ記載シ出席委員署名捺印スヘシ

第十二條 工業品獎勵暫行條例施行細則第二十二條ノ審核事項ハ本規則各項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 本規則未タ事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ工業品獎勵暫行條例施行細則ノ各規定ニ依リテ辦理ス

第十四條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 查驗商標註冊證暫行章程

民國十七年十二月二十四日

- 第一條 民國十六年五月以前北京商標註冊局ニ於テ註冊シタル商標ハ既ニ註冊條例ニ依リ全國註冊局ニ向ツテ註冊ヲ補行シ註冊證ヲ受領シタル者ノ外本章程公布ノ日ヨリ六箇月以内ニ舊註冊局ニ差出シ驗査ヲ受クヘシ
- 前項ノ驗査費ハ一件ニツキ十元トシ之ヲ申請書ニ添附シテ納付スヘシ但シ聯合商標ニツキテハ半額ヲ納付スルモ

ノトス

- 第二條 註冊證ノ検査ヲナシタルトキハ商標局ノ検査簿ニ記入シ並ニ商標公報ニ登載シ舊註冊簿ニ捺印シテ返還ス
- 第三條 第一條ニ依ル商標註冊證ハ申請人ノ請求ニヨリ新證ト取替下付ス但シ書替費二元印花税一元ヲ納付スヘシ
- 第四條 検査ヲ受クル爲ニ差出シタル商標カ全國註冊局ニ註冊セル商標ト相同シキトキハ商標局ノ指令アリタル後申請人ヨリ商標法第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ニ依リ全國註冊局ニ註冊シタル商標ニ對シ審査ヲ請求スルコトヲ得

第五條 民國十六年五月以前ニ於テ北京商標局ノ審査書ヲ領有セル者ハ本章程公布ノ日ヨリ六箇月以内ニ商標局ニ申請シテ第二十六條第二項ノ公報登載及ヒ許可ノ手續ヲ補行スルコトヲ得

前項ノ申請ハ商標法施行細則第三十四條第一項ニ規定シタル註冊費ノ四分ノ一ヲ納付シ並ニ同細則第三十五條ニ依ル公費ハ均シク同時ニ附加納付スヘシ

第六條 第五條ニ依リ補行手續ヲ審査スル商標ノ審査書カ全國註冊局註冊ノ商標ト相同シキカ又ハ近似シタルトキハ商標局之ヲ却下シ收納シタル四分ノ一ノ註冊費ヲ返還ス

申請人ハ前項ノ却下セラレタル審査書ニツキ商標法第二十七條ノ規定ニ依リ再審査ヲ申請スルコトヲ得

第七條 民國十六年五月一日以後北京商標局ノ下付シタル註冊證及ヒ審査書ハ一律ニ無効トス但シ製造所又ハ本店所在地カ河北、山東、東三省、察哈爾、綏遠、熱河、北平等ノ省市ナル場合其ノ受領セル註冊證又ハ審査書ノ日

附カ該地ノ國民政府ニ隸屬セル以前ニ在ルモノハ從前通り本章程ノ各規定ヲ適用ス

第八條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 修正商品出口檢驗局暫行章程

第一條 商品出口檢驗局ハ檢驗暫行規則第二條ニ依據シテ之ヲ組織ス

第二條 商品出口檢驗局ハ各所在地名ヲ冠シテ之ヲ區別ス

第三條 商品出口檢驗局ハ輸出商品一切ノ檢驗事務ヲ掌理ス

第四條 商品出口檢驗局ハ前條ノ事務ヲ處理スル爲分局ヲ設クルコトヲ得

- 一 事務 毎局一處ヲ設ケテ文牘、會計、庶務、統計、編輯及ヒ輸出商品ノ監視、調査等ノ事項ヲ處理スルコトヲ得
- 一 檢驗 毎局一種ノ商品毎ニ一處ヲ設ケテ各別ニ檢驗暫行規則第三條所列ノ各項檢驗職務ヲ執行スルコトヲ得

第五條 商品出口檢驗局ニ局長副局長各一人ヲ置キ（事務ノ簡散ナル局ハ副局長ヲ置カス）工商部ノ命ヲ承ケテ全局ノ事務ヲ總理ス

第六條 商品出口檢驗局ハ事務處主任一人、秘書一人乃至二人、檢驗處主任、副主任若干人ヲ置キ（事務ノ簡散ナル局ハ秘書ヲ置カス）局長ノ命ヲ承ケテ其ノ職務ニ分任シ必要アル時ハ外國技師ヲ雇用シ及ヒ専門家ヲ僱聘シテ名譽顧問ト爲スコトヲ得

第七條 局長、副局長ハ工商部之ヲ委派シ事務處主任ハ工商部之ヲ派充シ檢驗處主任ハ工商部專家ヲ選擇シテ派充シ副主任ハ工商部ニ於テ一種ノ商品毎ニ同業者中ヨリ之ヲ選委ス事務員及ヒ檢驗員ハ局長ヨリ委任シテ工商部ニ報告ス

第八條 商品輸出檢驗局ハ記帳又ハ其ノ他ノ事務ノ爲適宜雇員ヲ採用スルコトヲ得

第九條 檢驗及ヒ辦事細則ハ別ニ工商部々令ヲ以テ各別ニ之ヲ定ム

第十條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 工商部上海商品檢驗局棉花檢驗處檢驗細則

民國十八年三月二十七日公布

第一條 本細則ハ商品出口檢驗暫行細則第三條第二類、第七條及ヒ商品出口檢驗局暫行章程第九條ノ規定ニ依據シテ之ヲ制定ス

第二條 上海ヨリ輸出スル棉花ハ均シク本細則ノ規定ニ從ヒ法規ニ依ル検査ヲ申請シ合格シテ證書ヲ下付セラレタル後ニアラサレハ海關ニ對シ輸出ヲ申告スルコトヲ得ス

第三條 上海特別市及ヒ其ノ附近ニ在ル各紡績工場ハ其ノ使用スル棉花又ハ同業者カ相互ニ賣買スル棉花ノ検査ヲ希望スルトキハ均シク檢驗局ニ對シ法規ニ依ル検査ヲ申請スルコトヲ得

第四條 檢驗局ノ棉花検査ハ當分ノ中含水量百分ノ十二ヲ標準トシ百分ノ十五ヲ合格トシ濕度百分ノ十五ヲ超過シ又ハ他種物質ヲ混入スルモノハ不合格ト認メ證書ヲ下付セス又海關ニ對スル輸出申告ヲ許可セス

第五條 商店又ハ商人カ検査ヲ申請スルトキハ商店所在地又ハ商人ノ住所、商標、荷物、筒數、品質、產地、數量、倉庫名稱及ヒ地點並ニ積出日、仕向地等ヲ請求書ニ記入シ検査費ヲ添へ檢驗局ニ差出し受領證ノ交付ヲ受ケテ局ヨリ員ヲ派シ見本ヲ取リテ検査スルヲ待ツヘシ

第六條 檢驗局ノ見本選擇手續左ノ如シ

- 一 布包席包ノ繰綿ハ百擔ニツキ見本四筒ヲ取り一筒約一磅トシ百擔未滿ノモノ亦百擔ニ按シテ計算シ百擔ヲ超過スルトキハ同一割合ヲ以テ遞加ス
- 二 機械ヲ以テ梱包セル大包ハ百包ニツキ四包ヲ開キテ見本四筒ヲ取り每筒約二封度トシ百包未滿ノモノハ百包ニ按シテ計算シ百包ヲ超過スルトキハ同一割合ヲ以テ遞加ス
- 三 見本ノ選擇ハ本局員ノ任意トシ検査申請人自ラ指定スルコトヲ得ス
- 四 見本棉花ヲ取りタル荷物ハ見本選擇係員捺印シテ識別ニ資スルモノトス
- 五 見本棉花ヲ取ルトキハ規定シタル數量ニ從フコトヲ要シ多量ヲ取ルコトヲ得ス違反者ハ検査申請人ノ報告ニヨリ處罰ス
- 六 見本選擇係員カ見本棉花ヲ取リテ筒内ニ收メタルトキハ直チニ封條ヲ以テ之ヲ封シ袋ニ入レテ口ヲ結ヒ並ニ

封蠟ヲ施シテ捺印シ以テ流弊ヲ防クヘシ

第七條 檢驗局ノ棉花検査ハ棉花検査申請書ヲ受理シテ手續ヲ運ヒ見本開裝後二日以内ニ完了スヘシ但シ日曜日及ヒ其ノ他ノ休日アルトキハ順次之ヲ延長スルコトヲ得

第八條 検査ヲ經テ合格シタル棉花ハ棉花檢驗所主任捺印後局長ニ申請シテ證書ヲ下付シ不合格品ハ主任及ヒ検査員ニ於テ検査書ニ捺印シテ責任ヲ明ニス

第九條 檢驗局ノ下付シタル合格證書ハ當分一箇月ヲ有効期間トシ期間經過後ハ無効トス但シ正當ノ理由アルトキハ一箇月ノ延期ヲ申請スルコトヲ得

第十條 商人ハ檢驗局ニ對シ検査ヲ受ケタル棉花ノ合格セルト否トニ拘ハラズ再検査ヲ申請スルコトヲ得但シ第一回検査完了後三日以内ニ局ニ對シテ申請スルコトヲ要ス再検査ハ一回ヲ以テ限リトシ費用ヲ徴收セス

第十一條 再検査ヲナス棉花ハ別ニ員ヲ派シテ見本ヲ取ラシメ検査ヲ監督ス

第十二條 本細則第二條ノ規定ニ依リ検査ヲ行フヘキ棉花ハ百斤ニツキ検査費銀六分ヲ徴收シ本細則第三條ノ規定ニ依リ検査ヲ行フ棉花ハ百斤ニツキ検査費銀二分ヲ徴收ス商人ノ納入シタル検査費ハ検査ノ合格スルト否トニ拘ハラズ之ヲ返還セス

第十三條 検査ニ合格シタル棉花ノ中、小包ヲ大包ニ改裝セムトスルトキハ申請書ニ輸出證書ヲ添附シ改裝事由ヲ述ヘテ局ニ申請シ局ハ事實ヲ調査シタル後員ヲ派シテ改裝ヲ監視シ證書ノ書替ヲナスモノトス

第十四條 商人カ検査ノ時贈賄シ検査ノ後證書ヲ改竄シ又ハ検査員ニ收賄瀆職ノ行爲アルトキハ檢驗局ハ之ヲ法院ニ交付シ法ニ據リ處斷スルコトヲ得

第十五條 商人カ検査ヲ經タル棉花ヲ任意ニ移動シ又ハ數量ヲ變更スルノ事實アルトキ檢驗局ハ之ヲ三百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第十六條 工商部カ他ノ土地ニ設ケタル商品檢驗局ノ検査ヲ經テ證書ヲ下付セラレタル棉花ヲ該證書發給ノ日ヨリ一箇月以内ニ上海ヨリ輸出セムトスルトキハ上海檢驗局ニ對シテ再検査ヲ申請シ合格シタルトキ證書ノ書替ヲナシ費用ハ徴收セス不合格ノ場合ハ法規ニ依リ輸出ヲ許可セス再検査ノ場合見本ノ數量ハ第六條規定ノ半數トス

第十七條 本細則事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

第十八條 本細則ハ工商部カ認可シテ公布スヘキ日ヨリ之ヲ施行ス

### 工商部上海商品檢驗局牲畜正副產品檢驗處檢驗細則

民國十八年六月二十二日修正公布

第一條 本細則ハ商品出口檢驗暫行規則第三條第七款及ヒ第七條並ニ商品出口檢驗局暫行章程第九條ノ規定ニ依據シテ之ヲ制定ス

第二條 上海ヨリ外國ニ輸出スル牲畜(家畜)ノ正副產物ハ均シク本細則ノ規定ニ從ツテ法規ニ依ル検査ヲ申請シ

檢驗局カ合格ト認メ證書ヲ發給シタル後方メテ稅關ニ申告シテ輸出スルコトヲ得

第三條 前條ニ指定スル牲畜ノ正副産物ハ其ノ類別ヲ暫ク左ノ如ク定ム

- 一 肉（『ハム』、凍肉、罐詰肉類等）
- 二 油（豚油、牛油、羊油等）
- 三 腸詰（豚腸詰、牛腸詰、羊腸詰等）
- 四 蛋類（禽鳥類ノ卵）及ヒ同上製品
- 五 生牛皮

第四條 貨物輸送商店又ハ商人カ檢驗ヲ申請スル時ハ先ツ檢驗申請者ノ姓名又ハ商號、商人ノ住所又ハ商店ノ所在地、貨物ノ種類及ヒ重量、商品ノ記號及ヒ數量、輸出月日、積込船名、仕向地、荷受人ノ姓名又ハ商號等ヲ申請書ニ記入シ檢驗費ト共ニ局ニ差出スヘシ局ハ之ニ對シ領收證ヲ交付シ員ヲ派シテ檢驗シ合格ト認メタルモノハ其ノ裝釘ヲ監視シテ證書ヲ交付ス

第五條 檢驗費ハ一回ニ徵收スヘク其ノ標準左ノ如シ

甲 肉、油、腸詰類

- 一 『ハム』ハ封度ヲ以テ計リ百封度ニツキ國幣一元ヲ徵收ス端數アル場合ハ十封度ヲ増ス毎ニ國幣一角五分ヲ徵收シ十封度ニ足ラサルモノハ十封度ヲ以テ計算ス

- 二 凍肉ハ封度ヲ以テ計算シ百封度ニツキ國幣六角ヲ徵收シ百封度ニ足ラサルモノハ百封度ヲ以テ計算ス
- 三 罐詰肉類ハ封度ヲ以テ計算シ百封度ニツキ國幣二角五分ヲ徵收シ百封度ニ足ラサルモノハ百封度ヲ以テ計算ス

- 四 豚油ハ封度ヲ以テ計算シ百封度ニツキ國幣四角ヲ徵收シ百封度ニ足ラサルモノハ百封度ヲ以テ計算ス
- 五 腸詰ハ擔（百斤）ヲ以テ計算シ豚腸詰ト羊腸詰ハ擔ニツキ各國幣二元五角ヲ徵收シ、牛腸詰ハ擔ニツキ國幣一元ヲ徵收シ乾豚、羊腸詰ハ各擔ニツキ國幣二元ヲ徵收シ其ノ一擔ニ足ラサルモノハ均シク一擔ヲ以テ計算ス

乙 蛋類及ヒ其ノ製品

- 一 凍蛋ハ擔ヲ以テ計算シ擔ニツキ國幣三分ヲ徵收ス
- 二 濕蛋ハ擔ヲ以テ計算シ擔ニツキ國幣三分ヲ徵收ス
- 三 乾蛋ハ擔ヲ以テ計算シ擔ニツキ國幣一角二分ヲ徵收ス
- 四 生蛋ハ數ヲ以テ計算シ千箇ニツキ國幣二分ヲ徵收ス

丙 生皮類

- 一 牛皮ハ擔ヲ以テ計算シ十擔ニツキ國幣五元五分ヲ徵收シ十擔ニ足ラサルモノハ十擔ヲ以テ計算ス

第六條 牲畜正副産物ノ輸出ヲ經營スル商店又ハ商人ハ檢驗ヲ申請スル商品ニ對シ左ノ諸點ニ注意スヘシ

- 一 『ハム』、凍肉、罐詰肉類、豚油等ハ健康無病ノ牲畜ノミヨリ取り各地衛生局又ハ檢驗局ニ於テ屠殺前及ヒ屠殺後ノ檢驗ヲ經タル後ニ製造シ製造ノ時ハ清潔法ニ注意シ雜質及ヒ使用ヲ禁セラレタル化學品ヲ混入スルコトナク衛生ニ合セシムルコトヲ要ス
- 二 各種ノ腸詰ハ健康無病ノ牲畜ヨリ取り各地衛生局又ハ檢驗局ノ嚴密ナル検査ト法規ニ依ル消毒ヲ經決シテ破裂腐爛シ又ハ病狀ノ顆粒アラシメス又ハ一部カ厚キニ過キ或ハ薄キニ過クル等ノ弊アラシメサルコトヲ要ス
- 三 蛋類ハ種類ト大小トニ依リ荷造ヲ區別シ破碎、腐敗、軟殼、怪形アリ及ヒ其ノ他ノ物質ヲ混入スル等ノ事アルヲ得ス蛋類製品ノ製造及ヒ包裝ハ衛生ニ適合セシメ雜物及ヒ使用ヲ禁止セル化學品ヲ混スルコトヲ得ス
- 四 牛皮ハカメテ整潔ヲ求メ惡臭及ヒ病菌アラシメサルコトヲ要ス
- 第七條 牲畜正副產物ノ輸出業ヲ經營スル商店ハ均シク先ツ檢驗局ニ出頭シテ登記シ檢驗局ヨリハ隨時其ノ製造所ニ獸醫ヲ派遣シテ視察指導シ並ニ檢驗ノ必要ニヨリ各製造所ヨリ無代ニテ材料ヲ取ルコトヲ得但シ其ノ分量ハ試驗ノ必要量ヲ限度トスヘシ
- 第八條 檢驗局ノ檢驗順序ハ檢驗申請ノ前後ヲ以テ定メ檢驗手續ハ遅クモ檢驗申請書ノ受付後二日以内ニ施行ヲ完了スルコトヲ要ス但シ日曜日及ヒ其ノ他ノ休日ニ遇フトキハ順次之ヲ延長スルコトヲ得
- 第九條 檢驗局ノ檢驗ニ合格シタル商品ニ對シテハ牲畜正副產物檢驗主任ヨリ署名捺印シテ局長ニ證書ノ發給ヲ申

- 請シ不合格ノ商品ニ對シテハ主任及ヒ檢驗員ニ於テ檢驗書ニ捺印シ以テ責任ヲ明ニス
- 第十條 商人カ檢驗ノ時賄賂ヲ行使シ檢驗後證書ヲ改竄シ又ハ檢驗人員カ收賄瀆職等ノ事アリテ證據確實ナルトキハ局ヨリ法院ニ移送シ法ニ依リ處斷ス
- 第十一條 商店又ハ商人カ商品ノ檢驗ヲ受ケタル後數量ヲ變更シ不良品ヲ混合スル等ノ弊アリ發覺シテ實證アルトキハ三百元以下ノ罰金ニ處ス
- 第十二條 檢驗局カ検査ヲ終リテ封印シタル箱、桶又ハ罐等ハ海關ニ申告スル以前ニ於テハ本局長官ノ許可ヲ經ルニアラサレハ開啓スルコトヲ得ス之ニ違反シタルトキハ再ヒ檢驗ヲ行ヒ並ニ本規則第五條ノ規定ニ從ツテ費用ヲ徵收ス
- 第十三條 本規則未タ事宜ヲ盡ササルモノアルトキハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得
- 第十四條 本規則ハ工商部カ認可公布シタル日ヨリ施行ス

### 國民政府工商部工業技師登錄暫行條例

民國十七年六月十四日部令公布

- 第一條 左ニ列舉スル資格ノ一ヲ有スル者ハ本條例ニ依リ登錄ヲ申請シテ工業技師ト爲ルコトヲ得
  - 一 國內外ノ大學又ハ高等專門學校ニ在リテ工業專門ノ學科ヲ修習スルコト三年以上ニシテ卒業證書ヲ有シ並ニ

- 二年以上實習ノ證明ヲ有スル者
- 二 曾テ中等教育ヲ受ケ並ニ工業各場所ノ技術事項ヲ辦理スルコト通算十年以上ニシテ成績優秀ナル者
- 三 工業各場所ノ技術事項ヲ辦理シテ製造方法ヲ改良シ又ハ國家及ヒ社會ニ特殊利益ヲ與フルモノト認めラル、發明又ハ著作ヲナセル者

第二條 工業技師ハ左記各專科ヲ以テ限リト爲ス

- 一 土木工工程科
- 二 機械科
- 三 電氣科
- 四 應用化學科
- 五 冶金科
- 六 建築科
- 七 造船科
- 八 紡織科
- 九 其ノ他工程ニ關スル各科

第三條 登録ヲ申請スル者ハ申請書ヲ認メ並ニ本條例第六條及ヒ第十二條ノ規定ニ依リ證書、物件及ヒ登記料ヲ

添附スヘシ右ノ豫納登録費ハ審査不合格ノ場合之ヲ返付ス

第四條 工業技師ノ登録事項ニ關シテハ審査委員會之ヲ審査ス

第五條 前條審査委員會ハ工業司々長及ヒ部長ノ任命セル技術員四名乃至六名ヲ以テ組織シ必要アルトキハ部長ヨリ工業専門家ヲ招聘シテ委員ト爲スコトヲ得

審査委員會ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第六條 登録ヲ申請スル者ハ各別ニ左記ノ書類及ヒ物件ヲ提出スヘシ

- 一 卒業證書
- 二 經驗證明書
- 三 發明又ハ製造方法ノ改良證憑
- 四 専門學科ニ關スル著作

第七條 前條ノ書類及ヒ物件ノ審査ニ於テ疑問ノ存スル時ハ申請人ニ通知シテ之ヲ補足セシムル外登録申請者ヲ部ニ出頭セシメテ之ヲ試験シ又ハ技術問題ヲ指定シ口頭又ハ文書ヲ以テ回答セシムルコトヲ得

第八條 審査ニ合格シタル者ニ對シテハ審査委員ヨリ部長ニ申請シ工業技師登録證ヲ下付シ並ニ本部公報ニ登載ス

第九條 登録ヲナシタル工業技師カ業務ヲ開始スルトキハ本部ニ向ツテ左記各項ヲ報告スヘシ

一 姓名、年齢、原籍、住所

第六章 産業關係法令



- 二 出身
- 三 經驗
- 四 技師登録證號數及ヒ許可年月日
- 五 技師事務所所在地
- 第十條 技師登録後工業上ノ設計、化學試驗建築及ヒ改良指導ノ事業ヲ辦理スル委託ヲ受クルコトヲ得
- 第十一條 技師カ前條ノ各事務ノ委託ヲ受ケ委託者ト契約ヲ爲ストキハ相當ノ報酬ヲ受領スルコトヲ得
- 第十二條 登録ヲ申請スルトキハ登録費三十元ヲ納付スヘシ
- 第十三條 登録證ヲ遺失シタルトキハ再下付ノ申請ヲ爲スコトヲ得但シ手續費十元ヲ納付スヘシ
- 第十四條 登録ヲ經スシテ擅ニ工業辦理ノ委託ヲ受ケタル者カ告發セラレ又ハ查出セラレタル時ハ本部ハ之ニ對シ停業ヲ命令シ並ニ法院ヨリ三百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得
- 第十五條 技師カ事務ヲ辦理シテ不正當ノ行爲アル時ハ法院ノ判決ヲ經テ其ノ登録ヲ抹消スルコトヲ得
- 第十六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 工業技師審査委員會規則

民國十七年七月七日國民政府工商部令公布

- 第一條 審査委員會ハ工業技師登録暫行條例第五條ノ規定ニ依リ之ヲ組織ス
- 第二條 審査委員會ヘ工業司々長ヨリ隨時召集シ開會ノ時ハ工業司々長ヲ以テ主席トス
- 第三條 審査委員會ノ議事日程及ヒ議案ノ概要ハ開會前三日各委員ニ分配ス
- 第四條 審査委員會開會ノ時ハ全體委員ノ過半数ノ出席並ニ出席委員過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ議決シ可否同數ナル時ハ決テ主席ニ取ル
- 第五條 審査委員會ニハ議事録ヲ備ヘ審査ノ經過狀況ヲ記載シ出席委員ハ署名捺印シテ責任ヲ明ニスヘシ
- 第六條 其ノ他ノ審査事項ハ總テ工業技師登録暫行條例第七條、第八條ノ規定ニヨリ辦理スヘシ
- 第七條 本規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 技師登録法

民國十八年六月二十八日公布

- 第一條 技師タラムトスル者ハ本法ニ依リテ登録ヲ申請スヘシ
- 第二條 本法ニテ技師ト稱スル者ハ左ニ掲クル三種トス

- 一 農業技師
- 二 工業技師

三 鑛業技師

第三條 農業技師ハ左記各科ノ専門ニ分ツ

- 一 農科
- 二 林科
- 三 農藝科學科
- 四 蠶桑科
- 五 水産科
- 六 牧畜獸醫科
- 七 其ノ他農業ニ關スル各科

工業技師ハ左記各科ノ専門ニ分ツ

- 一 應用化學科
- 二 土木科
- 三 電氣科
- 四 機械科
- 五 紡織科

六 其ノ他工業ニ關スル各科

鑛業技師ハ左記各科ノ専門ニ分ツ

- 一 探鑛科
- 二 冶金科
- 三 應用地質科
- 四 其ノ他鑛業ニ關スル各科

第四條 左ニ掲クル各項ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ所轄官署ニ對シ技師登録ノ申請ヲナスコトヲ得

- 一 國外内ノ大學又ハ高等専門學校ニ於テ三年以上農工鑛専門學科ヲ學修シテ卒業證書ヲ有シ並ニ二年以上實習ノ經驗アリテ其ノ證明書ヲ有スル者
- 二 試験ヲ受ケテ合格シタル者
- 三 農工鑛各工場ノ技術事項ヲ辦理シテ製造方法ノ改良又ハ發明ノ業績アル者又ハ専門學科ニ關スル著述アリテ審査ニ合格シタル者

第五條 左ニ掲クル各項ノ一ニ該當スル者ハ登録ヲ申請スルコトヲ得ス既ニ登録ヲ經タルモノハ之ヲ取消シ技師證書ヲ取上ク

- 一 業務上ノ過失又ハ技術ノ未熟ニ原因シテ他人ニ損害ヲ與ヘタル者

二 業務ノ執行ニ關シテ違法行爲アリタルコトノ證據確實ナル者

第六條 技師ノ登録ハ主管各部ニ於テ之ヲ行フ

第七條 技師ノ資格審査ハ主管各部ノ任命シタル専門委員ノ組織セル技師審査委員會之ヲ行フ技師審査委員會規則ハ各部ニ於テ之ヲ定ム

第八條 登録申請人ハ申請書ニ四寸ノ半身寫眞ヲ添附シ左ノ書類ヲ提出スヘシ

一 學校卒業證書

二 經驗證明書

三 發明又ハ製造改良ノ證憑書

四 専門學科ニ關スル著述

五 試験合格又ハ其ノ他ノ成績證明書

第九條 前條ノ書類ヲ審査シテ疑問ヲ發生シタルトキハ申請人ニ對シ文書ノ補足ヲナサシムル外其ノ出頭ヲ命ジテ試験ヲ行フコトヲ得

第十條 技師審査合格者ニハ主管各部ヨリ技師證書ヲ下付シ政府公報ニ登載シ並ニ考試院ニ報告スヘシ  
技師證書ノ形式ハ各部ニ於テ之ヲ定ム

第十一條 登録申請人ハ登録費及ヒ證書費各十元ヲ納付スヘシ

前項ノ證書費ハ審査不合格ノ場合之ヲ返還スヘシ

第十二條 技師證書ヲ遺失シタルトキハ再下付ヲ申請スルコトヲ得但シ再下付證書費十元ヲ納付スヘシ

第十三條 本法ニ依リ技師證書ヲ下付セラレタル者ハ事務所ヲ設立シテ業務ヲ執行スルコトヲ得但シ事務所ヲ設立スルトキハ所在地ノ主管官署ニ左記事項ヲ届出ツヘシ

一 姓名、年齢、本籍、住所

二 出身

三 經歷

四 技師登録番號及ヒ證書下付年月日

五 事務所所在地

第十四條 技師證書ヲ下付セラレタル者ハ委託ヲ受ケテ技術上ノ設計、實施及ヒ技術ニ關スル各種ノ事務ヲ辦理スルコトヲ得

第十五條 技師カ各種ノ技術事務ヲ辦理スルトキ法規ニ違反スル行爲アル場合ハ之ヲ登録シタル官署ハ其ノ登録ヲ抹消シ並ニ其ノ證書ヲ取上クルコトヲ得

第十六條 登録ヲ經スシテ擅ニ委託ヲ受ケテ各種ノ技術事務ヲ辦理スル者ハ所轄官署ハ之ニ業務停止ヲ命ジ並ニ二百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得

第十七條 本法施行期日及ヒ施行規則ハ行政院之ヲ定ム

### 會計師章程

民國十八年四月二日公布

#### 第一章 職 務

第一條 會計師ハ商工部又ハ其ノ他ノ官廳公署ノ命令ヲ受ケ及ヒ當事者又ハ其ノ他ノ關係人ノ委託ヲ受ケテ會計ノ組織、管理、檢査、調査、整理、清算、證明、鑑定、公斷及ヒ和解ニ關スル各項ノ事務ヲ辦理ス、會計師ハ檢査員、清算人、破産管財人、遺言執行人及ヒ其ノ他各種信託人ニ就任スルコトヲ得

會計師ハ當事者ノ委託ヲ受ケテ納稅事務、登録手續ヲ代辦シ並ニ會計及ヒ商事ニ關スル各種文件ノ代理起草ヲナスコトヲ得

第二條 合名會社以外ノ一切ノ會社カ決算期毎ニ工商部ニ提出スヘキ各種營業書表ニ均シク會計師ノ審査證明書ヲ添附スヘシ

第三條 會計師カ工商部ノ命令ヲ受ケテ事件ヲ辦理スルトキハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス但シ事情ヲ酌量シテ相當ノ車馬賃又ハ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第四條 會計師ハ工商部ノ監督ヲ受ク

#### 第二章 資 格

第五條 會計師ハ左ニ掲クル各資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 中華民國人民ニシテ年齢二十五歳以上ナル者

二 會計師試験又ハ本章程第八條ニ定ムル試験免除ノ審査ニ合格シタル者

第六條 會計師試験ハ工商部ニ設置シタル會計師試験委員會之ヲ行フ委員會ハ工商部商業司司長ヲ主席トス會計師試験委員會ハ當然委員及ヒ聘任委員ヲ以テ之ヲ組織ス

財政部會計司司長、工商部主席參事、商業司司長及ヒ商業司註冊科科長ヲ當然委員トシ其餘ノ聘任委員ハ工商部長ヨリ考試院、監察院、司法行政部ニ各一人ヲ派遣ナスルコトヲ要求シ並ニ大學會計學教授及ヒ學識經驗ニ豐富ナル會計師各一人ヲ聘請シテ之ヲ任命ス

第七條 左ニ掲クル各項ノ一ニ該當スル者ハ會計師試験ニ應スルコトヲ得

一 國內外大學又ハ專門學校商科又ハ經濟科ニ於テ三年以上ノ業ヲ修メテ卒業證書ヲ有スル者

二 國立又ハ教育部ノ認可シタル中學以上ノ學校ヲ卒業シ會計師助理員トナリ又ハ工商部ノ合格ト認めタル企業機關、官廳、公署又ハ公務機關ニ在リテ會計事務員タルコト二年以上ニシテ辦理善良ノ證明書ヲ有スル者

第八條 左ニ掲クル各項ノ一ニ該當スル者ハ工商部ノ審査ヲ經テ試験ヲ免除スルコトヲ得

一 曾テ會計師トナリ事故又ハ本章程第十八條、第十九條ノ事由ニ因リ自ラ資格ノ停止ヲ届出テ又ハ登録ヲ取消